

平成 30 年度
名古屋市立大学大学院薬学研究科
自己点検・評価報告書

2018

目次

1	博士学位取得者	1
2	修士学位取得者	4
3	講演会等（2018年1月から2018年12月）	8
4	研究業績目録（2018年1月から2018年12月）	18
	薬化学分野	19
	精密有機反応学分野	23
	薬品合成化学分野	26
	機能分子構造学分野	28
	生体超分子システム解析学分野	29
	コロイド・高分子物性学分野	31
	生命分子構造学分野	34
	分子生物薬学分野	47
	薬物送達学分野	49
	生薬学分野	53
	衛生化学分野	60
	遺伝情報学分野	62
	細胞分子薬効解析学分野	64
	病態生化学分野	68
	薬物動態制御学分野	71
	病態解析学分野	73
	細胞情報学分野	74
	神経薬理学分野	77
	医薬品安全性評価学分野	82
	病院薬剤学分野	85
	臨床薬学分野	91
5	科学研究費等補助金	97
6	新聞報道等（2018年1月から2018年12月）	109
7	進路および就職状況	115
8	在籍者名簿	119

1 博士学位取得者

学位記 番号	博士の専 攻分野の 名称	博士の学位を授与された者		博士課程の修了等の状況		主論文名	授与 年月日	主査	副査 (指導 教員)	副査	副査	副査
		(ふりがな) 氏名	性別	大学院名	研究科 (専攻)名							
甲第 337号	博士 (薬学)	(たかぎ みちよ) 高木 三千代	女	名古屋市立大学 大学院	薬学研究科 医療機能薬学専攻	肥満による脂肪細胞の機能低下を改善する天然物の探索と機序解析	H30.3.31	肥田 重明	木村 和哲	白根 道子	牧野 利明	—
甲第 338号	博士 (薬学)	(みずかみ ともはる) 水上 智晴	男	名古屋市立大学 大学院	薬学研究科 医療機能薬学専攻	精神神経疾患の発症・増悪化に関与するタンパク質の機能解明	H30.3.31	星野 真一	服部 光治	糸 和彦	田中 正彦	—
甲第 339号	博士 (薬科学)	(ほり えいせい) 堀 英生	男	名古屋市立大学 大学院	薬学研究科 創薬生命科学専攻	2型糖尿病における血管障害およびアディポネクチンに対するstatinの影響	H30.3.31	青山 峰芳	松永 民秀	木村 和哲	頭金 正博	—
甲第 340号	博士 (薬科学)	(くにえだ かずき) 國枝 一輝	男	名古屋市立大学 大学院	薬学研究科 創薬生命科学専攻	阻害剤スクリーニングを志向したPAD活性検出蛍光プローブの開発	H31.3.25	中川 秀彦	樋口 恒彦	中村 精一	牧野 利明	—
甲第 341号	博士 (ナノメディ ン科学)	(たけうち たかお) 竹内 堂朗	男	名古屋市立大学 大学院	薬学研究科 共同ナノメディン科学専攻	金ナノ粒子および金ナノクラスターを基盤としたナノメディン創薬	H31.3.25	山中 淳平	尾関 哲也	平嶋 尚英	出羽 毅久 (名工大)	—
甲第 342号	博士 (薬科学)	(やまだ あきひろ) 山田 彬博	男	名古屋市立大学 大学院	薬学研究科 創薬生命科学専攻	脊髄膠様質細胞におけるエタノールの抑制性シナプス伝達増強メカニズムについて	H31.3.25	山村 壽男	糸 和彦	服部 光治	田中 正彦	大澤 匡弘
甲第 343号	博士 (薬科学)	(いけだ みつぐ) 池田 貢	男	名古屋市立大学 大学院	薬学研究科 創薬生命科学専攻	悪性腫瘍領域における第III相臨床試験の成功確率が低い原因の探索: Systematic reviewによる検討	H31.3.25	鈴木 匡	頭金 正博	湯浅 博昭	肥田 重明	—
甲第 344号	博士 (薬科学)	(ちょう ふくし) 張 伏子	女	名古屋市立大学 大学院	薬学研究科 創薬生命科学専攻	生薬キクカのPPAR γ アゴニスト作用とその活性成分の探索	H31.3.25	樋口 恒彦	牧野 利明	大澤 匡弘	頭金 正博	—
甲第 345号	博士 (薬学)	(せき ともたか) 関 友崇	男	名古屋市立大学 大学院	薬学研究科 医療機能薬学専攻	非平衡条件下における荷電コロイドのダイナミクス	H31.3.25	平嶋 尚英	山中 淳平	中川 秀彦	佐藤 匡史	奥藪 透
甲第 346号	博士 (薬学)	(つづき かおり) 都築 香里	女	名古屋市立大学 大学院	薬学研究科 医療機能薬学専攻	糖新生と細胞がん化におけるシュードキナーゼTRB1の生理機能の解析	H31.3.25	服部 光治	林 秀敏	平嶋 尚英	伊藤 佐生智	—

学位記 番号	博士の専 攻分野の 名称	博士の学位を授与された者		博士課程の修了等の状況		主論文名	授与 年月日	主査	副査 (指導 教員)	副査	副査	副査
		(ふりがな) 氏名	性別	大学院名	研究科 (専攻)名							
甲第 347号	博士 (薬学)	(おくむら ひろき) 奥村 啓樹	男	名古屋市立大学 大学院	薬学研究科 医療機能薬学専攻	多能性幹細胞からの機能的な肝細胞の作製	H31.3.25	木村 和哲	松永 民秀	林 秀敏	肥田 重明	—
甲第 348号	博士 (薬学)	(おのざと だいち) 小野里 太智	男	名古屋市立大学 大学院	薬学研究科 医療機能薬学専攻	人工多能性幹細胞由来腸管オルガノイドの新 規分化誘導法の開発と炎症性腸疾患モデル系 の構築	H31.3.25	頭金 正博	松永 民秀	湯浅 博昭	平嶋 尚英	—
甲第 349号	博士 (薬学)	(かべや ともき) 壁谷 知樹	男	名古屋市立大学 大学院	薬学研究科 医療機能薬学専攻	ヒトiPS細胞を用いた小腸における薬物動態予測 評価系の構築	H31.3.25	湯浅 博昭	松永 民秀	青山 峰芳	井上 靖道	—
甲第 350号	博士 (薬学)	(のぎもり たくと) 野木森 拓人	男	名古屋市立大学 大学院	薬学研究科 医療機能薬学専攻	外来性RNA分解機構の解明とRNA医薬への臨床 応用	H31.3.25	林 秀敏	星野 真一	松永 民秀	白根 道子	—
甲第 351号	博士 (薬学)	(かわさき けいすけ) 川崎 桂輔	男	名古屋市立大学 大学院	薬学研究科 医療機能薬学専攻	改変遺伝子導入培養細胞系を利用した新規2 ポアドメイン型カリウムチャネル作用薬の探索方 法の開発と応用	H31.3.25	平嶋 尚英	山村 壽男	青山 峰芳	中川 秀彦	—
甲第 352号	博士 (薬学)	(やまかげ ゆうこ) 山影 祐子	女	名古屋市立大学 大学院	薬学研究科 医療機能薬学専攻	生後脳におけるリーリン特異的切断の機構、お よび、その阻害によるアルツハイマー病態抑制 効果の解明	H31.3.31	松永 民秀	服部 光治	頭金 正博	田中 正彦	—
乙第 200号	博士 (薬科学)	(ひらさわ まこと) 平沢 真	男			特異体質性肝障害発症薬物とヒト白血球抗原と の相互作用に関する研究	H31.3.25	佐藤 匡史	頭金 正博	平嶋 尚英	肥田 重明	—
乙第 201号	博士 (薬科学)	(いのうえ ゆう) 井上 悠	男			幹細胞を用いたモデル系による表皮構成細胞 の分化 メカニズムの解析	H31.3.25	山村 壽男	平嶋 尚英	松永 民秀	尾関 哲也	—

2 修士学位取得者

学位 番号	分野名	氏 名	性 別	論文題目	日付	主査	副査	副査	副査
2136	臨床薬学	邱 施萌	女	ヒトiPS細胞由来小腸上皮細胞への分化誘導に対する機能性ポリマーの検討	H30.9.25	松永	湯浅	青山	—
2137	神経薬理学	高 天翔	男	ショウジョウバエのタウ遺伝子機能解析	H30.9.25	条	白根	飯島	—
2138	薬化学	関本 英里子	女	FHIT蛍光イメージングプローブの開発	H31.3.25	中川	樋口	林	—
2139	薬化学	山内 彩樺	女	赤色光作動性PeT型NOドナーの開発と応用	H31.3.25	中川	木村	梅澤	—
2140	薬化学	山田 輝	男	分子機構解明を志向した単一細胞pyroptosis可視化蛍光プローブの開発	H31.3.25	中川	中村	肥田	—
2141	精密有機反応学	寺前 将太	男	金属ポルフィリン触媒の酸化反応性・選択性に及ぼす触媒修飾基の効果	H31.3.25	樋口	中村	中川	—
2142	薬品合成化学	長野 秀嗣	男	ビスシリルエノールエーテルを用いる[3+3]型縮合反応による架橋環構築法の開発	H31.3.25	中村	樋口	池田	—
2143	薬品合成化学	山内 裕貴	男	シクロプロパンの酸化的開環反応を鍵工程とする抗腫瘍性サポニンOSW-1の合成研究	H31.3.25	中村	中川	梅澤	—
2144	コロイド・高分子物性学	青山 柚里奈	女	2次元荷電コロイド結晶の構築とプラズモン材料への応用	H31.3.25	山中	平嶋	佐藤	—
2145	コロイド・高分子物性学	野場 亮汰	男	荷電コロイド粒子クラスターの電気泳動および沈降挙動	H31.3.25	山中	尾関	田中	—
2146	分子生物薬学	川尻 愛子	女	細胞内膜接触部位における脂質代謝へのプロトルーディン複合体の関与	H31.3.25	白根	条	青山	—
2147	分子生物薬学	中野 友香	女	脂肪細胞分化におけるCa ²⁺ 活性型カリウムチャネルK _{Ca} 3.1の機能解析	H31.3.25	白根	肥田	井上	—
2148	生薬学	大野 雄也	男	糸状菌 <i>Colletotrichum gloeosporioides</i> Ls29由来新規化合物の探索および構造研究	H31.3.25	牧野	中川	池田	—
2149	生薬学	鈴木 卓馬	男	<i>Lycopodium</i> アルカロイドを生産する植物内生糸状菌の探索および形質転換系の確立	H31.3.25	牧野	樋口	肥田	—
2150	生薬学	村口 真凜	女	牛車腎気丸のサルコペニアに対する作用とその活性成分の探索	H31.3.25	牧野	樋口	林	—
2151	衛生化学	北野 拓真	男	炎症時におけるIL-3依存的な好塩基球の局在変化と活性化制御	H31.3.25	肥田	松永	井上	
2152	衛生化学	小林 正都	男	黄色ブドウ球菌分泌毒素の肥満細胞・好塩基球活性化作用	H31.3.25	肥田	林	朝霧	伊藤

学位 番号	分野名	氏 名	性 別	論文題目	日付	主査	副査	副査	副査
2153	遺伝情報学	小林 純果	女	LARP4はポリA鎖伸長を介して呼吸鎖複合体構成因子の翻訳を正に制御する	H31.3.25	星野	桑	朝霧	—
2154	遺伝情報学	坂元 健太郎	男	LARP1によるポリA鎖伸長を介した5' TOP mRNAの発現制御	H31.3.25	星野	服部	大澤	—
2155	遺伝情報学	志水 良亮	男	RNA結合タンパク質LARP4/4Bはミトコンドリアを標的とする	H31.3.25	星野	伊藤	井上	—
2156	細胞分子薬効解析学	稲垣 奏	男	大動脈平滑筋Ca ²⁺ マイクロドメインにおけるミトフェュージン2の生理的意義の解明	H31.3.25	山村	平嶋	白根	—
2157	細胞分子薬効解析学	神藤 秀基	男	多層カーボンナノチューブ暴露による肺胞マクロファージへの細胞障害	H31.3.25	山村	服部	伊藤	—
2158	細胞分子薬効解析学	前田 和輝	男	マウス骨髄由来マクロファージにおけるKir2.1チャネルの生理機能の解明	H31.3.25	山村	桑	朝霧	—
2159	病態生化学	梅本 銀河	男	mRNA様long non-coding RNAであるGomafuの核局在機構の解析	H31.3.25	服部	星野	伊藤	—
2160	病態生化学	奥川 英介	男	精神神経疾患の治療を志向した、分解抵抗型リーリンノックインマウスの作製と解析	H31.3.25	服部	肥田	大澤	—
2161	薬物動態制御学	秋野 翔伍	男	リソソーム膜におけるpyridoxine排出輸送の分子機構	H31.3.25	湯浅	林	大澤	—
2162	薬物動態制御学	篠田 裕太郎	男	分化型THP-1細胞におけるポリアミン輸送系の解析	H31.3.25	湯浅	田中	岩尾	—
2163	薬物動態制御学	竹中 理沙	女	ENBT1の輸送機能に関わる分子特性の解析:decynium-22の特異的阻害特性及びSNPの影響	H31.3.25	湯浅	松永	牧野	—
2164	薬物動態制御学	田嶋 柊也	男	小腸における有機アニオン輸送系トランスポーターとしてのOAT11の機能	H31.3.25	湯浅	尾関	岩尾	—
2165	病態解析学	大塚 勇斗	男	破骨細胞分化を促進する微小環境形成細胞の骨破壊疾患への関与	H31.3.25	青山	平嶋	伊藤	—
2166	病態解析学	鳥内 皐暉	男	低体温療法によるグリアを介した神経保護効果の解析	H31.3.25	青山	服部	田中	—
2167	細胞情報学	住田 丈典	男	脱ユビキチン化による脂質代謝関連転写因子SREBPタンパクの発現制御	H31.3.25	林	星野	佐藤	—
2168	細胞情報学	筒井 聖人	男	小胞体ストレスATF4-TRB3経路を活性化する新規化合物の探索	H31.3.25	林	牧野	梅澤	—
2169	細胞情報学	徳川 宗成	男	小胞体ストレス応答を抑制する新規活性成分の同定とその作用機序の解明	H31.3.25	林	山村	中川	—

学位 番号	分野名	氏 名	性別	論文題目	日付	主査	副査	副査	副査
2170	神経薬理学	稲波 千尋	女	脳活動の可視化と慢性疼痛の機序解明への応用	H31.3.25	条	山村	朝霧	大澤
2171	神経薬理学	大森 翔太	男	痛み知覚における前帯状回ノルアドレナリンの役割	H31.3.25	条	牧野	井上	大澤
2172	神経薬理学	山口 翔	男	<i>Drosophila insulin-like peptide (dilp) 3</i> による概日リズム制御	H31.3.25	条	服部	飯島	—
2173	レギュラトリーサイエンス	槇野 隆太	男	HLA-B*58:01を介したオキシブリンールによる特異体質性副作用 <i>in vitro</i> 評価系の構築	H31.3.25	頭金	佐藤	青山	—
2174	病院薬剤学	森 泰毅	男	過労・断眠ストレスが勃起に与える影響についての研究	H31.3.25	木村	青山	山村	—
2175	臨床薬学	中西 杏菜	女	ヒトiPS細胞由来腸管オルガノイドの炎症性腸疾患治療に対する有効性評価	H31.3.25	松永	木村	湯浅	—
2176	臨床薬学	水野 翔太	男	ヒトiPS細胞由来小腸幹細胞の新規維持培養法の確立	H31.3.25	松永	牧野	湯浅	—
2177	臨床薬学	山下 美紗季	女	Differentiation of brain microvascular endothelial cells from human induced pluripotent stem cells	H31.3.25	松永	条	山村	—
2178	腫瘍制御学	藤川 遥加	女	酵素反応の制御を目指した機能性分子の創製研究	H31.3.25	青木	中村	星野	—

3 講演会等

(2018年1月から2018年12月)

開催日： 平成 30 年 1 月 13 日
講演会名： 第 46 回糖尿病薬物療法研究会
講師名： 野村浩夫（名古屋第一赤十字病院），磯貝善蔵（国立長寿医療研究センター），古田勝経（小林記念病院）
演題： 「くすりと糖尿病」，「皮膚疾患診療と糖尿病」，「糖尿病患者の褥瘡を含めた皮膚潰瘍の病態評価と外用薬治療」
世話人： 菊池千草，他

開催日： 平成 30 年 1 月 15 日
講演会名： 名古屋市立大学薬学部・神経薬理学特別セミナー
講師名： 花井十伍
所属： 全国薬害被害者団体連絡協議会
演題： 薬害再発防止のために～薬害エイズの教訓～
世話分野： 神経薬理学分野

開催日： 平成 30 年 1 月 20 日～21 日
講演会名： 第 6 回「動的秩序と機能」国際シンポジウム
場所： 浜松アクトタワー
主催： 科学研究費補助金 新学術領域研究「動的秩序と機能」
世話人： 加藤晃一

開催日： 平成 30 年 1 月 27 日
講演会名： 瑞穂薬剤師会学術講演会
講師名： 今北 香
所属： エア・ウォーター・メディカル株式会社
演題： 在宅酸素療法の現状・機器のしくみ～在宅での栄養法、在宅中心静脈栄養法（HPN）の概要
世話人： 牧野利明

開催日： 2018 年 2 月 5 日
講演会名： 日本薬学会東海支部特別講演会
講師名： Professor Susumu Tomita
所属： Yale University
演題： シナプス伝達および可塑性の分子機構とその生理機能
世話分野： 病態生化学分野

開催日： 平成 30 年 2 月 24 日
講演会名： 瑞穂薬剤師会学術講演会
講師名： 谷田諭史
所属： 名古屋市立大学大学院医学研究科 消化器・代謝内科学
演題： 活動性 IBD に対する最先端治療
世話人： 牧野利明

開催日： 平成 30 年 3 月 10 日
講演会名： 瑞穂薬剤師会学術講演会
講師名： 濱田 崇
所属： 沢井製薬 名古屋支店
演題： 平成 30 年度調剤報酬改定について
世話人： 牧野利明

開催日： 平成 30 年 3 月 15 日
講演会名： 日本薬学会東海支部特別講演会
講師名： Funda Nuray Yalçın 教授
所属： Faculty of Pharmacy, Dept. of Pharmacognosy, Hacettepe University, Turkey
演題： Phytotherapy in Europe and in Turkey
世話分野： 生薬学分野

開催日： 平成 30 年 3 月 15 日
講演会名： 名古屋市立大学薬学部・神経薬理学セミナー
講師名： 尾崎紀夫 教授
所属： 名大・医・精神医学・親と子どもの心療学
演題： 精神医学の遺伝学研究の発展
世話人： 糸 和彦

開催日： 平成 30 年 3 月 27 日
講演会名： 日本薬学会第 138 年会一般シンポジウム S40
テーマ： 分子標的医薬品開発を目指したがん悪性化の分子機構の解明
場所： 大原学園金沢校
世話人： 伊東進、井上靖道

開催日： 平成 30 年 4 月 7 日
講演会名： 第 47 回糖尿病薬物療法研究会
講師名： 厚田幸一郎（北里大学），林 宏樹（藤田保健衛生大学），安藤博彦（愛知医科大学），
山守越子（海南病院）
演題： 「糖尿病治療薬の変遷と薬剤師の役割」，「糖尿病性腎臓病の浮腫に対する治療戦略」，
「心血管イベントを起こさないための糖尿病治療戦略」，「糖尿病の集約的治療における脂
質管理」
世話人： 菊池千草，他

開催日： 2018 年 4 月 22 日
講演会名： 第 9 回地域連携薬剤管理指導研究会・講演会
場所： 名古屋大学
世話人： 木村和哲

開催日： 平成 30 年 4 月 25 日
講演会名： 第 176 回薬学談話会
講師名： 太田美里
所属： 名古屋市立大学大学院薬学研究科生薬学分野
演題： 古典に記載された生薬の修治法に関する科学的検証
世話人： 石内勘一郎

開催日：平成 30 年 4 月 28 日
講演会名： 瑞穂薬剤師会学術講演会
所属： 興和製薬株式会社
演題： 脂質異常症治療の最新の話
所属： 大塚製薬株式会社
演題： 利尿剤を用いた心性浮腫治療
世話人： 牧野利明

開催日： 平成 30 年 5 月 9 日

講演会名： 若手研究者のための有機化学セミナー
講師名： 福山 透 教授
所属： 東京大学名誉教授
演題： テトロドトキシンの全合成研究
世話分野： 精密有機反応学分野、薬品合成化学分野

開催日： 平成 30 年 5 月 9 日
講演会名： 若手研究者のための有機化学セミナー
日本薬学会東海支部講演会（創薬生命科学特別講義 I を兼ねる）
講師名： 田中正一 教授
所属： 長崎大学 生命医科学域（大学院医歯薬学総合研究科を兼ねる）
演題： 非タンパク質構成アミノ酸によるペプチド 2 次構造の制御とその応用
世話分野： 精密有機反応学分野、薬品合成化学分野

開催日： 平成 30 年 5 月 11 日
講演会名： 桜山 Pharmacist Workshop
場所： 名古屋市立大学病院
演題： 「糖尿病病態の時代的変容とこれからの治療戦略」
世話人： 木村和哲

開催日： 平成 30 年 5 月 19 日
講演会名： 瑞穂薬剤師会学術講演会
所属： 沢井製薬 名古屋支店
演題： 平成 30 年度調剤報酬改定について
世話人： 牧野利明

開催日： 平成 30 年 5 月 22 日
講演会名： 招聘勉強会
場所： スズケン名古屋支店
演題： 「大学病院における医薬品適正使用」
世話人： 木村和哲

開催日： 平成 30 年 5 月 24 日
講演会名： 日本薬学会東海支部特別講演会
講師名： 木塚 康彦 准教授
所属： 岐阜大学 生命の鎖統合研究センター
演題： 糖鎖の枝分かれ構造の生化学とケミカルバイオロジー
場所： 名古屋市立大学大学院薬学研究科 研究棟 2 階会議室
世話人： 矢木 宏和

開催日： 2018 年 5 月 28 日
講演会名： 日本薬学会東海支部特別講演会
講師名： 鈴木郁夫
所属： VIB-KU Leuven Center for Brain & Disease Research
演題： NOTCH2NLB は Notch シグナルを促進することで大脳皮質前駆細胞を長期間維持する
世話分野： 病態生化学分野

開催日： 2018 年 5 月 31 日
講演会名： 病態生化学特別セミナー
講師名： 白崎竜一

所属： 大阪大学大学院生命機能研究科
演題： 神経細胞の運命決定プログラムから迫る神経回路の形成機構
世話分野： 病態生化学分野

開催日： 平成 30 年 5 月 31 日
講演会名： 糖尿病イブニングセミナー春学術講演会 2018
講師名： 水野正子（チューリップ薬局），村上雅子（静岡赤十字病院）
演題： 「在宅糖尿病患者への訪問薬剤師の関わり」，「DPP-4 阻害薬／メトホルミン 500mg 配合剤 1 日 1 回投与の有用性」
世話人： 菊池千草，他

開催日： 平成 30 年 6 月 7 日
講演会名： さくらやま吸入療法 2018
場所： 名古屋市立大学医学部研究棟
演題： 「臨床におけるオンライン診療の現状」
世話人： 木村和哲

開催日： 平成 30 年 6 月 9 日
講演会名： 瑞穂薬剤師会学術講演会
講師名： 大野嘉一
所属： EA ファーマ株式会社 東海支店
演題： 便秘について ～慢性便秘の薬物治療を中心に～
世話人： 牧野利明

開催日： 平成 30 年 6 月 10 日
講演会名： 「Biologics Seminer for Pharmacist」
場所： キャッスルプラザ 3 階
演題： 「バイオシミラーの現状」
世話人： 木村和哲

開催日： 平成 30 年 6 月 13 日
講演会名： 日本薬学会東海支部 特別講演会
講師名： 大川宜昭 講師
所属： 富山大・医学薬学・医学・生化学講座
演題： 光で記憶を見る・操作する
世話人： 大澤 匡弘

開催日： 平成 30 年 6 月 14 日
講演会名： 創薬人育成スクールビギナーコース講演会
講師名： 余郷能紀
所属： 武田薬品工業株式会社
演題： Kinase inhibitor の創薬研究を通じた最先端創薬基盤技術
世話人： 中川秀彦

開催日： 平成 30 年 6 月 16 日
講演会名： 第 48 回愛知県糖尿病薬物療法研究会
講師名： 森 春樹（旭労災病院），米澤伸哉（聖霊病院），西浦悦子（整形外科京命クリニック），斉藤美恵子（高田中央病院）
演題： 「骨粗鬆症治療薬使用における薬剤師の関わり」，「骨粗鬆症治療と啓発活動」，「骨粗鬆症を取り巻くお話」，「糖尿病の骨粗鬆症」

世話人： 菊池千草，他

開催日： 平成 30 年 6 月 22 日

講演会名： 第 178 回薬学談話会

講師名： 吉田圭佑

所属： 名城大学薬学部

演題： 天然物の全合成および医薬品合成を志向する有機触媒反応の開発

世話人： 家田直弥、石内勘一郎、岩尾岳洋、川口充康、河野孝夫、鈴木良明、築地仁美、富田淳、寺坂和祥、保嶋智也、堀田祐志、矢木宏和、久松洋介、坡下真大、山越博幸

開催日： 平成 30 年 7 月 8 日～11 日

講演会名： Frontier Bioorganization Forum 2018 (IMS Asian International Symposium)
(日韓台生命分子科学セミナー2018)

場所： 生命創成探究センター 山手 3 号館 2 階西 大会議室

主催： 生命創成探究センター、分子科学研究所、第 10 回日韓生体分子セミナー

共催： 科学研究費補助金 新学術領域研究「動的秩序と機能」

世話人： 加藤晃一，矢木真穂

開催日： 平成 30 年 7 月 10 日

講演会名： ExCELLS Young Scientists Forum 2018

場所： 生命創成探究センター 山手 3 号館 2 階西 大会議室

主催： 生命創成探究センター

世話人： 矢木真穂，谷中冴子，與語理那，関口太一郎

開催日： 平成 30 年 7 月 12 日

講演会名： 平成 30 年度 医薬品安全管理における研修会

場所： 名古屋市立大学病院

演題： 「麻薬の取り扱いについて」

世話人： 木村和哲

開催日： 平成 30 年 7 月 21 日

講演会名： 瑞穂薬剤師会学術講演会

講師名： 九鬼佳世子

所属： 久光製薬株式会社 学術部

演題： アレルギー性鼻炎治療薬の最近の話題

世話人： 牧野利明

開催日： 平成 30 年 7 月 25 日

講演会名： 第 13 回 NCU ライフサイエンス若手イブニングセミナー

講師名： 山越博幸

所属： 名古屋市立大学大学院薬学研究科

演題： 小さな標識が拓く低分子化合物のラマンイメージング

世話人： 川口充康

開催日： 平成 30 年 7 月 28 日

講演会名： 東海医療薬学セミナー

場所： TPK ガーデンシティ Premium 名駅西口

演題： 「バイオ医薬品に関する最新の薬学的知見」

世話人： 木村和哲

開催日： 平成 30 年 8 月 18 日
講演会名： 第 60 回日本平滑筋学会総会 若手の会シンポジウム
場所： 東京慈恵会医科大学
演題： 平滑筋および関連組織に関する基礎・臨床研究
世話人： 堀田祐志、仲吉朋子

開催日： 平成 30 年 8 月 24 日
講演会名： 新任・中堅薬剤師研修会
場所： 名古屋大学
演題： 「これから病院薬剤師の進む道」
世話人： 木村和哲

開催日： 平成 30 年 9 月 1 日
講演会名： 第 3 回日本薬学教育学会大会ワークショップ 1
講師名： 安原智久，菊池千草
演題： 個性が輝くインクルージョンの実現
オーガナイザー： 菊池千草，安原智久

開催日： 平成 30 年 9 月 5 日
講演会名： 桜山薬剤師連携セミナー
場所： 名古屋市立大学医学研究科
演題： 「がん性疼痛疾患に関する最新情報提供」
世話人： 木村和哲

開催日： 平成 30 年 9 月 16 日
講演会名： 糖尿病薬物療法を通して多職種連携の進め方を学ぶ I
講師名： 今枝憲郎（名古屋市立西部医療センター），武藤達也（名鉄病院），笹尾武史（西尾市民病院）
演題： 「糖尿病内服薬を理解しよう」，「糖尿病注射薬を理解しよう」，「糖尿病治療に関わる最新器具・機器を体感する」
世話人： 鈴木 匡，菊池千草，三木健義

開催日： 平成 30 年 9 月 22 日
講演会名： 瑞穂薬剤師会学術講演会
所属： 田辺三菱製薬株式会社
演題： 最近の腎臓病治療薬について
講師名： 稲熊大城
所属： 藤田保健衛生大学医学部腎内科学
演題： 慢性腎臓病の臨床 ～リアルワールドプラクティス～
世話人： 牧野利明

開催日： 平成 30 年 9 月 30 日
講演会名： 第 34 回名古屋市立大学薬学部卒後教育講座
講師名： 飯田真介（名古屋市立大学），青山公紀（名古屋市立大学）
演題： 「造血器腫瘍治療の進歩」，「脳卒中に対するリハビリテーションの有用性」
世話人： 鈴木 匡，岩尾岳洋，菊池千草，他

開催日： 平成 30 年 10 月 13 日
講演会名： Diabetes Total Care Academy in Nagoya
場所： TPK ガーデンシティ Premium 名駅西口

演題： 「糖尿病の最新治療」

世話人： 木村和哲

開催日： 平成30年10月13日

講演会名： 日本くすりと糖尿病学会シンポジウム3

講師名： 服部芳明（春日井市民病院），保科好美（イトウ内科クリニック），篠原久仁子（フローラ薬局），酒井孝征（甲西リハビリ病院）

演題： 糖尿病療養指導・入院から在宅へ

オーガナイザー： 菊池千草，森 春樹

開催日： 平成30年10月14日

講演会名： 日本くすりと糖尿病学会シンポジウム5

講師名： 菊池千草（名古屋市立大学），吉川昌江（金城学院大学），塚本知男（青空薬局），小島さおり（四日市羽津医療センター）

演題： 改訂コアカリ対策（糖尿病を実務実習でどのように教えるか）

オーガナイザー： 菊池千草，吉川昌江，三輪奈津貴

開催日： 平成30年10月14日

講演会名： 第34回名古屋市立大学薬学部卒後教育講座

講師名： 白根道子（名古屋市立大学），藤枝重治（福井大学）

演題： 「神経精神疾患の原因と最新の研究動向」，「アレルギー性鼻炎の先制医療と口腔アレルギー症候群」

世話人： 鈴木 匡，岩尾岳洋，菊池千草，他

開催日： 平成30年10月21日

講演会名： 東洋医学研究財団 東洋医学に関する市民公開講演会

講師名： 笛木 司

所属： マツヤ薬局・東邦大学医学部東洋医学研究室

演題： 漢方薬の剤型（かたち）あれこれ。そして、進化した煎じ薬 IPCD 法

講師名： 小川恵子

所属： 金沢大学附属病院漢方医学科

演題： 漢方医学でどのように難治性疾患に立ち向かうのか？

世話人： 牧野利明

開催日： 平成30年10月21日 - 24日

講演会名： The 13th France-Japan DDS Symposium

テーマ： A New Bridge between Drug Delivery Research and Unmet Medical Needs

場所： Hotel & Resorts ISE-SHIMA

世話人： 尾関哲也、山本浩充、小暮健太郎

開催日： 平成30年10月25日

講演会名： 第181回薬学談話会

講師名： 日坂真輔

所属： 名城大学・薬学部

演題： 脂質過酸化に由来するアミド型付加体の解析

世話人： 家田直弥

開催日： 平成30年10月27日

講演会名： 瑞穂薬剤師会学術講演会

所属： 第一三共株式会社第一三共エスファ株式会社

演題： 抗血栓薬について、オーソライズド・ジェネリック（AG）について
所属： 名古屋市立大学病院 循環器内科 病院助教
講師名： 中須賀公亮
演題： 抗血栓薬の使い方～抗血小板薬と抗凝固薬の使い分け～
世話人： 牧野利明

開催日： 平成 30 年 10 月 31 日
講演会名： 日本薬学会東海支部特別講演会
講師名： Professor Wayne R. Giles
所属： The University of Calgary
演題： Electrotonic Interactions Between Myocytes and Fibroblasts in the Mammalian Heart
世話分野： 細胞分子薬効解析学分野

開催日： 平成 30 年 10 月 31 日
講演会名： 日本薬学会東海支部特別講演会
講師名： Professor Wayne R. Giles
所属： The University of Calgary
演題： Electrophysiological Studies of Human Articular Chondrocytes and Synovial Fibroblasts May Provide Insights into Osteo- and Rheumatoid Arthritis
世話分野： 細胞分子薬効解析学分野

開催日： 平成 30 年 11 月 8 日
講演会名： 第 3 回 irAE Management Seminer in 桜山
場所： 名古屋市立大学医学研究科
演題： 「これからの展望」
世話人： 木村和哲

開催日： 平成 30 年 11 月 8 日
講演会名： 糖尿病イブニングセミナー秋学術講演会 2018
講師名： 中村敏史（名古屋掖済会病院），北澤 公（がん・感染症センター都立駒込病院）
演題： 「名古屋掖済会病院における外来指導の実際」，「患者背景に応じた血糖管理」
世話人： 菊池千草，他

開催日： 平成 30 年 11 月 15 日
講演会名： 桜山薬剤師連携セミナー
場所： 名古屋市立大学病院
演題： 「疼痛緩和に関する最新知識」
世話人： 木村和哲

開催日： 平成 30 年 11 月 17 日～18 日
講演会名： さきがけ「光の利用と物質材料・生命機能」第 4 回終了領域研究会
場所： 名古屋市立大学名駅サテライトセミナー室
世話人： 中川秀彦、藤田祐一、足立俊輔

開催日： 平成 30 年 11 月 18 日
講演会名： 第 34 回名古屋市立大学薬学部卒後教育講座
講師名： 姜 琪鎬（みどり訪問クリニック），橋詰博之（大塚製薬）
演題： 「在宅医療と看取り」，「結核の疫学、診断、治療および多剤耐性肺結核治療薬デラマニド」
世話人： 鈴木 匡，岩尾岳洋，菊池千草，他

開催日： 平成 30 年 11 月 24 日
講演会名： 瑞穂薬剤師会学術講演会
所属： 瑞穂区東部いきいき支援センター分室
講師名： 安藤ゆたか、小林 紀子
演題： 認知症サポーター養成講座
世話人： 牧野利明

開催日： 平成 30 年 11 月 29 日
講演会名： Aichi Pharmacist Summit
場所： ストリングスホテル名古屋
演題： 「疼痛緩和に関する最新知識」
世話人： 木村和哲

開催日： 平成 30 年 11 月 30 日
講演会名： 桜山 Pharmacist Workshop
場所： 名古屋市立大学病院
演題： 「2 型糖尿病に関する講演」
世話人： 木村和哲

開催日： 平成 30 年 12 月 1 日
講演会名： 第 49 回愛知県糖尿病薬物療法研究会
講師名： 横塚陽子（名鉄病院），浦上達彦（日本大学病院）
演題： 「実臨床下での糖尿病治療」，「多様な 1 型糖尿病の病態とその管理」
世話人： 菊池千草，他

開催日： 平成 30 年 12 月 16 日
講演会名： 糖尿病薬物療法を通して多職種連携の進め方を学ぶ II
講師名： 橋爪博隆（新生会第一病院），野村浩夫（名古屋第一赤十字病院），服部芳明（春日井市民病院）
演題： 「糖尿病 3 大合併症のひとつである糖尿病腎症について」，「糖尿病腎症に対するチーム医療の実際」，「末期腎不全の治療について」，「CKD 対策における薬局薬剤師への期待」，「糖尿病腎症患者の処方について考えよう」
世話人： 鈴木 匡，菊池千草，三木健義

開催日： 2018 年 12 月 20 日
講演会名： 日本薬学会東海支部特別講演会
講師名： 新井洋由
所属： 東京大学大学院薬学系研究科 兼 PMDA レギュラトリーサイエンスセンター長
演題： メタボロミクス解析に基づく生体膜リン脂質の新たな機能
世話分野： 病態生化学分野

4 研究業績目録

(2018年1月から2018年12月)

【薬化学分野】

(原報)

Mitsuyasu Kawaguchi, Takuma Tani, Ryoma Hombu, Naoya Ieda, and Hidehiko Nakagawa
Development and Cellular Application of Visible-Light-Controllable HNO Releasers Based on Caged
Piloty's Acid
Chem. Commun., **54**, 10371-10374 (2018).

Naomi Tsuburaya, Kengo Homma, Tsunehiko Higuchi, Andrii Balia, Hiroyuki Yamakoshi, Norio Shibata,
Seiichi Nakamura, Hidehiko Nakagawa, Shin-ichi Ikeda, Naoki Umezawa, Nobuki Kato, Satoshi
Yokoshima, Masatoshi Shibuya, Manabu Shimonishi, Hirotatsu Kojima, Takayoshi Okabe, Tetsuo Nagano,
Isao Naguro, Keiko Imamura, Haruhisa Inoue, Takao Fujisawa, and Hidenori Ichijo
A small-molecule inhibitor of SOD1-Derlin-1 interaction ameliorates pathology in an ALS mouse model
Nat. Commun., **9**, 2668 (2018).

Itthipol Sungwienwong, John J. Ferrie, Joomyung V. Jun, Chunxiao Liu, Taylor M. Barrett, Zachary M.
Hostetler, Naoya Ieda, Amara Hendricks, Anand K. Muthusamy, Rahul M. Kohli, David M. Chenoweth,
George A. Petersson, and E. James Petersson
Improving the Fluorescent Probe Acridonylalanine Through a Combination of Theory and Experiment
J. Phys. Org. Chem., **31**, e3813 (2018).

Masato Sawada, Nobuhiko Ohno, Mitsuyasu Kawaguchi, Shih-hui Huang, Takao Hikita, Youmei Sakurai,
Huy Bang Nguyen, Truc Quynh Thai, Yuri Ishido, Yutaka Yoshida, Hidehiko Nakagawa, Akiyoshi Uemura,
and Kazunobu Sawamoto
PlexinD1 signaling controls morphological changes and migration termination in newborn neurons
The EMBO Journal, **37**, e97404 (2018).

Kazuki Kunieda, Yamauchi Hiromasa, Mitsuyasu Kawaguchi, Naoya Ieda, and Hidehiko Nakagawa
Development of a fluorescent probe for detection of citrulline based on photo-induced electron transfer
Bioorg. Med. Chem. Lett., **28**, 969-973 (2018).

(総説・著書・総合論文など)

Hidehiko Nakagawa
Photo-controlled release of small signaling molecules to induce biological responses
The Chemical Record, **18**, 1708-1716 (2018).

(学会発表)

中川秀彦【招待講演】
特異的化学反应の発見から生物作用化合物の設計へ～光制御一酸化窒素投与剤の開発～
分子技術シンポジウム, 2018年1月17日, 金沢

川口充康、池川祥平、家田直弥、中川秀彦
Sirtuin の一段階検出法の開発と細胞イメージングへの応用
異分野融合を見据えた次世代レドックス生理科学シンポジウム, 2018年2月3日, 岡崎

家田直弥、奥野華、堀田祐志、川口充康、木村和哲、中川秀彦
光化学反応を駆使した光制御 NO ドナー群の開発と生体応用
異分野融合を見据えた次世代レドックス生理科学シンポジウム, 2018年2月3日, 岡崎

田丸廉太、家田直弥、川口充康、中川秀彦
Aminophenol 構造を有し青色光で制御可能な H₂O₂ ドナーの合成と機能評価
日本酸化ストレス学会東海支部第6回学術集会, 2018年2月10日、静岡

小口瑠菜、家田直弥、川口充康、吉原利忠、飛田成史、中川秀彦
低酸素環境を作り出すための光応答性酸素消去剤としての Chalcogenorhodamine 類の機能評価
日本酸化ストレス学会東海支部第6回学術集会, 2018年2月10日、静岡

Hidehiko Nakagawa 【invited】
Photo-controllable nitric oxide releasers for manipulation of biological responses
16th Annual meeting of the Society for Free Radical Research India 2018, Feb. 18, 2018, New Delhi

Hidehiko Nakagawa 【invited】
Photo-controllable NO releasers and induction of biological responses
International symposium on caged compounds, Mar. 9, 2018, Hiroshima

Naoya Ieda
Synthesis and evaluation of fluorescence molecules for labeling and monitoring protein dynamics
NCU Global Young Investigator Forum 2018, Mar. 16, 2018, Nagoya

Mitsuyasu Kawaguchi
One-step fluorescence probe for sirtuin activity and live cell imaging
NCU Global Young Investigator Forum 2018, Mar. 16, 2018, Nagoya

Naoya Ieda, Hana Okuno, Yuji Hotta, Mitsuyasu Kawaguchi, Kazunori Kimura, and Hidehiko Nakagawa.
Development of visible light controllable nitric oxide releasers and biological application
日本化学会第98春季大会、2018年3月20-23日、千葉

川口充康、家田直弥、中川秀彦
ENPP1 蛍光プローブおよび阻害剤の創製と生細胞系への適用
日本薬学会第138年会、2018年3月25-28日、金沢

家田直弥、川口充康、中川秀彦
光電荷分離駆動型 NO ドナー誘導体の合成と機能評価
日本薬学会第138年会、2018年3月25-28日、金沢

太田悠平、脇田弘臣、家田直弥、川口充康、中川秀彦
CARM1 活性評価系の構築を目指した FRET 型プローブの合成と機能評価
日本薬学会第138年会、2018年3月25-28日、金沢

國枝一輝、山内啓雅、川口充康、家田直弥、中川秀彦
PAD 活性検出蛍光プローブの開発と機能評価
日本薬学会第138年会、2018年3月25-28日、金沢

関本英里子、川口充康、家田直弥、中川秀彦
FHIT 蛍光プローブの開発と置換基変換による特異性への影響の評価

日本薬学会第 138 年会、2018 年 3 月 25-28 日、金沢

山内彩樺、家田直弥、堀田祐志、川口充康、木村和哲、中川秀彦

赤色光作動性 NO ドナーの合成と機能評価

日本薬学会第 138 年会、2018 年 3 月 25-28 日、金沢

山田輝、川口充康、家田直弥、中川秀彦

Caspase-1 活性を利用した pyroptosis 可視化プローブの開発

日本薬学会第 138 年会、2018 年 3 月 25-28 日、金沢

本部竜馬、川口充康、家田直弥、中川秀彦

Caged succinate の開発と機能評価

日本薬学会第 138 年会、2018 年 3 月 25-28 日、金沢

川口充康、山田輝、家田直弥、中川秀彦

caspase-1 活性を指標とした単一細胞パイロトーシス可視化プローブの開発

平成 30 年度生理学研究所研究会、2018 年 4 月 27-28 日、岡崎

岡由実奈、家田直弥、山内彩樺、川口充康、中川秀彦【優秀発表賞】

β -Galactosidase および可視光による二段階制御型 NO ドナーの合成と機能評価

平成 30 年度生理学研究所研究会、2018 年 4 月 27-28 日、岡崎

家田直弥【招待講演】

光誘起電子移動を駆使したケージド NO 群の開発と生体応用

第 2 回「有用物質合成を加速する分子設計の新展開」に関する研究会、2018 年 5 月 15 日、静岡

中川秀彦

新規 NO ドナー開発による局所 NO シグナルの役割解析と応用

第 71 回日本酸化ストレス学会学術集会・第 18 回日本 NO 学会合同学術集会、2018 年 5 月 17-18 日、京都

川口充康、若森久幸、家田直弥、中川秀彦【優秀演題賞】

Dinitrobenzene 骨格を有する Cys-SSH 検出蛍光プローブの開発と細胞での機能評価

第 71 回日本酸化ストレス学会学術集会・第 18 回日本 NO 学会合同学術集会、2018 年 5 月 17-18 日、京都

家田直弥、奥野華、山内彩樺、堀田祐志、川口充康、木村和哲、中川秀彦

可視光で制御可能な NO ドナー群の開発と生体応用

第 71 回日本酸化ストレス学会学術集会・第 18 回日本 NO 学会合同学術集会、2018 年 5 月 17-18 日、京都

國枝一輝、山内啓雅、川口充康、家田直弥、中川秀彦

新規シトルリン検出蛍光プローブの開発と機能評価

第 16 回次世代を担う有機化学シンポジウム、2018 年 5 月 18-19 日、大阪

川口充康、若森久幸、家田直弥、中川秀彦

Dinitrobenzene 骨格を基盤とした Cys-SSH 蛍光プローブ類の開発と生細胞での機能評価

日本ケミカルバイオロジー学会第 13 回年会、2018 年 6 月 11-13 日、東京

國枝一輝、山内啓雅、川口充康、家田直弥、中川秀彦

蛍光プローブを用いた PAD 活性検出系の構築
日本ケミカルバイオロジー学会第 13 回年会、2018 年 6 月 11-13 日、東京

家田直弥、岡由実奈、川口充康、中川秀彦
構造活性相関に基づく酵素-光 2 段階制御型 NO ドナーの合成と評価
日本ケミカルバイオロジー学会第 13 回年会、2018 年 6 月 11-13 日、東京

太田悠平、脇田弘臣、家田直弥、川口充康、中川秀彦【優秀演題賞】
CARM1 活性評価を志向した新規 FRET 型プローブの開発と機能評価
第 64 回東海支部総会・大会、2018 年 6 月 30 日、名古屋

家田直弥【招待講演】
酸化ストレス関連分子を光測定・制御するためのケミカルツール群の開発
フリーラジカルスクール 2018、2018 年 8 月 4-5 日、草津

Hidehiko Nakagawa, Naoya Ieda, Mitsuyasu Kawaguchi【Invited Lecture】
Cell-applicable Caged Compounds for Nitric Oxide and Its Related Species
International Congress on Pure & Applied Chemistry Langkawi 2018, Oct 30-Nov 2, 2018, Malaysia

Naoya Ieda, Hana Okuno, Ayaka Yakauchi, Yuji Hotta, Mitsuyasu Kawaguchi, Kazunori Kimura, Hidehiko Nakagawa【Invited Lecture】【Lecture Award】
Development of visible and near-infrared light controllable NO releasers and their application for photomanipulation of vasodilation
International Congress on Pure & Applied Chemistry Langkawi 2018, Oct 30-Nov 2, 2018, Malaysia

山田輝、川口充康、家田直弥、中川秀彦【ベストプレゼン賞】
分子機構解明を志向した単一細胞 pyroptosis 可視化プローブの開発
日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部合同学術集会 2018、2018 年 11 月 4 日、静岡

関本英理子、川口充康、家田直弥、中川秀彦
FHIT 蛍光プローブの開発と特異性向上を志向した置換基変換に関する検討
日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部合同学術集会 2018、2018 年 11 月 4 日、静岡

山内彩樺、家田直弥、堀田祐志、川口充康、木村和哲、中川秀彦
論理的設計に基づく赤色光作動性 NO ドナーの開発と機能評価
日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部合同学術集会 2018、2018 年 11 月 4 日、静岡

本部竜馬、川口充康、家田直弥、中川秀彦
Caged oncometabolite 類の開発と機能評価
第 36 回メディシナルケミストリーシンポジウム、2018 年 11 月 28-30 日、京都

【精密有機反応学分野】

(原報)

Naoki Umezawa, Kasumi Tsuji, Shin Sato, Masaki Kikuchi, Hisami Watanabe, Yuhei Horai, Masashi Yamaguchi, Yosuke Hisamatsu, Takashi Umehara, Tsunehiko Higuchi
Inhibition of FAD-dependent lysine-specific demethylases by chiral polyamine analogues
RSC Adv., **8**, 36895-36902 (2018).

Yosuke Sakata, Kosuke Yabunaka, Yuko Kobayashi, Hirohisa Omiya, Naoki Umezawa, Hye-Sook Kim, Yusuke Wataya, Yoshimi Tomita, Yosuke Hisamatsu, Nobuki Kato, Hirokazu Yagi, Tadashi Satoh, Koichi Kato, Haruto Ishikawa, Tsunehiko Higuchi
Potent Antimalarial Activity of Two Arenes Linked with Triamine Designed To Have Multiple Interactions with Heme
ACS Med. Chem. Lett., **9**(10), 980-985 (2018).

Toshitaka, Matsui, Ryota Sugiyama, Kenta Sakanashi, Yoko Tamura, Masaki Iida, Yukari Nambu, Tsunehiko Higuchi, Makoto Suematsu, Masao Ikeda-Saito
Bypassing the rate limiting oxygen activation of heme oxygenase by hydrogen sulfide
J. Biol. Chem., **293**(43), 16931-16939 (2018).

Mst A Gulshan, Kasumi Tsuji, Shigeyoshi Matsumura, Tsunehiko Higuchi, Naoki Umezawa, Yoshiya Ikawa
Distinct modulation of group I ribozyme activity among stereoisomers of a synthetic pentamine with structural constraints
Biochem. Biophys. Res. Commun., **504**(4), 698-703 (2018).

Yosuke Hisamatsu, Naoki Umezawa, Hirokazu Yagi, Koichi Kato, Tsunehiko Higuchi
Design and Synthesis of a 4-Aminoquinoline-Based Molecular Tweezer That Recognizes Protoporphyrin IX and Iron(III) Protoporphyrin IX and Its Application as a Supramolecular Photosensitizer
Chem. Sci., **9**(38), 7455-7467 (2018).

Naomi Tsuburaya, Kengo Homma, Tsunehiko Higuchi, Andrii Balia, Hiroyuki Yamakoshi, Norio Shibata, Seiichi Nakamura, Hidehiko Nakagawa, Shin-ichi Ikeda, Naoki Umezawa, Nobuki Kato, Satoshi Yokoshima, Masatoshi Shibuya, Manabu Shimonishi, Hirotatsu Kojima, Takayoshi Okabe, Tetsuo Nagano, Isao Naguro, Keiko Imamura, Haruhisa Inoue, Takao Fujisawa, Hidenori Ichijo
A small-molecule inhibitor of SOD1-Derlin-1 interaction ameliorates pathology in an ALS mouse model
Nat. Commun., **9**, 2688 (2018).

Mst. Ara Gulshan, Shigeyoshi Matsumura, Tsunehiko Higuchi, Naoki Umezawa, Yoshiya Ikawa
Comparative study of polyethylene polyamines as activator molecules for a structurally unstable group I ribozyme
Biosci. Biotechnol. Biochem., **82**(8), 1404-1407 (2018).

Takashi Nishio, Yuko Yoshikawa, Wakao Fukuda, Naoki Umezawa, Tsunehiko Higuchi, Shinsuke Fujiwara, Tadayuki Imanaka, Kenichi Yoshikawa
Branched-chain polyamine found in hyperthermophiles induces unique temperature-dependent structural changes in genome-size DNA
ChemPhysChem., **19**, 1-7 (2018).

Mst Ara Gulshan, Md. Motiar Rahman, Shigeyoshi Matsumura, Tsunehiko Higuchi, Naoki Umezawa,

Yoshiya Ikawa

Biogenic triamine and tetraamine activate core catalytic ability of Tetrahymena group I ribozyme in the absence of its large activator module

Biochem. Biophys. Res. Commun., **496**, 594-600 (2018).

(学会発表)

中村美里, 久松洋介, 梅澤直樹, 樋口恒彦

活性酸素種との反応を引き金として金属毒性の減弱能を狙った分子の開発.

日本酸化ストレス学会東海支部 第6回学術集会 2018年2月10日(静岡).

樋口恒彦, 井鍋佳菜子, 梅澤直樹, 久松洋介

シトクロム P450 の酸化還元スイッチに関する化学モデル研究.

日本薬学会第138年会 2018年3月26日(金沢).

寺前将太, 鬼頭茜, 久松洋介, 梅澤直樹, 樋口恒彦

基質認識能を有するルテニウムポルフィリンによる触媒的アルカン酸化における選択性.

日本薬学会第138年会 2018年3月27日(金沢).

久松洋介, 梅澤直樹, 樋口恒彦

プロトポルフィリン IX およびその鉄(III)錯体を認識するピンセット型宿主分子の設計・合成と応用.

日本薬学会第138年会 2018年3月27日(金沢).

樋口恒彦

活性酸素種との反応を引き金として鉄毒性低減能が惹起される分子の開発.

第71回日本酸化ストレス学会, 2018年5月17日(京都).

久松洋介, 大谷紘生, 梅澤直樹, 矢木宏和, 加藤晃一, 樋口恒彦

プロトポルフィリン IX 及びその鉄(III)錯体を認識する分子ピンセットの設計・合成と超分子型光増感剤への応用.

第16回ホスト-ゲスト・超分子化学シンポジウム, 2018年6月2-3日(野田).

Kanako Inabe, Hiroshi Suzuki, Yoshinori Shirakawa, Naoki Umezawa, Yosuke Hisamatsu, Tsunehiko Higuchi

Role of Thiolate Ligand in Spin State and Redox Switching in the Cytochrome P450 Catalytic Cycle.

International Conference on Porphyrins and Phthalocyanines (ICPP-10), 2018年7月1-6日(Munich, Germany).

天野祐一, 北川宙樹, 梅澤直樹, 佐藤心, 菊地正樹, 渡辺寿美, 梅原崇史, 樋口恒彦

LSD1 を阻害する還元環境応答性環状ペプチド.

生体機能関連化学部会若手の会 第30回サマースクール, 2018年7月19日(宮崎).

吹上雄大, 本間紘次郎, 久松洋介, 梅澤直樹, 樋口恒彦

生理的条件下での効率的化学発光のための新戦略.

生体機能関連化学部会若手の会 第30回サマースクール, 2018年7月19日(宮崎).

山口真史, 梅澤直樹, 久松洋介, 樋口恒彦

特殊ポリアミンの固相合成とタンパク質熱安定性に及ぼす効果.

生体機能関連化学部会若手の会 第 30 回サマースクール, 2018 年 7 月 19 日 (宮崎) .

矢野雄輝, 白川慶典, 梅澤直樹, 久松洋介, 樋口恒彦
シトクロム P450 の軸配位子のセレンラート置換モデル錯体の化学特性.
第 12 回バイオ関連化学シンポジウム, 2018 年 9 月 9 日 (吹田) .

久松 洋介, 大谷 紘生, 梅澤 直樹, 矢木 宏和, 加藤 晃一, 樋口 恒彦
光線力学療法への応用を指向した超分子型光増感剤の開発.
第 12 回バイオ関連化学シンポジウム, 2018 年 9 月 10 日 (吹田) .

樋口恒彦【招待講演】
シトクロム P450 の構造・機能モデル：初期のデザインから最新の展開まで.
生物無機夏季セミナー, 2018 年 9 月 13 日 (蒲郡) .

樋口恒彦, 天野太成, 久松洋介, 梅澤直樹
両面にポケット構造を有する各種ルテニウムポルフィリンの触媒するアルカンの ω -1 位選択的酸化
反応.
第 122 回触媒討論会, 2018 年 9 月 26 日 (函館) .

Tsunehiko Higuchi【招待講演】
Role of Axial Thiolate on the Catalytic Cycle of Cytochrome P450.
International Congress on Pure & Applied Chemistry (ICPAC)2018, 2018 年 10 月 28 日 – 11 月 2 日
(Langkawi) .

寺前将太, 鬼頭茜, 久松洋介, 梅澤直樹, 樋口恒彦
基質認識能を付与したルテニウムポルフィリン錯体による触媒的アルカン酸化の位置選択性.
第 51 回酸化反応討論会, 2018 年 11 月 1 日 (福岡) .

Tsunehiko Higuchi, Kanako Inabe, Yuuki Yano, Yoshinori Shirakawa, Naoki Umezawa, Yosuke Hisamatsu
【招待講演】
Synthetic Heme Thiolate and Heme Selenolate for Understanding Chemistry of Cytochrome P450.
9th Asian Biological Inorganic Chemistry Conference (AsBIC9), 2018 年 12 月 11 日 (Singapore) .

【薬品合成化学分野】

(原報)

Hideaki Kondo, Shuji Nagano, Hiroyuki Yamakoshi, Seiichi Nakamura
Tandem oxidation/cyclization reaction of 4-(arylmethyl)oxy-2-diazobutyrate derivatives.
Heterocycles, **97**, 894–915 (2018).

Naomi Tsuburaya, Kengo Homma, Tsunehiko Higuchi, Andrii Balia, Hiroyuki Yamakoshi, Norio Shibata, Seiichi Nakamura, Hidehiko Nakagawa, Shin-ichi Ikeda, Naoki Umezawa, Nobuki Kato, Satoshi Yokoshima, Masatoshi Shibuya, Manabu Shimonishi, Hirotatsu Kojima, Takayoshi Okabe, Tetsuo Nagano, Isao Naguro, Keiko Imamura, Haruhisa Inoue, Takao Fujisawa, Hidenori Ichijo
A small-molecule inhibitor of SOD1-Derlin-1 interaction ameliorates pathology in an ALS mouse model.
Nat. Commun., **9**, 1–12 (2018).

Minoru Ueda, Kengo Hayashi, Syusuke Egoshi, Yasuhiro Ishimaru, Yousuke Takaoka, Hiroyuki Yamakoshi, Kosuke Dodo, Mikiko Sodeoka
The alkyne-tag Raman imaging of coronatine, a plant pathogen virulence factor, in *Commelina communis* and its possible mode of action.
Org. Biomol. Chem., **16**, 3348–3352 (2018).

(学会発表)

山内裕貴, 山越博幸, 中村精一
抗腫瘍性ステロイドサポニン OSW-1 の合成研究.
日本薬学会第 138 年会, 2018 年 3 月 26 日 (金沢) .

中津川瑛美, 山越博幸, 中村精一 【優秀発表賞】
フタラン誘導体を用いる酸化/分子間 Diels–Alder 連続反応の開発.
日本薬学会第 138 年会, 2018 年 3 月 27 日 (金沢) .

渡部智啓, 山越博幸, 中村精一
酸性条件下でのジスピロケタールの平衡における共役効果の検証.
日本薬学会第 138 年会, 2018 年 3 月 27 日 (金沢) .

坂上友花梨, 澤山侑季, 山越博幸, 中村精一
鎮癌物質マルリブアセタールの誘導体合成研究.
日本薬学会第 138 年会, 2018 年 3 月 28 日 (金沢) .

斎藤彩有里, 山越博幸, 中村精一 【優秀発表賞】
カドコッシラクトン A の合成研究.
日本薬学会第 138 年会, 2018 年 3 月 28 日 (金沢) .

中津川瑛美, 山越博幸, 中村精一
イソベンゾフランの酸化的発生法を基盤とする連続反応の開発 – 分子間付加環化反応への展開 –.
第 64 回日本薬学会東海支部総会・大会, 2018 年 6 月 30 日 (名古屋) .

山越博幸 【招待講演】
小さな標識が拓く低分子化合物のラマンイメージング.

第 13 回若手イブニングセミナー, 2018 年 7 月 25 日 (名古屋) .

齋藤彩有里, 山越博幸, 中村精一

カドコシラクトン A の合成研究 ～光レドックス触媒を用いた環化によるヒドロインダン骨格の構築～.

第 35 回有機合成化学セミナー, 2018 年 9 月 19 日 (天童) .

陰未来, 高田峰辰, 山越博幸, 中村精一

フタラン誘導体の酸化/付加環化連続反応を鍵とするモルヒネの合成研究.

第 60 回天然有機化合物討論会, 2018 年 9 月 26 日 (久留米) .

陰未来, 山越博幸, 中村精一

酸素架橋環の構築と開環を鍵とするモルヒネの合成研究.

日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部合同学術大会 2018, 2018 年 11 月 4 日 (静岡) .

坂上友花梨, 澤山侑季, 山越博幸, 中村精一

ニガハッカ属植物由来ラブダンジテルペノイドの構造活性相関研究.

第 44 回反応と合成の進歩シンポジウム, 2018 年 11 月 6 日 (熊本) .

齋藤彩有里, 山越博幸, 中村精一

カドコシラクトン A の合成研究 ～DE 環部の立体選択的構築～.

第 44 回反応と合成の進歩シンポジウム, 2018 年 11 月 6 日 (熊本) .

中津川瑛美, 山越博幸, 中村精一

イソベンゾフランを中間体とする酸化/分子間付加環化連続反応の開発.

第 44 回反応と合成の進歩シンポジウム, 2018 年 11 月 6 日 (熊本) .

山越博幸【招待講演】

縮環骨格を持つ薬理活性天然物の合成研究.

第 544 回薬学研究科セミナー, 2018 年 12 月 10 日 (仙台) .

【機能分子構造学分野】

(学会発表)

市原淳一郎, 池田慎一

ニッケル触媒を用いたエノンとエンインの[2+2+2]環化付加反応の開発

日本薬院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部合同学術大会, 2018年11月4日(静岡) L-19.

【生体超分子システム解析学分野】

(原報)

Maya Fujita, Takaki Yagi, Umi Okura, Jun'ichi Tanaka, Naohide Hirashima, Masahiko Tanaka
Calcineurin B1 deficiency in glial cells induces mucosal degeneration and inflammation in mouse small intestine.

Biol. Pharm. Bull., **41**, 786-796 (2018).

Yu Inoue, Seiji Hasegawa, Katsuma Miyachi, Takaaki Yamada, Satoru Nakata, Sari Ipponjima, Terumasa Hibi, Tomomi Nemoto, Masahiko Tanaka, Ryo Suzuki, Naohide Hirashima
Development of 3D imaging technique of reconstructed human epidermis with immortalized human epidermal cell line.

Exp. Dermatol., **27**, 563-570 (2018).

(学会発表)

草田 智之, 稲本 奨平, 千田 知美, 平嶋 尚英, 鈴木 亮
抗原親和性が制御するマスト細胞の炎症性メディエータ選択的分泌機構の解析.
日本薬学会第 138 年会, 2018 年 3 月 26 日 (金沢) ; 26PA-am153S.

堀江 侑季, 荒目 俊明, 平嶋 尚英, 田中 正彦
小脳プルキンエ細胞の樹状突起形成への Ca^{2+} /カルモジュリン依存性蛋白質リン酸化酵素の関与 :
単一細胞エレクトロポレーションによる siRNA 導入を用いた解析.
日本薬学会第 138 年会, 2018 年 3 月 26 日 (金沢) ; 26PA-pm075.

服部 幸希, 鈴木 亮, 望月 雄司, 田中 正彦, 平嶋 尚英
マスト細胞の分泌顆粒に局在する Ca チャネル *Orai-2* による細胞内 Ca^{2+} 濃度制御.
日本薬学会第 138 年会, 2018 年 3 月 27 日 (金沢) ; 27PA-am343S.

横川 慧, 鈴木 崇弘, 井上 敏, 伊納 義和, 鈴木 亮, 金森 孝雄, 平嶋 尚英, 古野 忠秀
発光イメージング法を用いたグルカゴン分泌の可視化解析系の構築.
日本薬学会第 138 年会, 2018 年 3 月 27 日 (金沢) ; 27PA-am353.

鈴木 瑠理子, 横川 慧, 伊納 義和, 古野 忠秀, 鈴木 亮, 平嶋 尚英
IgG とハプテンによる活性化マスト細胞の抑制機構の研究.
日本薬学会第 138 年会, 2018 年 3 月 27 日 (金沢) ; 27J-pm09S.

井上 悠, 長谷川 靖司, 宮地 克真, 山田 貴亮, 長谷部 祐一, 中田 悟, 田中 正彦, 鈴木 亮, 平嶋 尚英
ミトコンドリアの融合と分裂が表皮幹細胞の増殖と分化に及ぼす影響の解析.
日本薬学会第 138 年会, 2018 年 3 月 28 日 (金沢) ; 28G-pm12.

田中 正彦, 荒目 俊明, 堀江 侑季, 平嶋 尚英
小脳プルキンエ細胞の樹状突起形成が Ca^{2+} /calmodulin-dependent protein kinase II α , II β , IV によって促進される.
第 41 回日本神経科学大会, 2018 年 7 月 27 日 (神戸) ; 2P-003.

鈴木 瑠理子、横川 慧、伊納 義和、鈴木 亮、古野 忠秀、平嶋 尚英

Fc 受容体の架橋状態の変化がもたらす活性化マスト細胞の抑制機構.
第 40 回生体膜と薬物の相互作用シンポジウム 2018 年 10 月 18 日 (仙台) ; A1-11.

田中 正彦, 大倉 宇海, 平嶋 尚英
GFAP-Cre calcineurin B α ^{fl/fl} mice における小腸グリア細胞の異常と消化・吸収不良との関連.
第 41 回日本分子生物学会年会, 2018 年 11 月 28 日 (横浜) ; 1P-524.

平嶋 尚英【招待講演】
マスト細胞 (好塩基球) で見えてきた新しい可能性.
金沢大学医薬保健研究域薬学系 2018 年度第 7 回バイオフィーマサイエンス先端セミナー, 2018 年 12 月 18 日 (金沢) .

【コロイド・高分子物性学分野】

(原報)

Jun Nozawa, Satoshi Uda, Suxia Guo, Akiko Toyotama, Junpei Yamanaka, Naoki Ihara, and Junpei Okada
Kink Distance and Binding Energy of Colloidal Crystals.
Cryst. Growth Des. **18** (10), 6078-6083 (2018).

Yuki Tomita, Tomotaka Seki, Nao Fukaya, Suguru Nishikawa, Naoko Sato, Mami Imai, Misato Suko, Miho Takaki, Yurina Aoyama, Akiko Toyotama, Tohru Okuzono, Junpei Yamanaka, Katsuo Tsukamoto, and Yuko Inatomi
Crystallization of Charged Colloids under Microgravity during Aircraft Parabolic Flights.
Int. J. Microgravity Sci. Appl. **35** (3) 350303 (2018).

Jun Nozawa, Satoshi Uda, Suxia Guo, Akiko Toyotama, Junpei Yamanaka, Junpei Okada, Haruhiko Koizumi
Step Kinetics Dependent on the Kink Generation Mechanism in Colloidal Crystal Growth.
Cryst. Growth Des. **18** (5), 2948-2955 (2018).

Masafumi Takeno, Sshinya Kitagawa, Junpei Yamanaka, Mayumi Teramoto, Haruka Tomita, Naohiro Shirai, Saotomo Itoh, Shigeaki Hida, Kazuichi Hayakawa, Kikuo Onozaki, Takemasa Takii
5-hydroxy-2-methylpyridine isolated from cigarette smoke condensate aggravates collagen-induced arthritis in mice.
Bio. Pharm. Bull. **41** (6), 877-884 (2018).

(総説・著書・総合論文など)

山中淳平, 奥菌透, 豊玉彰子
コロイド粒子の自己集合による構造形成
高分子, **67**, 647-650 (2018)

(学会発表)

山中淳平 【招待講演】
構造色を示すコロイド微粒子材料
第8回化粧品展、コスメテック 2018, 2018年1月24日 (千葉)

山中淳平
2成分コロイド系の枯渇引力による構造形成
東北大学共同セミナー, 2018年2月27日 (仙台)

豊玉彰子
枯渇引力系の結晶粒の凝集挙動
東北大学共同セミナー, 2018年2月27日 (仙台)

豊玉彰子
コロイド共晶の構造制御と新規波長選択光学材料の創製
CREST & さきがけ「超空間制御」合同シンポジウム～超空間が拓く革新的機能と新素材～, 2018年

3月21日（千葉）

山中淳平【招待講演】

高分子ゲルによるコロイド粒子の固定化と物理吸着.

バイオファーマージャパン2018 アカデミックセミナー, 2018年4月20日（東京）

Junpei Yamanaka, Tohru Okuzono, Akiko Toyotama

Clustering of oppositely charged colloidal particles

IACIS2018, 2018年5月22日（オランダ・ロッテルダム）

Tohru Okuzono, Tomotaka Seki, Akiko Toyotama, Junpei Yamanaka

Numerical study of self-electrophoresis of isotropic colloidal particles with chemical reactions

IACIS2018, 2018年5月25日（オランダ・ロッテルダム）

山中淳平

シリカ・ポリスチレン2成分コロイド系の枯渇引力による構造形成

東北大学共同セミナー, 2018年7月5日（仙台）

豊玉彰子

荷電コロイド系の枯渇引力の可視化

東北大学共同セミナー, 2018年7月5日（仙台）.

服部肇, 近藤陽子, 竹田優志, 山中淳平, 豊玉彰子, 奥菌透

反対符号に荷電したコロイド粒子のクラスター形成

第69回コロイドおよび界面化学討論会, 2018年9月20日（つくば）

山本瑠璃, 豊玉彰子, 奥菌透, 山中淳平

枯渇引力による3次元コロイド結晶構造の成長機構

第69回コロイドおよび界面化学討論会, 2018年9月20日（つくば）

野場亮汰, 豊玉彰子, 奥菌透, 山中淳平

荷電コロイド粒子クラスターの電気泳動および沈降挙動

第69回コロイドおよび界面化学討論会, 2018年9月20日（つくば）

岸田孝一, 佐藤結, 豊玉彰子, 奥菌透, 山中淳平

分光法および中性子散乱法による2成分枯渇引力コロイド系の構造

第69回コロイドおよび界面化学討論会, 2018年9月20日（つくば）

佐藤結, 岸田孝一, 豊玉彰子, 奥菌透, 山中淳平【ポスター発表賞】

2成分コロイド共晶の構造形成

第69回コロイドおよび界面化学討論会, 2018年9月20日（つくば）

三木裕之, 藤田みのり, 豊玉彰子, 奥菌透, 山中淳平

荷電コロイド粒子の四面体クラスターの構造評価

第69回コロイドおよび界面化学討論会, 2018年9月20日（つくば）

藤田みのり, 三木裕之, 豊玉彰子, 奥菌透, 山中淳平

荷電コロイド粒子の制御されたクラスター形成

第69回コロイドおよび界面化学討論会, 2018年9月20日（つくば）

山中淳平【招待講演】

「有機薄膜」「高分子ゲルによるコロイド粒子の固定化と物理吸着」

平成 30 年度先端膜工学研究推進機構秋季講演会・膜工学サロン, 2018 年 9 月 28 日 (神戸)

奥菌透, 関友崇, 松浦侑輝, 豊玉彰子, 山中淳平

化学反応を伴った荷電コロイド粒子の自己電気泳動に関する数値シミュレーション

第 66 回レオロジー討論会, 2018 年 10 月 18 日 (福岡)

山中淳平

金コロイド粒子の規則配列構造を用いたプラズモン材料

JST 新技術説明会, 2018 年 10 月 23 日 (東京)

服部肇, 竹田優志, 近藤陽子, 藤田みのり, 三木裕之, 山本和史, 奥菌透, 豊玉彰子, 山中淳平

コロイド系の凝集・会合体形成

第 47 回結晶成長国内会議, 2018 年 10 月 31 日 (仙台)

山本瑠璃, 豊玉彰子, 奥菌透, 野澤純, 宇田聡, 山中淳平

枯渇引力による 3 次元コロイド結晶構造の成長機構

結晶成長国内会議, 2018 年 11 月 2 日 (仙台)

Junpei Yamanaka【招待講演】

Self-assembly of Colloidal Particles

International Symposium & School on Crystal Growth Fundamentals, 2018 年 11 月 5 日 (仙台)

Yurina Aoyama, Akiko Toyotama, Tohru Okuzono, Junpei Yamanaka

Fabrication of 2D Charged Colloidal Crystals by Electrostatic Adsorption on Oppositely Charged Substrates

International Symposium & School on Crystal Growth Fundamentals, 2018 年 11 月 3-7 日 (仙台)

Tohru Okuzono, Tomotaka Seki, Akiko Toyotama, Junpei Yamanaka

Diffusiophoretic motion of a charged particle undergoing chemical reaction

Soft Matter Physics: from the perspective of the essential heterogeneity, 2018 年 12 月 10 日 (福岡)

【生命分子構造学分野】

(原報)

Hirokazu Yagi, Gengwei Yan, Tatsuya Suzuki, Shingo Tsuge, Takumi Yamaguchi, and Koichi Kato
Lewis X-carrying neoglycolipids evoke selective apoptosis in neural stem cells
Neurochem. Res., **43**, 212-218 (2018).

Maho Yagi-Utsumi, Arunima Sikdar, Toshiya Kozai, Rintaro Inoue, Masaaki Sugiyama, Takayuki Uchihashi, Hirokazu Yagi, Tadashi Satoh, and Koichi Kato
Conversion of functionally undefined homopentameric protein PbaA into a proteasome activator by mutational modification of its C-terminal segment conformation
Protein Eng. Des. Sel., **31**, 29-36 (2018).

Jintawee Kicuntod, Kanyani Sangpheak, Monika Mueller, Peter Wolschann, Helmut Viernstein, Saeko Yanaka, Koichi Kato, Warinthorn Chavasiri, Piamsook Pongsawasdi, Nawee Kungwan, and Thanyada Rungrotmongkol
Theoretical and Experimental Studies on Inclusion Complexes of Pinostrobin and β -Cyclodextrins
Sci. Pharm., **86**, 5 (2018).

Hirokazu Yagi, Daisuke Takakura, Lubka T. Roumenina, Wolf Herman Fridman, Catherine Sautès-Fridman, Nana Kawasaki, and Koichi Kato
Site-specific N-glycosylation analysis of soluble Fc γ receptor IIIb in human serum
Sci. Rep., **8**, Article number: 2719 (2018).

Koichi Kato, Takahisa Furuhashi, Koichi Kato, Akifumi Oda, and Eiji Kurimoto
The assembly mechanism of coiled-coil domains of the yeast cargo receptors Emp46p/47p and the mutational alteration of pH-dependency of complex formation
J. Biochem., **163**, 441-446 (2018).

Rina Yogo, Saeko Yanaka, and Koichi Kato
Backbone ^1H , ^{13}C , and ^{15}N assignments of the extracellular region of human Fc γ receptor IIIb
Biomol. NMR Assign., **12**, 201-204 (2018).

Katsuki Mukaigasa, Tadayuki Tsujita, Vu Thanh Nguyen, Li Li, Hirokazu Yagi, Yuji Fuse, Yaeko Nakajima-Takagi, Koichi Kato, Masayuki Yamamoto, and Makoto Kobayashi
Nrf2 activation attenuates genetic endoplasmic reticulum stress induced by a mutation in the phosphomannomutase 2 gene in zebrafish
Proc. Natl. Acad. Sci. USA, **115**, 2758-2763 (2018).

Nongluk Sriwilaijaroen, Shin-ichi Nakakita, Sachiko Kondo, Hirokazu Yagi, Koichi Kato, Takeomi Murata, Hiroaki Hiramatsu, Toshio Kawahara, Yohei Watanabe, Yasushi Kanai, Takao Ono, Jun Hirabayashi, Kazuhiko Matsumoto, and Yasuo Suzuki
N-glycan structures of human alveoli provide insight into influenza A virus infection and pathogenesis
FEBS J., **285**, 1611-1634 (2018).

Saeko Yanaka, Hirokazu Yagi, Rina Yogo, Maho Yagi-Utsumi, and Koichi Kato
Stable isotope labeling approaches for NMR characterization of glycoproteins using eukaryotic expression systems
J. Biomol. NMR, **71**, 193-202 (2018).

Kento Morita, Yohei Y. Yamamoto, Ayaka Hori, Tomohiro Obata, Yuko Uno, Kyosuke Shinohara, Keiichi Noguchi, Kentaro Noi, Teru Ogura, Kentaro Ishii, Koichi Kato, Mahito Kikumoto, Rocio Arranz, Jose M. Valpuesta, and Masahumi Yohda

Expression, functional characterization, and preliminary crystallization of the cochaperone prefoldin from the thermophilic fungus *Chaetomium thermophilum*
Int. J. Mol. Sci., **19**, 2452 (2018).

Yosuke Hisamatsu, Naoki Umezawa, Hirokazu Yagi, Koichi Kato, and Tsunehiko Higuchi

Design and synthesis of a 4-aminoquinoline-based molecular tweezer that recognizes protoporphyrin IX and iron(III) protoporphyrin IX and its application as a supramolecular photosensitizer
Chem. Sci., **9**, 7455-7467 (2018).

Yosuke Sakata, Kosuke Yabunaka, Yuko Kobayashi, Hirohisa Omiya, Naoki Umezawa, Hye-Sook Kim, Yusuke Wataya, Yoshimi Tomita, Yosuke Hisamatsu, Nobuki Kato, Hirokazu Yagi, Tadashi Satoh, Koichi Kato, Haruto Ishikawa, and Tsunehiko Higuchi

Potent antimalarial activity of two arenes linked with triamine designed to have multiple interactions with heme
ACS Med. Chem. Lett., **9**, 980-985 (2018).

Misato Ota, Kan'ichiro Ishiuchi, Xin Xu, Masaaki Minami, Yasutaka Nagachi, Maho Yagi-Utsumi, Yoshiaki Tabuchi, Shao-Qing Cai, and Toshiaki Makino

The immunostimulatory effects and chemical characteristics of heated honey
Journal of Ethnopharmacology, **228**, 11-17 (2018).

(総説・著書・総合論文など)

Teppey Ikeya, David Ban, Donghan Lee, Yutaka Ito, Koichi Kato, and Christian Griesinger

Solution NMR views of dynamical ordering of biomacromolecules
Biochim. Biophys. Acta –General Subjects, **1862**, 287-306 (2018).

Katsumi Matsuzaki, Koichi Kato, and Katsuhiko Yanagisawa

Ganglioside-mediated assembly of amyloid β -protein: Roles in Alzheimer's disease
Prog. Mol. Biol. Transl. Sci., **156**, 413-434 (2018).

Koichi Kato, Saeko Yanaka, and Hirokazu Yagi

Technical basis for nuclear magnetic resonance approach for glycoproteins
Experimental Approaches of NMR Spectroscopy (The Nuclear Magnetic Resonance Society of Japan ed.), Springer Nature Songapore, 415-438 (2018).

Koichi Kato and Tadashi Satoh

Structural insights on the dynamics of proteasome formation
Biophys. Rev., **10**, 597-604 (2018).

山口拓実, 渡邊東紀男, 矢木宏和, 加藤晃一

分子動力学計算と NMR 計測を用いた糖鎖の配座空間探査
J. Comput. Chem. Jpn., **17**, 1-7 (2018).

矢木宏和, 加藤晃一

常磁性 NMR 法と計算科学を組み合わせた糖鎖の動的コンホメーション解析
生化学, **90**, 198-202 (2018).

加藤晃一

糖鎖のコンフォメーション解析(1)

未来を創るグライコサイエンスー我が国のロードマップー (日本糖鎖科学コンソーシアム(JCGG)
編), pp.172-174 (2018).

Takumi Yamaguchi and Koichi Kato

Molecular Dynamics of Gangliosides

Gangliosides (S.Sonnino and A.Prinetti ed.), Methods in Molecular Biology, Humana Press (New York),
vol.1804, pp.411-417 (2018).

Koichi Kato, Hirokazu Yagi, and Takumi Yamaguchi

NMR characterization of the dynamic conformations of oligosaccharides

Modern Magnetic Resonance, 2nd Edition, (G.A.Webb ed.), Springer International Publishing, 737-754
(2018).

加藤晃一

奨励賞受賞 矢木真穂氏の業績

ファルマシア, **54**, 588 (2018).

加藤晃一, 谷中冴子

抗体の NMR 研究の趨向と展望

SAR News, **35**, 1-7 (2018).

Tadashi Satoh and Koichi Kato

Structural aspects of ER glycoprotein quality-control system mediated by glucose tagging

Glycobiophysics (Y.Yamaguchi and K.Kato ed.), Springer Nature Singapore, 149-169 (2018).

Hirokazu Yagi, Saeko Yanaka, and Koichi Kato

Structure and dynamics of immunoglobulin G glycoproteins

Glycobiophysics (Y.Yamaguchi and K.Kato ed.), Springer Nature Singapore, 219-235 (2018).

加藤晃一, 谷中冴子, 矢木宏和

バイオ医薬品への構造生物学的アプローチ

薬学雑誌, **138**, 1495-1502 (2018).

佐藤匡史, 加藤晃一

集合シャペロンを介したプロテアソーム形成機構

医学のあゆみ, **276**, 949-953 (2018).

佐藤匡史, 加藤晃一

糖タンパク質品質管理システムの構造基盤

日本結晶成長学会誌, **45**, 45-4-04 (2018).

矢木真穂, 杉山正明, 内橋貴之, 佐藤匡史, 加藤晃一

業績紹介: C 末端領域のコンフォメーションを制御することによりホモ 5 量体蛋白質 PbaA にプロテ
アソーム活性化能を賦与した

“Dynamical Ordering & Integrated Functions” Newsletter Vol.54, p1 (2018).

加藤晃一
第6回国際シンポジウムを終えて
“Dynamical Ordering & Integrated Functions” Newsletter Vol.54, p4-5 (2018).

加藤晃一
“Biophysical exploration of dynamical ordering of biomolecular systems” の刊行
“Dynamical Ordering & Integrated Functions” Newsletter Vol.54, p15-17 (2018).

加藤晃一
活動報告：アミロイド線維の形成機構に関する宇宙実験
“Dynamical Ordering & Integrated Functions” Newsletter Vol.54, p18 (2018).

矢木真穂
受賞報告（平成30年度日本薬学会奨励賞）
“Dynamical Ordering & Integrated Functions” Newsletter Vol.56, p15 (2018).

加藤晃一
領域活動を終えるにあたって
“Dynamical Ordering & Integrated Functions” Newsletter Vol.58, p1-2 (2018).

加藤晃一，矢木真穂，谷中冴子
活動報告：アミロイド線維の形成機構に関する宇宙実験
“Dynamical Ordering & Integrated Functions” Newsletter Vol.58, p10 (2018).

加藤晃一，矢木真穂
活動報告：“Frontier Bioorganization Forum 2018”
“Dynamical Ordering & Integrated Functions” Newsletter Vol.58, p11 (2018).

加藤晃一
加藤グループの齋藤泰輝さんが ExCELLS Young Scientists Forum 2018 で Poster Presentation Award を受賞
“Dynamical Ordering & Integrated Functions” Newsletter Vol.58, p13 (2018).

加藤晃一
異分野融合に想う
生物物理, **58**, 233 (2018).

加藤晃一
統合バイオから創薬生命探究センター (ExCELLS) へ
分子研レターズ, **78**, 23 (2018).

加藤晃一
日本核磁気共鳴学会第9期会長の就任にあたり
日本核磁気共鳴学会機関誌, **9**, 5 (2018).

矢木 宏和
自分なりの研究の色
若手研究者から聞く一奨励賞受賞者からのコメント, 日本生化学会ホームページ (2018).

矢木 宏和
ミトコンドリア、ゴルジ体に関連する 応答ゾーン、連携ゾーン解析
ORGANELLE ZONE ON LINE NEWS LETTER Vol.1 p.3 (2018).

Kensuke Kurihara, Muneyuki Matsuo, Takumi Yamaguchi, and Sota Sato
Synthetic approach to biomolecular science by cyborg supramolecular chemistry
Biochim. Biophys. Acta –General Subjects, **1862**, 358-364 (2018).

(学会発表)

小藤加奈, 矢木宏和, 矢木真穂, 加藤晃一
NMR 法を利用した味覚修飾タンパク質クルクリンと甘味受容体との相互作用解析
第 5 回 将来を見据えた生体分子の構造・機能解析から分子設計に関する研究会
2018 年 1 月 11 日 (名古屋)

関口太一郎, 河村裕樹, 栗本英治, 矢木宏和, 佐藤匡史, 加藤晃一
構造に基づいたプロテアソームのサブユニット集合メカニズムの理解
第 5 回 将来を見据えた生体分子の構造・機能解析から分子設計に関する研究会
2018 年 1 月 11 日 (名古屋)

Koichi Kato 【招待講演】

Dynamic ordering in Proteasome formation for Creation of Integrated Functions
新学術領域研究「動的秩序と機能」第 6 回 国際シンポジウム 2018 年 1 月 20 日 (浜松) ; L01.

Yasuhiro Yunoki, Hirokazu Yagi, Maho Yagi-Utsumi, Kentaro Ishii, Reiko Murakami, Kazuki Terauchi,
Susumu Uchiyama, Koichi Kato

AT Pase activity of KaiC regulates KaiA-binding in the circadian clock system in cyanobacteria
新学術領域研究「動的秩序と機能」第 6 回 国際シンポジウム 2018 年 1 月 20 日 (浜松) ; P057.

Rina Yogo, Saeko Yanaka, Hirokazu Yagi, Rintaro Inoue, Masaaki Sugiyama, Koichi Kato 【優秀ポスター
賞】

Analyses of IgG-Fc and Fc receptor interaction using nuclear magnetic resonance and small-angle neutron
scattering
新学術領域研究「動的秩序と機能」第 6 回 国際シンポジウム 2018 年 1 月 20 日 (浜松) ; P063.

矢木宏和
溶液散乱を利用した時計タンパク質複合体の構造解析
京都大学原子炉実験所 第 52 回 学術講演会 2018 年 1 月 25 日 (熊取) ; P36.

佐藤匡史, 加藤晃一
グルコース残基を目印とした糖タンパク質品質管理システムの構造基盤
理研シンポジウム 細胞内糖修飾の統合的ケミカルバイオロジー 2018 年 1 月 26 日 (和光)

加藤晃一
抗体の糖鎖修飾をモデルとした糖転移酵素の細胞内局在の探査
平成 29 年度 学融合推進センター公開研究報告会 2018 年 2 月 8 日 (葉山)

石井健太郎, 関口太一郎, 矢木宏和, 佐藤匡史, 内山 進, 加藤晃一
超分子質量分析によるプロテアソーム構成サブユニットの相互作用解析

平成 29 年度 生物物理学会中部支部 講演会 2018 年 3 月 5 日 (名古屋) ; T03.

本田怜奈, 矢木真穂, 矢木宏和, 青木一洋, 加藤晃一
タンパク質の糖鎖修飾制御機構の解明に向けた糖転移酵素の局在観察
平成 29 年度 生物物理学会中部支部 講演会 2018 年 3 月 5 日 (名古屋) ; T13.

加藤晃一【依頼講演】

「生命創成探究センターの設立に向けて」
自然科学研究機構長プレス懇談会 (第 13 回) 2018 年 3 月 9 日 (東京)

Maho Yagi-Utsumi【招待講演】

Multiple structural architectures of archaeal homolog of proteasome assembly chaperone
The 8th Taiwan-Japan Joint Meeting on Neutron and X-ray Scattering 2018 年 3 月 16 日 (台湾) ; B9.

柴田幹大, 飯野亮太, 矢木宏和
糖鎖の合成と分解を可視化する AFM/一分子 FRET 複合機の開発
融合発展促進研究プロジェクト実績報告会 2018 年 3 月 19 日 (岡崎)

山口拓実, 奥村久士, 矢木真穂
生体分子の柔構造にコードされた生命機能情報の解読
融合発展促進研究プロジェクト実績報告会 2018 年 3 月 19 日 (岡崎)

中根健汰, 鈴木達哉, 谷中冴子, 加藤晃一, 山口拓実
分子シャペロンによるモノグルコシル化糖鎖認識機構の解析
日本化学会 第 98 春季年会 2018 年 3 月 20 日 (船橋) ; 1D4-27.

Nobuko Hosokawa, Shangyu Yu, Hirokazu Yagi, Shinji Ito, Koichi Kato, Ikuo Wada
ERp46 triggers mannose trimming activity of EDEM3
International Symposium on ER stress, glycosylation, homeostasis and diseases 2018 年 3 月 22-23 日 (和光)

矢木真穂【奨励賞受賞講演】

NMR 分光法を基軸としたタンパク質の構造ダイナミクスと分子集合メカニズムの解明
NMR Characterization of Conformational Dynamics and Molecular Assemblies of Proteins
日本薬学会 第 138 年会 2018 年 3 月 27 日 (金沢) ; AL17.

谷中冴子, 與語理那, 矢木宏和, 加藤晃一【招待講演】

抗体医薬の作動メカニズムの構造基盤
Structural basis of the working mechanisms of therapeutic antibodies
日本薬学会 第 138 年会 2018 年 3 月 28 日 (金沢) ; S47-3.

與語理那, 谷中冴子, 矢木宏和, 井上倫太郎, 杉山正明, 加藤晃一
核磁気共鳴法と中性子小角散乱法による Fc と Fc 受容体の相互作用解析
Analysis of Fc and Fc receptor interaction using nuclear magnetic resonance and small-angle neutron scattering
日本薬学会 第 138 年会 2018 年 3 月 28 日 (金沢) ; 28X-am12S.

矢木宏和, 梅澤芙美子, 尾林卓幸, Chu-Wei Kuo, Kay-Hooi Khoo, 加藤晃一
 α -ジストログリカン上のホスホジエステル結合を有する糖鎖の構造解析
日本生化学会中部支部 第 82 回例会・シンポジウム 2018 年 5 月 19 日 (岐阜) ; P-04.

小川光貴, 坂口大和, 矢木宏和, 加藤晃一, 竹内英之, 岡島徹也
O-GlcNAc は Notch 受容体 EGF20 の安定性を増強する
日本生化学会中部支部 第 82 回例会・シンポジウム 2018 年 5 月 19 日 (岐阜) ; P-72.

加藤晃一【招待講演】
「生命創成探究センターについて～みる・よむ・つくる～」
生命創成探究センター開所記念講演会 2018 年 5 月 28 日 (岡崎)

Taiki Saito, Hirokazu Yagi, Chu-Wei Kuo, Kay-Hooi Khoo, Koichi Kato
The specific amino acid sequence of LAMP-1 is responsible for FUT9-dependent Lewis X modification
第 70 回日本細胞生物学会 第 51 回日本発生生物学会合同大会 2018 年 6 月 6 日 (東京) ; P1-4F2-36.

矢木宏和
O-Man 型糖鎖における新規グリセロールリン酸修飾
平成 30 年度 比較グライコーム研究会 2018 年 6 月 9 日 (香川) ; S6.

谷中冴子
抗体の分子認識を契機とする補体系の活性化を活写する
新学術領域研究「動的構造生命」第 4 回班会議 2018 年 6 月 12 日 (福岡)

矢木宏和
アッセンブリーシャペロンが関わるプロテアソームの動的成熟過程の活写
新学術領域研究「動的構造生命」第 4 回班会議 2018 年 6 月 12 日 (福岡)

柚木康弘, 矢木宏和, 矢木-内海真穂, 石井健太郎, 村上怜子, 内山 進, 加藤晃一
ATP hydrolysis within KaiC hexamer induces conformational changes in its C-terminal segments, thereby promoting their interaction with KaiA
第 18 回 日本蛋白質科学会年会 2018 年 6 月 26 日 (新潟) ; 1P-005.

谷中冴子, 與語理那, 矢木宏和, 加藤晃一【ワークショップ】【招待講演】
血清環境下における抗体の相互作用解析
Characterization of antibody interactions in serum environment
第 18 回 日本蛋白質科学会年会 2018 年 6 月 28 日 (新潟) ; 3WDp-04.

安海一優, 篠原恭介, 野口恵一, 石井健太郎, 加藤晃一, 井上倫太郎, 守島 健, 杉山正明, 養王田正文
CHO 細胞由来 HspB1 のオリゴマー構造の解明
Study on the oligomeric structure of the small Heat Shock Protein from CHO cell, CgHspB1
第 18 回 日本蛋白質科学会年会 2018 年 6 月 28 日 (新潟) ; 3P-006.

矢木宏和
血液凝固因子の輸送に関わるアミノ酸配列の同定と選別輸送ゾーンへの影響
新学術領域研究「オルガネラゾーン」第 1 回班会議 2018 年 6 月 27-28 日 (葉山)

Koichi Kato【招待講演】
What is life? What is ExCELLS?
Frontier Bioorganization Forum 201 2018 年 7 月 8 日 (岡崎) ; O-1.

Maho Yagi-Utsumi, Koichi Kato

NMR characterization of conformational dynamics and molecular assemblies of proteins

ExCELLS Young Scientists Forum 2018 2018年7月10日(岡崎) ; Y-1.

Yasuhiro Yunoki, Hirokazu Yagi, Maho Yagi-Utsumi, Kentaro Ishii, Reiko Murakami, Susumu Uchiyama, Koichi Kato

KaiC ATP hydrolysis regulates KaiA-KaiC interaction through the conformational changes in its C-terminal segments in the cyanobacterial circadian clock system

ExCELLS Young Scientists Forum 2018 2018年7月10日(岡崎) ; P07.

Taiki Saito, Hirokazu Yagi, Shingo Tsuge, Chu-Wei Kuo, Kay-Hooi Khoo, Koichi Kato 【Poster Presentation Award 受賞】

FUT9-dependent Lewis X modification is mediated through the specific amino acid sequence of LAMP-1

ExCELLS Young Scientists Forum 2018 2018年7月10日(岡崎) ; P17.

Tatsuya Suzuki, Saeko Yanaka, Tokio Watanabe, Gengwei Yan, Tadashi Satoh, Hirokazu Yagi, Takumi Yamaguchi, Koichi Kato

Development of high binding affinity oligosaccharide for lectin by reshaping of its conformational space

ExCELLS Young Scientists Forum 2018 2018年7月10日(岡崎) ; P19.

Rina Yogo, Saeko Yanaka, Hirokazu Yagi, Rintaro Inoue, Masaaki Sugiyama, Koichi Kato

Characterization of interaction between IgG-Fc and Fc receptor glycoproteins using nuclear magnetic resonance and small-angle neutron scattering

ExCELLS Young Scientists Forum 2018 2018年7月10日(岡崎) ; P21.

Kentaro Ishii, Koichi Kato, Susumu Uchiyama

Native mass spectrometry: mass spectrometry for molecular complex assembled by weak interaction

ExCELLS Young Scientists Forum 2018 2018年7月10日(岡崎) ; P22.

中根健汰, 鈴木達哉, 谷中冴子, 加藤晃一, 山口拓実

合成糖鎖基質を用いたレクチン-糖鎖の動的相互作用機構の解析

生体機能関連化学部会若手の会 第30回サマースクール 2018年7月19日(宮崎)

加藤晃一, 山口拓実 【招待講演】

Application of coordination chemistry approach to structural analysis of carbohydrate chains of biological interest

43rd International Conference on Coordination Chemistry (ICCC2018) 2018年8月4日(仙台) ; S58.

谷中冴子 【招待講演】

部位選択的重水素化を活用した抗体の血清中での相互作用解析

第19回若手NMR研究会 2018年8月5日(呉) ; 口頭発表08.

山口拓実 【招待講演】

常磁性効果を活用した糖鎖の動的構造解析

第19回若手NMR研究会 2018年8月5日(呉) ; 口頭発表09.

柚木康弘, 矢木宏和, 矢木真穂, 石井健太郎, 村上怜子, 内山 進, 加藤晃一

ATP加水分解による時計タンパク質の相互作用の制御

第19回若手NMR研究会 2018年8月5日(呉) ; 口頭発表12.

齋藤泰輝, 矢木宏和, Chu-Wei Kuo, Kai-Hooi Khoo, 加藤晃一
フコース転移酵素による特定のタンパク質への Lewis X 修飾機構
第 37 回 日本糖質学会年会 2018 年 8 月 28 日 (仙台) ; 1A-06.

加藤晃一, 深瀬浩一, 秋吉一成, 千葉靖典, 門松健治【シンポジスト】
“シンポジウム：糖鎖関連大型研究の現状と将来展望”
第 37 回 日本糖質学会年会 2018 年 8 月 29 日 (仙台)

鈴木達哉, 谷中冴子, 渡邊東紀男, Gengwei Yan, 佐藤匡史, 矢木宏和, 山口拓実, 加藤晃一
コンフォメーション空間の改変によるレクチン高親和性糖鎖の創成
第 37 回 日本糖質学会年会 2018 年 8 月 29 日 (仙台) ; P-093.

原田陽一郎, 鈴木健裕, 福重智子, 木塚康彦, 矢木宏和, 井上博雅, 加藤晃一, 谷口直之, 金蔵拓郎, 堂前直, 丸山征郎
エクソソームの不均一性の形成における解糖系の役割の解析
第 37 回 日本糖質学会年会 2018 年 8 月 30 日 (仙台) ; 3A-12.

本田怜奈, 矢木真穂, 矢木宏和, 青木一洋, 加藤晃一
エリスロポエチンの糖鎖修飾をモデルとした糖転移酵素の細胞内局在の探査
第 37 回 日本糖質学会年会 2018 年 8 月 30 日 (仙台) ; P-082.

矢木宏和, 鈴木達哉, 谷中冴子, 山口拓実, 加藤晃一【招待講演】
NMR と計算科学の統合による糖鎖の 3 次元構造ダイナミクスの解析
第 27 回 日本バイオイメーjing学会学術集会 2018 年 9 月 3 日 (つくば) ; S1a-1.

吉田早希, 矢木宏和, 渡辺大輝, 小賤稔矢, 守島健, 杉山正明, 内橋貴之, 加藤晃一
高速 AFM による 2 つの異なる転移活性ドメインを有する糖転移酵素の動的構造解析
第 27 回 日本バイオイメーjing学会学術集会 2018 年 9 月 3 日 (つくば) ; P5.

鈴木達哉, 谷中冴子, 渡邊東紀男, Gengwei Yan, 佐藤匡史, 矢木宏和, 山口拓実, 加藤晃一
動的な構造の制御によるレクチン高親和性糖鎖の創成
糖鎖科学中部拠点 第 15 回「若手のカフォーラム」2018 年 9 月 6 日 (静岡) ; P-27.

本田怜奈, 矢木真穂, 矢木宏和, 青木一洋, 加藤晃一【糖鎖科学中部拠点奨励賞】
エリスロポエチンをモデルとした糖鎖修飾の制御機構の解明
糖鎖科学中部拠点 第 15 回「若手のカフォーラム」2018 年 9 月 6 日 (静岡) ; P-28.

加藤晃一【招待講演】
糖タンパク質の構造計測
バイオ計測サイエンス研究部会第 1 回シンポジウム 2018 年 9 月 8 日 (吹田)

Hirokazu Yagi【招待講演】
Assembly and disassembly mechanisms of proteasome revealed by multilateral biophysical approaches
The 4th Polish Korean Conference “Protein Folding: Theoretical and Experimental Approaches” 2018 年 9 月 9 日 (Iława, Poland)

山口拓実, 龍岡博亮, Yan Gengwei, 鈴木達哉, 加藤晃一
糖鎖コンフォメーション空間の探査と化学的改変
第 12 回 バイオ関連化学シンポジウム 2018 年 9 月 9 日 (吹田) ; 1B-07.

Saeko Yanaka, Hiroki Watanabe, Rina Yogo, Hirokazu Yagi, Takayuki Uchihashi, Koichi Kato 【招待講演】

Structural characterization of antibody interactions in situ

第 56 回 日本生物物理学会年会 2018 年 9 月 16 日 (岡山) ; 2SIP-4.

Methanee Hiranyakorn, Saeko Yanaka, Maho Yagi-Utsumi, Koichi Kato

NMR characterization of conformational dynamics of cyclic and linear Lys48-linked ubiquitin chains

第 56 回 日本生物物理学会年会 2018 年 9 月 16 日 (岡山) ; 2M1424.

Taichiro Sekiguchi, Tadashi Satoh, Kentaro Ishii, Hirokazu Yagi, Koichi Kato

Characterization of the “scrap-and-build” process in the proteasome α ring formation

第 56 回 日本生物物理学会年会 2018 年 9 月 17 日 (岡山) ; 3Pos080.

與語理那, 谷中冴子, 矢木宏和, 井上倫太郎, 杉山正明, 加藤晃一

核磁気共鳴法と中性子小角散乱法による Fc と Fc γ 受容体の相互作用解析

第 57 回 NMR 討論会 2018 年 9 月 18 日 (札幌) ; P18.

谷中冴子, 山崎俊夫, 與語理那, 矢木宏和, 加藤晃一

血清中での抗体間の相互作用解析

第 57 回 NMR 討論会 2018 年 9 月 20 日 (札幌) ; L3-11.

矢木真穂, 加藤晃一, 西村勝之

固体 NMR 法を用いたガングリオシド膜上におけるアミロイド β の構造解析

第 57 回 NMR 討論会 2018 年 9 月 20 日 (札幌) ; P57.

矢木宏和 【日本生化学会奨励賞受賞講演】

タンパク質の糖鎖修飾の特異性を決定する分子メカニズムの解明

第 91 回 日本生化学会大会 2018 年 9 月 24 日 (京都)

谷中冴子 【招待講演】

抗体研究から学ぶこと

第 91 回 日本生化学会大会 生化学若い研究者の会創立 60 周年記念シンポジウム「生命科学の来し方行く末」 2018 年 9 月 24 日 (京都) ; 1S09e-05.

矢木宏和, 本田怜奈, 姫田美咲, 佐藤匡史, 青木一洋, 矢木真穂, 加藤晃一

血液凝固因子の輸送に関わるアミノ酸配列の同定と分泌過程への影響

第 91 回 日本生化学会大会 2018 年 9 月 24 日 (京都) ; 1T11a-07, 1P-034.

Koichi Kato 【招待講演】

Biomolecular organization for creation of integrated functions

生命分子の動秩序形成と機能創発

第 1 回 ExCELLS シンポジウム 2018 年 10 月 15 日 (岡崎)

渡辺大輝, Christian Ganser, 内橋貴之, 加藤晃一

高速 AFM を基盤とした生命構成要素の動態解析技術の開発

第 1 回 ExCELLS シンポジウム 2018 年 10 月 15 日 (岡崎) ; P-09.

Tatsuya Suzuki, Saeko Yanaka, Tokio Watanabe, Gengwei Yan, Tadashi Satoh, Hirokazu Yagi, Takumi Yamaguchi, and Koichi Kato

Development of high binding affinity oligosaccharide for lectin by reshaping of its structural dynamics
第1回 ExCELLS シンポジウム 2018年10月15日(岡崎) ; P-27.

Taichiro Sekiguchi, Tadashi Satoh, Kentaro Ishii¹, Hirokazu Yagi, and Koichi Kato
Characterization of the “scrap-and-build” process in the proteasome α ring formation
第1回 ExCELLS シンポジウム 2018年10月15日(岡崎) ; P-28.

Yasuhiro Yunoki, Hirokazu Yagi, Maho Yagi-Utsumi, Kentaro Ishii, Reiko Murakami, Susumu Uchiyama,
and Koichi Kato
KaiA-KaiC interaction is regulated by KaiC ATP hydrolysis through the conformational changes in its
flexible C-terminal segments
第1回 ExCELLS シンポジウム 2018年10月15日(岡崎) ; P-29.

Kentaro Ishii, Koichi Kato, and Susumu Uchiyama
Native MS for characterizing non-covalent complexes
第1回 ExCELLS シンポジウム 2018年10月15日(岡崎) ; P-30.

小藤加奈, 矢木宏和, 加藤晃一【ベストプレゼン賞】
無細胞発現系を利用した甘味受容体の大量発現系の構築
日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部合同学術大会 2018 2018年11月4日(静岡)
; D-4.

ソンドクヨン, 谷中冴子, 與語理那, 矢木宏和, Pornthip Boonsri, 加藤晃一
ヒト抗体軽鎖定常領域のNMR解析
日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部合同学術大会 2018 2018年11月4日(静岡)
; D-5.

梅澤英美子, 矢木宏和, 川島博人, 加藤晃一
リン酸ジエステル結合を有する糖鎖に対する抗体の樹立と性状解析
日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部合同学術大会 2018 2018年11月4日(静岡)
; J-18.

加藤晃一【招待講演】
アルツハイマー病発症メカニズムを知る鍵、「アミロイド線維」を宇宙実験でつくる
“未来へのバイオ技術”勉強会「宇宙と健康医療研究～抗加齢を中心に」 2018年11月6日(東京)

Tadashi Satoh and Koichi Kato【招待講演】
Structural mechanisms underlying the ER quality control associated with glucose tagging
2018 Society for Glycobiology Annual Meeting 2018年11月6日(New Orleans)

Koichi Kato【招待講演】
An integrative structural study of antibody
The 6th International Symposium on Drug Discovery and Design by NMR 2018年11月13日(横浜)

Koichi Kato【招待講演】
In situ structural characterization of antibody interactions
The 18th KIAS Conference on Protein Structure and Function 2018年11月16日(Seoul)

Hirokazu Yagi【招待講演】

Integrative structural approaches for understanding conformational dynamics of oligosaccharides and glycoproteins
10th Asian Community of Glycoscience and Glycotechnology Conference 2018年11月18日 (台南)

Tatsuya Suzuki, Saeko Yanaka, Tokio Watanabe, Gengwei Yan, Tadashi Satoh, Hirokazu Yagi, Takumi Yamaguchi, Koichi Kato
Development of high-affinity glycan for lectin by reshaping of its structural dynamics
2018 Japan&Korea Joint Seminars on Biomolecular Sciences 2018年11月18日 (Seoul)

Rina Yogo, Saeko Yanaka, Hirokazu Yagi, Rintaro Inoue, Masaaki Sugiyama, Koichi Kato
Characterization of dynamics and functions of antibodies
2018 Japan&Korea Joint Seminars on Biomolecular Sciences 2018年11月18日 (Seoul)

Methanee Hiranyakorn, Saeko Yanaka, Maho Yagi-Utsumi, Koichi Kato
NMR analysis of conformational dynamics of linear Lys48-linked ubiquitin chains
2018 Japan&Korea Joint Seminars on Biomolecular Sciences 2018年11月18日 (Seoul)

Maho Yagi-Utsumi, Koichi Kato
NMR analyses of conformational dynamics and molecular assemblies of amyloid- β
2018 Japan&Korea Joint Seminars on Biomolecular Sciences 2018年11月18日 (Seoul)

Maho Yagi-Utsumi 【依頼講演】
NMR structural analyses of molecular assembly of amyloid- β
The 2nd IMS-NANOTEC Joint Research Meeting 2018年11月22日 (岡崎)

加藤晃一 【依頼講演】
「ExCELLS」
教育研究評議会 (第58回) における研究発表 2018年11月29日 (東京)

守島 健, 佐藤信浩, 井上倫太郎, 與語理那, 谷中冴子, 矢木宏和, 加藤晃一, Anne Martel, Lionel Porcar, 杉山正明
解離会合平衡下にあるタンパク質会合体の構造解析
日本中性子学会第18回年会 2018年12月5日 (水戸) ; P2-27.

矢木宏和
ペプチド修飾による糖タンパク質の糖鎖修飾の制御
平成30年度 中部地区 医療・バイオ系シーズ発表会 2018年12月12日 (名古屋)

矢木宏和
特異的な糖鎖修飾を担うゴルジ体ゾーンの解析
新学術領域研究「オルガネラゾーン」第2回班会議 2018年12月17日 (東京)

Kongsema Mesayamasa, Saeko Yanaka, Rina Yogo and Koichi Kato
Lanthanide-Binding tag for Protein Interaction Observation by NMR Spectroscopy
SOKENDAI Asian Winter School 2018 "Challenges for New Frontiers in Molecular Science: From Basics to Advanced Researches" 2018年12月19日 (岡崎)

Methanee Hiranyakorn, Saeko Yanaka, Maho Yagi-Utsumi and Koichi Kato
Conformational dynamics of linear Lys48-linked ubiquitin chains studied by NMR
SOKENDAI Asian Winter School 2018 "Challenges for New Frontiers in Molecular Science: From Basics to

【分子生物薬学分野】

(原報)

Kita Y, Katayama Y, Shiraishi T, Oka T, Sato T, Suyama M, Ohkawa Y, Miyata K, Oike Y, Shirane M., Nishiyama M, Nakayama KI, and Nakayama, K. I.

The Autism-Related Protein CHD8 Cooperates with C/EBP β to Regulate Adipogenesis.
Cell Rep., 15, 1988-2000 (2018).

Nakatsumi H, Oka T, Higa T, Shirane M., and Nakayama, K. I.

Nuclear–cytoplasmic shuttling protein PP2A^{B56} contributes to mTORC1-dependent dephosphorylation of FOXK1.

Genes Cells, 23, 599-605 (2018).

Hashimoto, Y., *Shirane, M., and Nakayama, K. I. (*Corresponding author)

TMEM55B contributes to lysosomal homeostasis and amino acid–induced mTORC1 activation.

Genes Cells, 23, 418-434 (2018).

(学会発表)

田部井 寿隆, 喜多 泰之, 中津海 洋一, 白根 道子

神経系における mTOR 制御分子の機能解析.

第 64 回日本薬学会東海支部大会, 2018 年 6 月 30 日 (名古屋) .

松尾 奏江, 喜多 泰之, 中津海 洋一, 白根 道子

ステロイドホルモン分泌における小胞体機能の解析.

第 64 回日本薬学会東海支部大会, 2018 年 6 月 30 日 (名古屋) .

白根 道子 【招待講演】

神経疾患の原因のメカニズム.

平成 30 年度 東海薬剤師生涯学習センター講座, 2018 年 7 月 11 日 (名古屋) .

喜多 泰之, 中山 敬一, 白根 道子

自閉症関連タンパク質 CHD8 による肥満制御機構の解明.

日本薬学会東海支部合同学術大会 2018, 2018 年 11 月 4 日 (静岡) .

飯田 萌子, 井上 靖道, 今川 正良, 白根 道子, 長田 茂宏

ヒストンアセチル化酵素 HBO1 が HeLa 細胞の足場非依存的増殖能に与える影響.

日本薬学会東海支部合同学術大会 2018, 2018 年 11 月 4 日 (静岡) .

大村 隆之, 中村 真也, 林 秀敏, 今川 正良, 白根 道子, 長田 茂宏

クラス IIa ヒストン脱アセチル化酵素と huntingtin associated protein 1 の相互作用.

日本薬学会東海支部合同学術大会 2018, 2018 年 11 月 4 日 (静岡) .

徐 美香, 喜多 泰之, 中津海 洋一, 白根 道子

脳の側坐核におけるうつ病関連遺伝子の解析.

日本薬学会東海支部合同学術大会 2018, 2018 年 11 月 4 日 (静岡) .

中村 優里, 喜多 泰之, 中津海 洋一, 白根 道子

神経細胞内輸送における PKA の関与と制御機構.
日本薬学会東海支部合同学術大会 2018, 2018 年 11 月 4 日 (静岡) .

喜多 泰之, 中山 敬一, 白根 道子
自閉症関連因子 CHD8 は C/EBP β と協調して脂肪分化を制御する.
第 17 回次世代を担う若手フォーラム・バイオフィォーラム (PBF2018) , 2018 年 9 月 1 日 (熊本) .

中津海 洋一 【招待講演】
mTORC1 依存的な転写因子の脱リン酸化メカニズムとその生物学的意義.
第 91 回日本生化学会大会, 2018 年 9 月 24 日 (京都) .

喜多 泰之, 西山 正章, 片山 雄太, 白根 道子, 中山 敬一
脂肪分化におけるクロマチンリモデラーCHD8 の genome-wide 解析.
第 41 回日本分子生物学会年会, 2018 年 11 月 28 日 (横浜) .

國松 澪奈, 喜多 泰之, 中津海 洋一, 中山 敬一, 白根 道子
プロトルーディン複合体による膜接触部位の形成機構.
第 41 回日本分子生物学会年会, 2018 年 11 月 28 日 (横浜) .

林 直希, 喜多 泰之, 中津海 洋一, 中山 敬一, 白根 道子
プロトルーディン複合体による膜接触部位を介した細胞内カルシウム調節機構.
第 41 回日本分子生物学会年会, 2018 年 11 月 28 日 (横浜) .

松本 悠希, 喜多 泰之, 中津海 洋一, 中山 敬一, 白根 道子
モノアミン分泌における細胞内輸送制御分子プロトルーディンの関与.
第 41 回日本分子生物学会年会, 2018 年 11 月 28 日 (横浜) .

山畑 育子, 喜多 泰之, 中津海 洋一, 中山 敬一, 白根 道子
神経細胞の樹状突起スパイン成熟におけるプロトルーディンの関与と機構.
第 41 回日本分子生物学会年会, 2018 年 11 月 28 日 (横浜) .

中津海 洋一
Noncanonical Pathway for Regulation of CCL2 Expression by an mTORC1-FOXK1 Axis Promotes Recruitment of Tumor-Associated Macrophages.
第 47 回日本免疫学会, 2018 年 12 月 10 日 (福岡) .

中津海 洋一
転写因子 FOXK1 の mTORC1 依存的な脱リン酸化メカニズムの解析.
第 8 回 TOR 研究会, 2018 年 6 月 29 日 (福岡) .

中津海 洋一 【招待講演】
大規模リン酸化プロテオミクス解析による腫瘍随伴マクロファージ浸潤メカニズムの解明.
第 15 回名古屋市立大学若手イブニングセミナー, 2018 年 9 月 26 日 (名古屋) .

【薬物送達学分野】

(原報)

Takao Takeuchi, Tatsuaki Tagami, Kaori Fukushige, Tetsuya Ozeki
Useful properties of siRNA-coated gold nanoparticles as a mini-nanocarrier platform for intraocular administration
J. Drug Deliv. Sci. Technol., 47:431-416(2018).

Yoshinori Morikawa, Tatsuaki Tagami, Akihiro Hoshikawa, Tetsuya Ozeki
The use of an efficient microfluidic mixing system for generating stabilized polymeric nanoparticles for controlled drug release
Biol. Pharm. Bull., 41(6):899-907(2018).

Takehiro Noda, Tomoyuki Okuda, Ryota Mizuno, Tetsuya Ozeki, Hirokazu Okamoto
Two-step sustained-release PLGA/hyaluronic acid gel formulation for intra-articular administration
Biol. Pharm. Bull., 41(6):937-943(2018).

Tatsuaki Tagami, Noriko Nagata, Naomi Hayashi, Emi Ogawa, Kaori Fukushige, Norihito Sakai, Tetsuya Ozeki
Defined drug release from 3D-printed composite tablets consisting of drug-loaded polyvinylalcohol and a water-soluble or water-insoluble polymer filler
Int. J. Pharm., 543(1-2):361-367(2018).

Akihiro Hoshikawa, Mizuki Nagira, Masafumi Tane, Kaori Fukushige, Tatsuaki Tagami, Tetsuya Ozeki
Preparation of curcumin-containing α -, β -, and γ -cyclodextrin/polyethylene glycol-conjugated gold multifunctional nanoparticles and their in vitro cytotoxic effects on A549 cells
Biol. Pharm. Bull., 41(6):908-914(2018).

Shaimaa Ibrahim, Tatsuaki Tagami, Toshihiro Kishi, Tetsuya Ozeki
Curcumin marinosomes as promising nano-drug delivery system for lung cancer
Int. J. Pharm., 540(1-2), 40-49(2018).

Toshiki Fuse, Tatsuaki Tagami, Masafumi Tane, Tetsuya Ozeki
Effective light-triggered contents release from helper lipid-incorporated liposomes co-encapsulating gemcitabine and a water-soluble photosensitizer
Int. J. Pharm., 540(1-2), 50-56(2018).

Ali Alenezi, Yoshihito Naito, Takayuki Terukina, Widyasri Prananingrum, Yohei Jinno, Tatsuaki Tagami, Tetsuya Ozeki, Silvia Galli, Ryo Jimbo
Controlled release of clarithromycin from PLGA microspheres enhances bone regeneration in rabbit calvaria defects
J. Biomedical Materials Research B: Applied B, 106B, 201-208(2018)

(総説・著書・総合論文など)

田上辰秋, 尾関哲也
スプレードライ法によるナノコンポジット粒子の調製と吸収剤への応用
「経肺投与製剤とデバイスの開発」 pp106-114 (2018).

田上辰秋, 尾関哲也

ナノメディシンに関する臨床試験の動向

「ドラッグデリバリーシステムーバイオ医薬品創成に向けた組織、細胞内、核内送達技術の開発」シーエムシー出版, pp 21-32 (2018).

田上辰秋, 尾関哲也

製剤分野における 3D プリント技術の活用：3D プリンター錠剤・医薬品に関する最近の話題
製剤機械技術学会誌, 27(1), 57-62(2018).

田上辰秋, 尾関哲也

熱溶融積層方式 3D プリンターによる新しい製造アプローチとしての錠剤設計
製剤機械技術学会誌, 27(1), 51-56(2018).

尾関哲也

なくなるもの by 発達・発展

製剤機械技術学会誌：巻頭言, 27(1), 3-4(2018).

田上辰秋, 尾関哲也

ナノメディシン創薬の教育現場

ファルマシア, 54(1):51-53(2018).

尾関哲也

物理薬剤学、製剤学

最新薬剤学第 11 版, 尾関哲也, 井上勝央 編集 廣川書店 p5, p7 (2018).

尾関哲也

製剤総則

最新薬剤学第 11 版, 尾関哲也, 井上勝央 編集 廣川書店 p303-310 (2018).

尾関哲也

生薬関連製剤

最新薬剤学第 11 版, 尾関哲也, 井上勝央 編集 廣川書店 p391-397 (2018).

(学会発表)

吉村夏実, 田上辰秋, 野田剛弘, 尾関哲也

3D プリンターを用いた HPMC ハイドロゲルベース OD フィルムの調製

第 34 回製剤と粒子設計シンポジウム, 2018 年 10 月 25、26 日 (大津)

林直美, 田上辰秋, 酒井紀人, 尾関哲也

熱溶融積層方式 3D プリンターを用いたプロゲステロン含有オーダーメイド坐剤の作製

第 34 回製剤と粒子設計シンポジウム, 滋賀県大津市, 2018 年 10 月 25、26 日 (大津)

田上辰秋, 竹内堂朗, 尾関哲也

蛍光金ナノクラスターを含有した機能性リポソームの調製

第 27 回静岡 DDS コンファレンス, 2018 年 9 月 7 日 (静岡)

田上辰秋, 後藤瑛一, 尾関哲也

熱溶融積層方式 3D プリンターを用いた複合型口腔内崩壊錠テンプレートの調製

創剤フォーラム第 25 回若手研究会, 2018 年 9 月 22 日 (神戸)

後藤瑛一, 田上辰秋, 尾関哲也

抗体医薬の徐放システムの構築に向けた PLGA マイクロ粒子の調製に関する基礎的検討
平成 30 年度 界面特性を利用した粒子設計とプロセス開発に関するワークショップ 2018 年度若手研究者討論会, 2018 年 9 月 10 日 (浜松)

川口恵里奈, 玉越知樹, 後藤瑛一, 田上辰秋, 尾関哲也

マンニトールを粉碎メディアとしたフーバーマーラーによるインドメタシンの微細化に関する検討
平成 30 年度 界面特性を利用した粒子設計とプロセス開発に関するワークショップ 2018 年度若手研究者討論会, 2018 年 9 月 10 日 (浜松)

田上辰秋, Shaimaa Ibrahim, 岸利弘, 尾関哲也

クルクミン含有 Marinosome の特性評価と肺がんに対する殺細胞効果に関する検討
第 34 回日本 DDS 学会学術集会, 2018 年 6 月 21、22 日 (長崎)

竹内堂朗, 林原純季, 田上辰秋, 尾関哲也

蛍光金ナノクラスターを用いたパクリタキセル封入ナノ粒子の調製とその評価
第 34 回日本 DDS 学会学術集会, 2018 年 6 月 21、22 日 (長崎)

浦野真帆, 北原恵, 田上辰秋, 深水啓朗, 尾関哲也

シロスタゾール Cocrystal のスプレードライヤーによる調製
日本薬剤学会第 33 年会, 2018 年 5 月 30 日～6 月 1 日 (静岡)

川口恵里奈, 後藤瑛一, 田上辰秋, 尾関哲也

塩化ナトリウム・マンニトールを粉碎メディアとした難溶性薬物のナノ粒子化に関する検討
日本薬剤学会第 33 年会, 2018 年 5 月 30 日～6 月 1 日 (静岡)

林直美, 田上辰秋, 酒井紀人, 尾関哲也

熱溶融積層方式 3D プリンターを用いた坐剤外殻の作成と外殻デザインが薬物溶出に与える影響
日本薬剤学会第 33 年会, 2018 年 5 月 30 日～6 月 1 日 (静岡)

近藤康人, 竹内堂朗, 田上辰秋, 尾関哲也

がん治療に向けた近赤外光吸収金ナノスターの調製法に関する検討
第 64 回日本薬学会東海支部総会大会, 2018 年 6 月 30 日 (名古屋)

中村和哉, 田上辰秋, 尾関哲也

Depofoam 技術を用いた機能性吸入剤の調製に関する基礎的検討
第 64 回日本薬学会東海支部総会大会, 2018 年 6 月 30 日 (名古屋)

近藤康人, 柳楽美月, 田上辰秋, 尾関哲也

レズベラトロール包接シクロデキストリンおよびポリエチレングリコールが結合した金ナノ粒子の物性評価
日本薬学会第 138 年会, 2018 年 3 月 25 日～28 日 (金沢)

尾関哲也, 伊藤恵里奈, 長田典子, 林直美, 田上辰秋, 酒井紀人

熱溶融積層型 3D プリンターを用いたポリビニルアルコールを基剤とする口腔内粘膜付着フィルムおよびミニタブレットの調製
日本薬学会第 138 年会, 2018 年 3 月 25 日～28 日 (金沢)

吉村夏実, 安藤睦美, 野田剛弘, 田上辰秋, 尾関哲也

3D バイオプリンターを用いたナフトピジル含有錠剤の作成とプリンターインクの物性・処方が錠剤の特性に与える影響

日本薬学会第 138 年会, 2018 年 3 月 25 日～28 日 (金沢)

田上辰秋, 鯉江真帆, 安藤睦美, 竹内堂朗, 川上智子, 阿部憲太郎, 池崎秀和, 尾関哲也

名古屋市立大学薬学部の製剤学実習における味覚センサー導入の試み～第 7 報～

日本薬学会第 138 年会, 2018 年 3 月 25 日～28 日 (金沢)

Tatsuaki Tagami, Masafumi Tane, Tetsuya Ozeki

Effective loading of poorly-water soluble drug into liposome by using drug-cyclodextrin inclusion complex.

2018 Controlled Release Society Annual Meeting, July 22-24, 2018 (New York)

Liu Jin, Tatsuaki Tagami, Tetsuya Ozeki

Novel Bioinks Combined Photo-crosslinkable Hydrogels with Carboxymethyl Cellulose for 3D Bioprinting Application of Tissue Engineering.

The 8th Nanjing/Nagoya/Shenyang Symposium of Pharmaceutical Sciences (2018), Oct 25-26, 2018 (Nanjing)

Liu Jin, Tatsuaki Tagami, Tetsuya Ozeki

Fabrication of 3D-printed biocompatible hydrogel patch for the local delivery of PEGylated liposomal doxorubicin.

The Globalization of Pharmaceutics Education Network (GPEN) Conference, September 26-29, 2018 (Singapore)

Miho Komatsu, Eiichi Goto, Tatsuaki Tagami, Tetsuya Ozeki

Particle design of porous PLGA microparticles encapsulating poor water-soluble drug as a novel inhalation formulation of lung cancer.

The Globalization of Pharmaceutics Education Network (GPEN) Conference, September 26-29, 2018 (Singapore)

Maho Urano, Megumi Kitahara, Kae Kishi, Eiichi Goto, Tatsuaki Tagami, Toshiro Fukami, Tetsuya Ozeki

American Association of Pharmaceutical Scientists (AAPS) PharmSci 360. Nov 3-6, 2018 (Washington D.C.)

Liu Jin, Tatsuaki Tagami, Tetsuya Ozeki

Current status and prospects of higher pharmaceutical education in China.

Joint Conference of the 1st International Conference on Halal Pharmaceuticals and Cosmetics (HPC Conference) & The 7th Conference of Asia Pacific Pharmacy Education Network (AP-PEN Conference), Oct 6-7, 2018 (Kawagoe)

【生薬学分野】

(原報)

Misato Ota, Feng Xu, Yao-Li Li, Ming-Ying Shang, Toshiaki Makino, Shao-Qing Cai
Comparison of chemical constituents among licorice, roasted licorice, and roasted licorice with honey
J. Nat. Med. **72**, 80–95 (2018).

Yohta Shimato, Misato Ota, Kohshi Asai, Toshiyuki Atsumi, Yoshiaki Tabuchi, Toshiaki Makino
Comparison of byakujutsu (*Atractylodes rhizome*) and sojutsu (*Atractylodes lancea rhizome*) on anti-inflammatory and immunostimulative effects *in vitro*
J. Nat. Med. **72**, 192–201 (2018).

Shengli Gao, Hideo Satsu, Toshiaki Makino
Inhibitory effect of Bofutsushosan (Fanggengetongshengsan) on glucose transporter 5 (GLUT5) function *in vitro*
J. Nat. Med. **72**, 530–536 (2018).

Misato Ota, Yasutaka Nagachi, Kan'ichiro Ishiuchi, Yoshiaki Tabuchi, Feng Xu, Ming-Ying Shang, Shao-Qing Cai, Toshiaki Makino
Comparison of the inducible effects of licorice products with or without heat-processing and pre-treatment with honey on granulocyte colony-stimulating factor secretion in cultured enterocytes
J. Ethnopharmacol. **214**, 1–7 (2018).

Rie Iijima, Tomoki Watanabe, Kan'ichiro Ishiuchi, Takashi Matsumoto, Junko Watanabe, Toshiaki Makino
Interactions between crude drug extracts used in Japanese traditional Kampo medicines and organic anion-transporting polypeptide 2B1
J. Ethnopharmacol. **214**, 153–159 (2018).

Junji Akaki, Shiori Tachi, Naoki Nakamura, Tetsuya Arai, Hiroo Yamasaki, Makoto Inoue, Toshiaki Makino
Promotive effect of Bofutsushosan (Fangfengtongshengsan) on lipid and cholesterol excretion in feces in mice treated with a high-fat diet
J. Ethnopharmacol. **220**, 1–8 (2018).

Hui Sun, Le Yang, Meng-xi Li, Heng Fang, Ai-hua Zhang, Qi Song, Xing-yuan Liu, Jing Su, Meng-die Yu, Toshiaki Makino, Xi-jun Wang
UPLC-G2Si-HDMS untargeted metabolomics for identification of metabolic targets of Yin-Chen-Hao-Tang used as a therapeutic agent of dampness-heat jaundice syndrome
J Chromatogr B Analyt Technol Biomed Life Sci. **1081-1082**, 4150 (2018).

Masaaki Minami, Toru Konishi, Hiroshi Takase, Toshiaki Makino
Comparison between the effects of oral and intramuscular administration of Shin'iseihaito (Xinyiqingfeitang) in a *Streptococcus pyogenes*-induced murine sinusitis model
Evid. Based Complement. Alternat. Med. **2018**, 8901215 (2018).

Kan'ichiro Ishiuchi, Dai Hirose, Takuma Suzuki, Waka Nakayama, Wen-Ping Jiang, Orawan Monthakantirat, Jin-Bin Wu, Susumu Kitanaka, Toshiaki Makino
Identification of *Lycopodium* alkaloids produced by an ultraviolet-irradiated strain of *Paraboeremia*, an endophytic fungus from *Lycopodium serratum* var. *longipetiolatum*
J. Nat. Prod. **81**, 1143–1147 (2018).

Fuzi Zhang, Anna Iwaki, Kan'ichiro Ishiuchi, Akinori Sugiyama, Masahiro Ohsawa, Toshiaki Makino
Peroxisome proliferator-activated receptor- γ agonistic effect of *Chrysanthemum indicum* capitulum and its active ingredients
Pharmacog. Mag. **14**(56), 461–464 (2018).

Mai Nagasaka, Ryoko Hashimoto, Yasumichi Inoue, Kan'ichiro Ishiuchi, Michiyo Matsuno, Yuka Itoh, Muneshige Tokugawa, Nobumichi Ohoka, Daisuke Morishita, Hajime Mizukami, Toshiaki Makino, Hidetoshi Hayashi
Anti-tumorigenic activity of chrysin from *Oroxylum indicum* via non-genotoxic p53 activation through the ATM-Chk2 pathway
Molecules. **23**(6), 1394 (2018).

Masaaki Minami, Toru Konishi, Toshiaki Makino
Effect of hochuekkito (buzhongyiqitang) on nasal cavity colonization of methicillin-resistant *Staphylococcus aureus* in murine model
Medicines. **5**, 83 (2018).

Hao Ni, Takashi Matsumoto, Junko Watanabe, Toshiaki Makino
Inhibitory effect of Japanese traditional Kampo formula frequently prescribed in gynecological clinics on CYP3A4
Evid. Based Complement. Alternat. Med. **2018**, 4259603 (2018).

Osamu Morinaga, Kan'ichiro Ishiuchi, Takeshi Ohkita, Chuanting Tian, Asuka Hirasawa, Miaki Mitamura, Yasuhito Maki, Tomoya Yasujima, Hiroaki Yuasa, Toshiaki Makino
Isolation of a novel glycyrrhizin metabolite as a causal candidate compound for pseudoaldosteronism
Sci. Rep. **8**, 15568 (2018).

Yuusuke Tashiro, Ryo Sakai, Tomoko Hirose-Sugiura, Yukio Kato, Hirotaka Matsuo, Tappei Takada, Hiroshi Suzuki, Toshiaki Makino
Effects of osthol isolated from *Cnidium monnieri* fruit on urate transporter 1
Molecules. **23**(11) 2837 (2018).

笛木司、吉田理人、田中耕一郎、千葉浩輝、加藤憲忠、並木隆雄、柴山周乃、藤田康介、須永隆夫、松岡尚則、別府正志、牧野利明
水質がウズ煎液中のアコニチン型ジエステルアルカロイド量に及ぼす影響
日本東洋医学雑誌、**69**(4): 336-345 (2018).

(総説・著書・総合論文など)

Toshiaki Makino
ISO/TR 23021: 2018, Traditional Chinese medicine — Controlled vocabulary on Japanese Kampo crude drugs.
International Organization for Standardization, Geneva, Switzerland (2018).

Toshiaki Makino
ISO/TR 23022: 2018, Traditional Chinese medicine — Controlled vocabulary on Japanese Kampo formulas and the indication codes for the products.
International Organization for Standardization, Geneva, Switzerland (2018).

牧野利明
いまさら聞けない生薬・漢方薬
名古屋市立大学薬友会関西支部会報 **20**, 10-16 (2018).

牧野利明
「蒼朮」と「白朮」の薬効に差はなかった
漢方の臨床 **65**(1), 67-68, (2018).

牧野利明
いまさら聞けない生薬・漢方薬
名古屋市立大学薬友会関西支部会報 **20**, 10-16 (2018).

牧野利明
漢方薬理・最前線～人参養栄湯①
phil 漢方 **68**, 9-11 (2018).

牧野利明
漢方薬理・最前線～人参養栄湯②
phil 漢方 **70**, 9-11 (2018).

牧野利明
漢方薬理・最前線～八味地黄丸①
phil 漢方 **71**, 9-12 (2018).

牧野利明
漢方薬理・最前線～八味地黄丸②
phil 漢方 **72**, 9-11 (2018).

牧野利明
国際標準を考える～生薬・漢方薬に関する医薬品情報の取り扱い方
あとはとき **1**, 22-27 (2018).

松岡尚則、安部郁子、牧野利明
ドイツ、キール医薬史博物館とドイツの薬学精度・シンボル
籐門医林 **31**, 26-31 (2018).

(学会発表)

牧野利明
今さら聞けない生薬・漢方薬
第6回金沢漢方医学シンポジウム、2018年2月11日(金沢)。

牧野利明
一から知りたい漢方の基礎
医療人育成学寄附講座開設記念名古屋市立大学市民公開講座、2018年3月21日(名古屋)。

Toshiaki Makino
Topics for clinical pharmacognosy - Prevention from licorice-induced pseudoaldosteronism

中国薬科大学特別セミナー、2018年3月23日（南京）。

中山和香、Orawan Monthakantirat、藤川和美、Santi Watthana、北中進、牧野利明、石内勘一郎
Phlegmarius nummulariifolius より単離した新規リコポジウムアルカロイドの構造
日本薬学会第138年会、2018年3月26-28日（金沢）。

太田美里、長地康孝、石内勘一郎、田渕圭章、蔡少青、牧野利明
蜜炙による甘草のG-CSF産生誘導活性の増強機構
日本薬学会第138年会、2018年3月26-28日（金沢）。

石内勘一郎、森永紀、田川婷、大北剛司、牧野利明
甘草の副作用、偽アルドステロン症の真の原因物質の探索（第2報）
日本薬学会第138年会、2018年3月26-28日（金沢）。

徳川宗成、伊藤友香、石内勘一郎、牧野利明、松野倫代、井上靖道、林秀敏
小胞体ストレスを軽減する化合物の同定と作用機序の解明
日本薬学会第138年会、2018年3月26-28日（金沢）。

南正明、中村峰夫、牧野利明
ハスカップの腸管病原性大腸菌に対する作用
第91回日本細菌学会総会、2018年3月27-29日（福岡）。

中村峰夫、牧野利明、南正明
厚真産ハスカップエキスの腸管病原性大腸菌に対する新規抗細菌効果
第65回北海道薬学大会、2018年5月12日（札幌）。

牧野利明
一から知りたい漢方の基礎
あいち健康の森薬草園開園三周年感謝祭一般講演、2018年4月29日（名古屋）。

牧野利明【教育講演】
生薬・漢方薬に関する医薬品情報の取り扱い方
第69回日本東洋医学会学術総会、2018年6月8日（大阪）。

牧野利明【シンポジスト講演】
黄耆の薬理
第69回日本東洋医学会学術総会、2018年6月9日（大阪）。

Toshiaki Makino【招待講演】
Exploration for the real causal compounds of licorice-induced pseudoaldosteronism
Holistic Integrative Pharmacology : 2018 Harbin Summit of Chinmedomics and Drug Metabolism
(Chinmedomics 2018), 2018年6月22-24日（Harbin, China）。

Masaaki Minami, Toshiaki Makino
Effect of Lonicera flower extract on *C. rodentium*-induced murine colitis
The 18th World Congress of Basic and Clinical Pharmacology, 2018年7月4日（Kyoto, Japan）。

牧野利明
臨床生薬学
第45期東海漢方協議会入門講座、2018年7月8日（名古屋）。

牧野利明

臨床生薬学

2018年度医学生のための漢方医学セミナー、2018年8月1日（大津）。

山田和輝、木村雪乃、鮎川美奈子、永利麻衣、牧野利明、寺坂和祥

組換え大腸菌を用いた *crocin* 及び前駆体の生産

第36回日本植物細胞分子生物学会（金沢）大会、2018年8月26日-28日（金沢）。

南正明、平雅代、牧野利明

排膿散エキスおよびその構成生薬エキスの歯周病菌に対する抗菌作用

第35回和漢医薬学会学術大会、2018年9月1-2日（岐阜）。

平澤明日香、三田村実秋、牧靖人、石内勘一郎、森永紀、保嶋智也、湯浅博昭、牧野利明【優秀発表賞】

甘草の副作用、偽アルドステロン症の真の原因物質の探索（第3報）

第35回和漢医薬学会学術大会、2018年9月1-2日（岐阜）。

谷村陽平、吉田理人、石内勘一郎、大澤匡弘、牧野利明

加工ブシ成分、*benzoylmesaconine* と *neoline* の体内動態および神経障害性疼痛に対する作用の比較検討

第35回和漢医薬学会学術大会、2018年9月1-2日（岐阜）。

牧野利明

甘草誘導假性醛固酮增多症真的致病物質探究

天津中医薬大学開学60周年記念式典記念講演会、2018年9月16日（天津, 中国）。

許鑫、太田美里、田渕圭章、牧野利明

G-CSF産生誘導活性を指標とした蜜炙法に適したハチミツの探索

第21回天然薬物研究方法論アカデミー、2018年9月3日（蒲郡）。

森永紀、近藤翼、石内勘一郎、三田村実秋、牧野利明

甘草の副作用、偽アルドステロン症の真の原因物質の探索（第4報）

日本生薬学会第65回年会、2018年9月16-17日（広島）。

太田美里、倪昊、森口翔平、大岩優貴、牧野利明

カノコソウおよびセイヨウカノコソウ含有成分と $GABA_A$ 受容体結合活性の相関

日本生薬学会第65回年会、2018年9月16-17日（広島）。

石内勘一郎、廣瀬大、牧野利明

アカマツ落葉由来糸状菌 *Mariannaea elegans* var. *elegans* NBRC102301 より単離した新規環状ペプチドの構造

日本生薬学会第65回年会、2018年9月16-17日（広島）。

井上幸枝、笛木司、牧野利明、小川恵子

「IPCD法」の臨床応用とその有用性

第26回日本東洋医学会関東甲信越支部新潟県部会総会、2018年9月30日（新潟）。

石内勘一郎【受賞講演】

植物由来有用二次代謝産物を生産する内生糸状菌の探索

第 22 回 天然薬物の開発と応用シンポジウム、2018 年 10 月 7 日（熊本）。

牧野利明

生薬・漢方薬に関する医薬品情報学

京都漢方研究会第 28 期講座、2018 年 10 月 14 日（京都）。

Hao Ni, Toshiaki Makino

Inhibitory effect of Japanese traditional Kampo formula frequently prescribed in gynecological clinics on CYP3A4

The 8th Nagoya/Nanjing/Shenyang Symposium of Pharmaceutical Sciences, 2018 年 10 月 25-26 日
(Nanjing, China) .

Takuma Suzuki, Dai Hirose, Waka Nakayama, Wen-Ping Jiang, Orawan Monthakantirat, Jin-Bin Wu, Susumu Kitanaka, Toshiaki Makino, Kan'ichiro Ishiuchi

Identification of Lycopodium Alkaloids Produced by *Paraboeremia* sp. Lsl3KI076, an Endophytic Fungus from *Lycopodium serratum* var. *longipetiolatum*

The 8th Nagoya/Nanjing/Shenyang Symposium of Pharmaceutical Sciences, 2018 年 10 月 25-26 日
(Nanjing, China) .

Yuya Ono, Dai Hirose, Susumu Kitanaka, Toshiaki Makino, Kan'ichiro Ishiuchi

Structure of a new sesquiterpenoid isolated from *Colletotrichum gloeosporioides* Ls29YO050, a Lycopodiaceae plant-derived endophytic fungus

The 8th Nagoya/Nanjing/Shenyang Symposium of Pharmaceutical Sciences, 2018 年 10 月 25-26 日
(Nanjing, China) .

Muneshige Tokugawa, Yuka Itoh, Kan'ichiro Ishiuchi, Michiyo Matsuno, Hajime Mizukami, Toshiaki Makino, Yasumichi Inoue, Hidetoshi Hayashi

Identification and characterization of novel compounds that contribute to regulate endoplasmic reticulum stress response

The 8th Nagoya/Nanjing/Shenyang Symposium of Pharmaceutical Sciences, 2018 年 10 月 25-26 日
(Nanjing, China) .

長坂真衣、橋本亮子、石内勘一郎、松野倫代、伊藤友香、水上元、牧野利明、井上靖道、林秀敏
クリシンは non-genotoxic に ATM-Chk2 経路を活性化して p53 を活性化させる

日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部合同学術大会静岡 2018、2018 年 11 月 4 日（静岡）。

野木村藍、田中輝、桂川結貴、石内勘一郎、松野倫代、伊藤友香、水上元、牧野利明、井上靖道、林秀敏

ストレス応答性転写因子 ATF4 を活性化する新規化合物の同定とその作用機構の解明

日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部合同学術大会静岡 2018、2018 年 11 月 4 日（静岡）。

牧野利明

生薬・漢方薬に関する医薬品情報学

和歌山県病院薬剤師会研修会、2018 年 11 月 12 日（和歌山）。

牧野利明

生薬・漢方薬の医療薬学的諸問題

東京都薬剤師会城東支部勉強会、2018 年 11 月 15 日（東京）。

Toshiaki Makino

Exploration for the real causal compounds of licorice-induced pseudoaldosteronism

台北医科大学特別セミナー、2018年11月22日（台北, 台湾）。

Masaaki Minami, Masayo Taira, Toshiaki Makino

Ulcer-healing effect of jumihaidokuto (十味敗毒湯) in mouse skin ulcer model due to MRSA infection

The 19th International Congress of Oriental Medicine, 2018年11月24-25日（Taipei, Taiwan）。

Kan'ichiro Ishiuchi, Osamu Morinaga, Takeshi Ohkita, Chuanting Tian, Asuka Hirasawa, Miaki Mitamura, Yasuhito Maki, Tomoya Yasujima, Hiroaki Yuasa, Takao Namiki, Kiyoshi Minamizawa, Toshiaki Makino

【優秀発表賞】

18 β -glycyrrhetyl-3-*O*-sulfate would be a causative agent in licorice-induced pseudoaldosteronism

The 19th International Congress of Oriental Medicine, 2018年11月24-25日（Taipei, Taiwan）。

Xin Xu, Misato Ota, Yoshiaki Tabuchi, Shao-Qing Cai, Toshiaki Makino

Mechanisms of honey-processing (蜜炙) in traditional Chinese medicine: Its inducible effects on G-CSF secretion from cultured intestinal cells 【優秀発表賞】

The 19th International Congress of Oriental Medicine, 2018年11月24-25日（Taipei, Taiwan）。

Tsukasa Fueki, Koichiro Tanaka, Koki Chiba, Takao Namiki, Takanori Matsuoka, Masashi Beppu, Toshiaki Makino

Influence of water properties on the contents of aconitine-type diester alkaloids in the decoctions of unprocessed aconite root

The 19th International Congress of Oriental Medicine, 2018年11月24-25日（Taipei, Taiwan）。

Toshiyuki Atsumi, Yumi Yokoyama, Takami Yokogawa, Toshiaki Makino, Isao Ohtsuka 【優秀発表賞】

Effects of crushed Schisandra Fruit on the content of lignans in Kampo decoction

The 19th International Congress of Oriental Medicine, 2018年11月24-25日（Taipei, Taiwan）。

牧野利明

Studies of the pharmacological effects of gypsum and aconite root

陝西省中医药研究院特別セミナー、2018年12月3日（西安, 中国）。

牧野利明

Differences of traditional medicines between China and Japan, and the Introduction of our researches about traditional medicines

陝西省中医医院中日友好文化交流學術会、2018年12月3日（西安, 中国）。

【衛生化学分野】

(原報)

Masafumi Takeno, Shinya Kitagawa, Junpei Yamanaka, Mayumi Teramoto, Haruka Tomita, Naohiro Shirai, Saotomo Itoh, Shigeaki Hida, Kazuichi Hayakawa, Kikuo Onozaki, Takemasa Takii, Takemasa Takii
5-Hydroxy-2-methylpyridine isolated from cigarette smoke condensate aggravates collagen-induced arthritis in Mice
Biological and Pharmaceutical Bulletin **41**, 877-884 (2018)

Katsuhiro Kohno, Saotomo Itoh, Akari Hanai, Takemasa Takii, Toshinobu Fujiwara, Kikuo Onozaki, Tsutomu Tsuji, Shigeaki Hida
Identification of matrix metalloproteinase 9-interacting sequences in staphylococcal superantigen-like protein 5
Biochemical and Biophysical Research Communications **497**, 713-718 (2018)

Chisato Kurisaka, Teruaki Oku, Saotomo Itoh, Saotomo Itoh, Tsutomu Tsuji
Role of sialic acid-containing glycans of matrix metalloproteinase-9 (MMP-9) in the interaction between MMP-9 and staphylococcal superantigen-like protein 5
Microbiology and Immunology **62**, 168-175 (2018)

Taichi Nishimura, Saotomo Itoh*, Kikuo Onozaki, Tsutomu Tsuji, Shigeaki Hida
Identification of the Regions Responsible for Binding to Human Immunoglobulin G in Staphylococcal Superantigen-Like Protein 10
BPB reports **1**, 35-39 (2018)

Hiroaki Fuji, Saori Ohmae, Naruto Noma, Masatoshi Takeiri, Hideto Yasutomi, Kazuya Izumi, Moe Ito, Masayasu Toyomoto, Soichiro Iwaki, Kenji Takemoto, Satoru Seo, Kojiro Taura, Shigeaki Hida, Mineyoshi Aoyama, Yasushi Ishihama, Masatoshi Hagiwara, Norihiko Takeda, Etsuro Hatano, Keiko Iwaisako, Shinji Uemoto, Masataka Asagiri
Necrostatin-7 suppresses RANK-NFATc1 signaling and attenuates macrophage to osteoclast differentiation
Biochemical and Biophysical Research Communications **503**, 544-549 (2018)

Tomio Matsumura, Shigeaki Hida, Masato Kitazawa, Chifumi Fujii, Akira Kobayashi, Michiko Takeoka, Shun-ichiro Taniguchi and Shin-ichi Miyagawa.
Fascin1 suppresses RIG-I-like receptor signaling and interferon- production by associating with IB kinase (IKK) in colon cancer
Journal of Biological Chemistry **293**, 6326-6336 (2018)

Takao Sakaizawa, Tomio Matsumura, Chifumi Fujii, Shigeaki Hida, Masayuki Toishi, Takayuki Shiina, Kazuo Yoshida, Kazutoshi Hamanaka, Ken-ichi Ito, Shun'ichiro Taniguchi
Potential role of ASC, a proapoptotic protein, for determining the cisplatin susceptibility of lung cancer cells
Tohoku Journal of Experimental Medicine **244**, 133-144 (2018)

(総説・著書・総合論文など)

森川ありさ
ヒト疾患モデル動物の開発には腸内細菌を考慮する必要がある
ファルマシア, **54**(5) p460 (2018)

(学会発表)

河野克洋, 伊藤佐生智, 辻勉, 肥田重明

Staphylococcal superantigen-like protein 5 の MMP-9 に対する結合/阻害に関わる最小機能領域の同定

日本薬学会第 138 年会 2018 年 3 月 25 - 28 日 (金沢)

Yasuhiro Horita, Saotomo Itoh, Naoya Ohara, Tetsuya Yagi, Kenji Ogawa, Shinji Maeda, Kei Nishimori, Nagatoshi Fujiwara, Yasutaka Goto, Toshio Yamazaki, Shigeaki Hida, Kikuo Onozaki, Takemasa Takii

Contribution of arginine deiminase pathway to the acid tolerance response in *Mycobacterium avium* substrains *avium* and *hominissuis*

ASM microbe 2018 年 6 月 7 - 11 日 (Atlanta, Georgia, USA)

北野拓真, 元木優也, 山条秀樹, 瀧伸介, 伊藤佐生智, 肥田重明

IL-3 が炎症時の好塩基球の IgE 反応性と体内局在を制御する

第 64 回 日本薬学会東海支部総会・大会 2018 年 6 月 30 日 (名古屋)

林知仁, 伊藤佐生智, 森川ありさ, 辻勉, 肥田重明

黄色ブドウ球菌 α 毒素のマウスマスト細胞脱顆粒増強作用

第 19 回 Pharmaco-Hematology Symposium 2018 年 8 月 10 - 11 日 (新宿区)

林知仁, 伊藤佐生智, 森川ありさ, 辻勉, 肥田重明

黄色ブドウ球菌 α 毒素は Fc ϵ RI クロスリンク, イオノフォア, δ 毒素によるマウスマスト細胞からの脱顆粒を促進する

第 30 回 微生物シンポジウム 2018 年 8 月 27 - 28 日 (千代田区)

藤岡直人, 林和仁, 河野克洋, 佐々木駿吾, 伊藤佐生智, 肥田重明

微生物由来分子による免疫制御機構

フォーラム 2018 衛生薬学・環境トキシコロジー 2018 年 9 月 10 - 11 日 (佐世保)

林知仁, 井上ひかる, 伊藤佐生智, 森川ありさ, 辻勉, 肥田重明

黄色ブドウ球菌溶血毒素 α ヘモリジンのマスト細胞脱顆粒増強作用

日本病院薬剤師会東海ブロック日本薬学会東海支部 合同学術大会 2018 2018 年 11 月 4 日 (静岡)

Takuma Kitano, Saotomo Itoh, Shinsuke Taki, Shigeaki Hida

IL-3 changes activation-dependent intracellular signaling pathways for IL-4 production in and tissue localization of murine basophils

第 47 回 日本免疫学会学術集会 2018 年 12 月 10 - 12 日 (福岡)

【遺伝情報学分野】

(原報)

Okamoto, A., Hosoda, N., Hoshino, S. (2018) Proteolysis: a double-edged sword for the development of amyloidosis.

Prion 12, 273-279.

Wakiyama, M., Ogami, K., Iwaoka, R., Aoki, K., Hoshino, S. (2018) MicroRNP-mediated translational activation of nonadenylated mRNAs in a mammalian cell-free system.

Genes to Cells 5, 332-344.

Sawazaki R., Imai S., Yokogawa M., Hosoda N., Hoshino S., Mio M., Mio K., Shimada I., and Osawa M. (2018) Characterization of the multimeric structure of poly(A)-binding protein on a poly(A) tail.

Scientific reports 8, 1455.

(学会発表)

坂元健太郎、尾上耕一、細田直、山岸良多、星野真一

アミノ酸飢餓シグナルに呼応した Larp1 による mRNA 代謝調節

第 28 回日本病院薬剤師会東海支部ブロック学術大会・平成 30 年度 日本薬学会東海支部例会、2018 年 11 月 4 日 (静岡) ベストプレゼン賞受賞

野間崇秀、尾上耕一、細田直、星野真一

新規 RNA 結合タンパク質 Larp4B による標的 mRNA 代謝調節

第 28 回日本病院薬剤師会東海支部ブロック学術大会・平成 30 年度 日本薬学会東海支部例会、2018 年 11 月 4 日 (静岡)

福島真、千布高太郎、張天岳、細田直、星野真一

ALS 原因因子 TDP-43 による標的 mRNA ポリ A 鎖分解を介した負の遺伝子発現制御

第 28 回日本病院薬剤師会東海支部ブロック学術大会・平成 30 年度 日本薬学会東海支部例会、2018 年 11 月 4 日 (静岡)

合田凌也、野木森拓人、細田直、星野真一

RNase L を標的とした mRNA 医薬安定化剤の開発

第 28 回日本病院薬剤師会東海支部ブロック学術大会・平成 30 年度 日本薬学会東海支部例会、2018 年 11 月 4 日 (静岡) ベストプレゼン賞受賞

菊川拓磨、細田直、星野真一

細胞運命決定因子 Musashi による mRNA ポリ A 鎖の調節

第 28 回日本病院薬剤師会東海支部ブロック学術大会・平成 30 年度 日本薬学会東海支部例会、2018 年 11 月 4 日 (静岡)

稲垣佑都、細田直、星野真一

脊髄小脳変性症の原因因子 Ataxin-2 による標的遺伝子の転写後調節

第 28 回日本病院薬剤師会東海支部ブロック学術大会・平成 30 年度 日本薬学会東海支部例会、2018 年 11 月 4 日 (静岡)

大石結香、野木森拓人、細田直、星野真一

臨床応用を目的とした人工 long non-coding RNA の安定化
第 64 回日本薬学会東海支部大会、2018 年 6 月 30 日（名古屋）

西浦久達、細田直、星野真一
コドン適性度による mRNA 安定性制御の解析
第 64 回日本薬学会東海支部大会、2018 年 6 月 30 日（名古屋）

野木森拓人、永井貴広、細田直、星野真一
mRNA 医薬安定化技術の開発
第 64 回日本薬学会東海支部大会、2018 年 6 月 30 日（名古屋）

星野真一
臨床応用を目的とした人工 RNA 安定化技術の開発
シンポジウム『人工 RNA による生体機能制御への挑戦』
日本薬学会第 138 年会 オーガナイザー兼シンポジスト、2018 年 3 月 28 日（金沢）

【細胞分子薬効解析学分野】

(原報)

Yamamura H, Kawasaki K, Inagaki S, Suzuki Y, Imaizumi Y.
Local Ca^{2+} coupling between mitochondria and sarcoplasmic reticulum following depolarization in guinea pig urinary bladder smooth muscle cells.
Am J Physiol Cell Physiol. 314(1):C88-C98 (2018).

Yamamura H, Nishimura K, Hagihara Y, Suzuki Y, Imaizumi Y.
TMEM16A and TMEM16B channel proteins generate Ca^{2+} -activated Cl^- current and regulate melatonin secretion in rat pineal glands.
J Biol Chem. 293(3):995-1006 (2018).

Hatano N, Ohya S, Imaizumi Y, Clark RB, Belke D, Giles WR.
ATP increases $[\text{Ca}^{2+}]_i$ and activates a Ca^{2+} -dependent Cl^- current in rat ventricular fibroblasts.
Exp Physiol. 103(5):666-682 (2018).

Matsuki K, Kato D, Takemoto M, Suzuki Y, Yamamura H, Ohya S, Takeshima H, Imaizumi Y.
Negative regulation of cellular Ca^{2+} mobilization by ryanodine receptor type 3 in mouse mesenteric artery smooth muscle.
Am J Physiol Cell Physiol. 315(1):C1-C9 (2018).

Yamamura H, Suzuki Y, Yamamura H, Asai K, Giles W, Imaizumi Y.
Hypoxic stress upregulates Kir2.1 expression by a pathway including hypoxic-inducible factor-1 α and dynamin2 in brain capillary endothelial cells.
Am J Physiol Cell Physiol. 315(2):C202-C213 (2018).

(総説・著書・総合論文など)

Yamamura H, Suzuki Y, Imaizumi Y.
Physiological and Pathological Functions of Cl^- Channels in Chondrocytes.
Biol Pharm Bull. 41(8):1145-1151 (2018).

(学会発表)

野田さゆり、鈴木良明、山村寿男、今泉祐治
気管支平滑筋における BK_{Ca} チャネル修飾サブユニット $\gamma 1$ の生理機能
日本薬学会第 138 年会、2018 年 3 月 26 日（金沢）；GS01-4.

今泉祐治
疾患治療標的および創薬標的としてのイオンチャネル分子機能解明 【日本薬学会賞受賞講演】
日本薬学会第 138 年会、2018 年 3 月 27 日（金沢）；AL03.

稲垣奏、山村寿男、鈴木良明、今泉祐治
血管平滑筋ミトコンドリアのエネルギー産生における Mitofusin2 の機能解析
日本薬学会第 138 年会、2018 年 3 月 28 日（金沢）；28G-am04S.

山村英斗、鈴木良明、山村寿男、浅井清文、Wayne Giles、今泉祐治

低酸素ストレスは、HIF-1 α -Dynamin2-Kir2.1 シグナルを介して、脳微小血管内皮細胞の細胞増殖亢進に寄与する

日本薬学会第 138 年会、2018 年 3 月 28 日（金沢）；28G-am06S

川崎桂輔、鈴木良明、山村寿男、今泉祐治

改変遺伝子導入培養細胞系を用いた K2P チャネル標的作用薬の新規高効率評価方法

日本薬学会第 138 年会、2018 年 3 月 28 日（金沢）；28M-pm02S

山村寿男、近藤るびい、古川奈美、鈴木良明、今泉祐治

肝硬変由来門脈圧亢進症と Ca²⁺活性化 Cl⁻チャネル TMEM16A

第 95 回日本生理学会大会、2018 年 3 月 30 日（高松）；3PS-01PM-4

Sayuri Noda, Yoshiaki Suzuki, Hisao Yamamura, Yuji Imaizumi.

LRRC26 is functional as an Auxiliary Subunit of Large-Conductance Ca²⁺-Activated K⁺ (BK) Channel and regulates BK channel activity in Bronchial Smooth Muscle Cells.

Experimental Biology 2018 (EB2018), Apr. 22, 2018, (San Diego); C220 567.8

Takanori Saeki, Yoshiaki Suzuki, Hisao Yamamura, Hiroshi Takeshima, Yuji Imaizumi

Functional molecular complexes of junctophilin-2 and caveolin-1 provide a structural/functional basis for Ca²⁺-microdomain formation between BKCa channels and RyRs in vascular smooth muscle cells

Experimental Biology 2018 (EB2018), Apr. 22, 2018, (San Diego); A94 581.10

Yoshiaki Suzuki, Susumu Ohya, Hisao Yamamura, Wayne R. Giles, Yuji Imaizumi

Identification of a New Splice Variant of Large-Conductance Ca²⁺-Activated K⁺ (BK) Channel α Subunit from Human Chondrocyte.

Experimental Biology 2018 (EB2018), Apr. 23, 2018, (San Diego); A541 750.27

澤井優輝、鈴木良明、今泉祐治、山村寿男

マクロファージにおいてカベオリン 1 は ATP シグナルを制御する

第 64 回日本薬学会東海支部大会、2018 年 6 月 30 日（名古屋）；B-16S

鈴木貴久、安本美貴、鈴木良明、今泉祐治、山村寿男

脳微小血管内皮細胞における Ca²⁺活性化 Cl⁻チャネル TMEM16A の機能解析

第 64 回日本薬学会東海支部大会、2018 年 6 月 30 日（名古屋）；C-2S

稲垣奏、鈴木良明、今泉祐治、山村寿男

Mitofusin2 はラット大動脈平滑筋細胞の増殖亢進に寄与する

第 64 回日本薬学会東海支部大会、2018 年 6 月 30 日（名古屋）；C-3S

Hideto Yamamura, Yoshiaki Suzuki, Hisao Yamamura, Kiyofumi Asai, Wayne Giles, Yuji Imaizumi

HIF-1 α -dynamin2-Kir2.1 pathway contributes to cell proliferation in brain capillary endothelial cells under hypoxic stress

18th World Congress of Basic and Clinical Pharmacology (WCP2018), July 2, 2018, (Kyoto); PO1-2-25

Takanori Saeki, Yoshiaki Suzuki, Hisao Yamamura, Hiroshi Takeshima, Yuji Imaizumi

Functional molecular complexes of junctophilin-2 and caveolin-1 provide a structural/functional basis for Ca²⁺-microdomain formation in vascular smooth muscle cells

18th World Congress of Basic and Clinical Pharmacology (WCP2018), July 4, 2018, (Kyoto); PO3-3-55

Yoshiaki Suzuki, Kanako Tsutsumi, Tatsuya Miyamoto, Hisao Yamamura, Yuji Imaizumi
Heterodimerization of two pore domain K⁺ channel TASK1 and TALK2 in HEK293 heterologous
expression systems
18th World Congress of Basic and Clinical Pharmacology (WCP2018), July 5, 2018, (Kyoto); PO4-7-17

Hisao Yamamura, Yoshiaki Suzuki, Yuji Imaizumi
Downregulation of Ca²⁺-activated Cl⁻ channel TMEM16A in cirrhotic portal hypertension
18th World Congress of Basic and Clinical Pharmacology (WCP2018), July 5, 2018, (Kyoto); SY57-4

Yuji Imaizumi, Katsuhito Matsuki, Yoshiaki Suzuki, Hisao Yamamura, Susumu Ohya, Hiroshi Takeshima
Unique functions of ryanodine type3 in vascular and myometrial smooth muscles
18th World Congress of Basic and Clinical Pharmacology (WCP2018), July 5, 2018, (Kyoto);OR26-3

Yuji Imaizumi
Diversity of two pore potassium channels and discovery of selective drugs
WCP2018 Kyoto Satellite Symposia; New Insights into Ion Channel Function and Pharmacology, July 8,
2018, (Kyoto)

鈴木良明、堤香菜子、宮本達也、山村寿男、今泉祐治
TASK1-TALK2 ヘテロ 2 量体形成による薬理学的特性の変化
第 13 回トランスポーター研究会年会、2018 年 7 月 21 日 (福岡) ; P-55

山村英斗、鈴木良明、山村寿男、浅井清文、Wayne R. Giles、今泉祐治
低酸素ストレス下脳微小血管内皮細胞の細胞増殖に対する Dynamin2-Kir2.1 の関与
第 13 回トランスポーター研究会年会、2018 年 7 月 21 日 (福岡) ; P-58

鈴木良明、小澤拓海、今泉祐治、山村寿男
カベオラによるカルシウム依存性遺伝子転写の制御
次世代を担う創薬・医療薬理シンポジウム 2018、2018 年 8 月 25 日 (福岡) ; P-25

小澤拓海、鈴木良明、今泉祐治、山村寿男
血管平滑筋における興奮-転写連関に対するカベオラの役割
生理学研究所研究会 2018 「心臓・血管系の頑健性と精緻な制御を支える分子基盤の統合的解明」
2018 年 11 月 1~2 日 (岡崎) ; P-9

佐伯尚紀、鈴木良明、山村寿男、竹島浩、今泉祐治
血管平滑筋細胞の形質転換に伴うジャンクトフィリンの機能的な役割の変化
生理学研究所研究会 2018 「心臓・血管系の頑健性と精緻な制御を支える分子基盤の統合的解明」
2018 年 11 月 1~2 日 (岡崎) ; P-11

稲垣奏、鈴木良明、今泉祐治、山村寿男
血管平滑筋細胞において Mitofusin2 はミトコンドリア機能維持に寄与する
生理学研究所研究会 2018 「心臓・血管系の頑健性と精緻な制御を支える分子基盤の統合的解明」
2018 年 11 月 1~2 日 (岡崎) ; P-13

鈴木貴久、安本美貴、鈴木良明、今泉祐治、山村寿男
脳微小血管内皮細胞における TMEM16A の生理機能への寄与
生理学研究所研究会 2018 「心臓・血管系の頑健性と精緻な制御を支える分子基盤の統合的解明」
2018 年 11 月 1~2 日 (岡崎) ; P-19

山村英斗、鈴木良明、山村寿男、浅井清文、Giles Wayne、今泉祐治

低酸素ストレス時の脳微小血管内皮細胞は、HIF-1 α -Dynamin2-Kir2.1 経路を介して細胞増殖を異常亢進させる

生理学研究所研究会 2018 「心臓・血管系の頑健性と精緻な制御を支える分子基盤の統合的解明」

2018年11月1～2日（岡崎）；P-21

神藤秀基、山村寿男、鈴木良明、今泉祐治

多層カーボンナノチューブ暴露による肺胞マクロファージの細胞死機構

平成30年度厚生労働科学研究費補助金（化学物質リスク研究事業）

「カーボンナノチューブ等の肺、胸腔及び全身臓器における有害性並びに発癌リスクの新規高効率評価手法の開発」班会議

2018年11月22日（名古屋）

Takanori Saeki, Yoshiaki Suzuki, Hisao Yamamura, Hiroshi Takeshima, Yuji Imaizumi

Functional molecular complexes of junctophilin-2 and caveolin-1 are essential for Ca²⁺-microdomain formation between BKCa channels and RyRs in vascular smooth muscle cells.

The 49th NIPS International Symposium Ion channels: looking back, seeing ahead, December 5-8, 2018, (Okazaki); P-44

Sayuri Noda, Yoshiaki Suzuki, Hisao Yamamura, Yuji Imaizumi

Essential roles of the auxiliary γ -subunit of large-conductance Ca²⁺-activated K⁺ channel in bronchial smooth muscle cells

The 49th NIPS International Symposium Ion channels: looking back, seeing ahead, December 5-8, 2018, (Okazaki); P-45

Sou Inagaki, Yoshiaki Suzuki, Yuji Imaizumi, Hisao Yamamura

Mitofusin2 promotes mitochondrial functions through Ca²⁺ signals in vascular smooth muscle cells

The 49th NIPS International Symposium Ion channels; looking back, seeing ahead, December 5-8, 2018, (Okazaki); P-46

鈴木良明、小澤拓海、今泉祐治、山村寿男

カベオラを足場としたカルシウム依存性遺伝子転写の制御

第92回日本循環薬理学会、2018年12月7日（東京）；B-07

山村英斗、鈴木良明、山村寿男、浅井清文、Wayne R. Giles、今泉祐治

低酸素環境下の脳微小血管内皮細胞における Dynamin2-Kir2.1 機能連関

第28回日本循環薬理学会、2018年12月7日（東京）；Y1A-02

【病態生化学分野】

(原報)

Fujikake, K., Sawada, M., Hikita, T., Kaneko, N., Herranz-Perez, V., Dohi, N., Homma, N., Osaga, S., Yanagawa, Y., Akaike, T., Garcia-Verdugo, J. M., Sobue, K., Hattori, M., and Sawamoto, K.
Detachment of Chain-Forming Neuroblasts by Fyn-Mediated Control of cell-cell Adhesion in the Postnatal Brain.
J. Neurosci. **38**, 4598-4609 (2018).

Sobue, A., Kushima, I., Nagai, T., Shan, W., Kohno, T., Aleksic, B., Aoyama, Y., Mori, D., Arioka, Y., Kawano, N., Yamamoto, M., Hattori, M., Nabeshima, T., Yamada, K., and Ozaki, N.
Dopaminergic and GABAergic deficits in antipsychotic-sensitive behavioral abnormalities of Orleans reeler mice.
Sci. Rep. **8**, 13046 (2018).

Mizukami, T., Ikeda, K., Shimanaka, Y., Korogi, K., Zhou, C., Takase, H., Tsuiji, H., Kono, N., Arai, H., Arita, M., and Hattori, M.
Reelin deficiency leads to aberrant lipid composition in mouse brain.
Biochem. Biophys. Res. Commun. **505**, 81-86 (2018).

(総説・著書・総合論文など)

河野孝夫、服部光治
分泌タンパク質リーリン分解酵素の同定と応用
Bioindustry 35, 11-17 (2018)

山影祐子、河野孝夫、服部光治
リーリンによるアルツハイマー病抵抗メカニズムと、リーリン分解酵素の特定
「アルツハイマー病 発症メカニズムと新規診断法・創薬・治療開発」NTS 出版 9-14 (2018)

(学会発表)

Himari Ogino, Takao Kohno, Yuko Yamakage, Michinao Kato, Eisuke Okugawa, Takumi Ishizuka, Hitomi Tsuiji, Mitsuharu Hattori
Activity of Reelin is regulated by ADMATS metalloproteinases
Gordon Research Conference, Extracellular Proteolysis 2018年2月11日-15日 Ventura, CA

牧野誠、河野孝夫、服部光治
リーリンと結合する新規分子の探索と生化学的解析
日本薬学会第138年会 2018年3月25日-28日 金沢

Keisuke Ishii, Takao Kohno, Mitsuharu Hattori
Reelin C-terminal region regulates hippocampal layer formation
22nd Biennial Meeting of the International Society for Developmental Neuroscience
2018年5月22日-25日 奈良

Yumiko Hatanaka, Takahiko Kawasaki, Takaya Abe, Go Shioi, Takao Kohno, Mitsuharu Hattori, Akira

Sakakibara, Yasuo Kawaguchi, Tatsumi Hirata
Semaphorin 6A-Plexin A2/A4 signaling between neurons and radial glial cells is required for proper positioning of superficial layer neurons in the mouse cerebral cortex
22nd Biennial Meeting of the International Society for Developmental Neuroscience
2018年5月22日-25日 奈良

築地仁美
RNA代謝異常が引き起こす神経変性疾患の発症解明へ向けて
長寿研CAMDセミナー 2018年5月24日 大府

Masahito Sawahata, Kanako Kitagawa, Yumi Tsuneura, Taku Nagai, Takao Kohno, Toshitaka Nabeshima, Mitsuharu Hattori, Kiyofumi Yamada
Microinjection of Reelin into the medial prefrontal cortex improves MK801-induced memory impairment
The 18th World Congress of Basic and Clinical Pharmacology 2018年7月1日-6日 京都(京都府)

Mitsuharu Hattori
Regulation of Reelin functions by proteolytic processing and its significance in brain development and functions
FENS Forum of Neuroscience 2018 2018年7月7日-11日 Berlin, Germany

Hitomi Tsuiji
DP-43 accelerates age-dependent degeneration of interneurons
第41回日本神経科学大会 2018年7月26日-29日 神戸(兵庫県)

Yuko Yamakage, Michinao Kato, Aya Hongo, Himari Ogino, Takumi Ishizuka, Hitomi Tsuiji, Takao Kohno, Mitsuharu Hattori
ADAMTS-2 mediates the specific cleavage of Reelin in the adult brain
第41回日本神経科学大会 2018年7月26日-29日 神戸(兵庫県)

Takao Kohno, Makoto Makino, Keisuke Ishii, Yuki Hirota, Takao Honda, Kazunori Nakajima, Mitsuharu Hattori.
The interaction between Reelin and its novel binding protein is required for dendrite development of cortical upper-layer neurons
第41回日本神経科学大会 2018年7月26日-29日 神戸(兵庫県)

Yumiko Hatanaka, Takahiko Kawasaki, Takaya Abe, Go Shioi, Takao Kohno, Mitsuharu Hattori, Akira Sakakibara, Yasuo Kawaguchi, Tatsumi Hirata
SemaphorinA6 on radial glial cell and PlexinA2/A4 on neuron are required for proper positioning of superficial layer neurons in the cerebral cortex
第41回日本神経科学大会 2018年7月26日-29日 神戸(兵庫県)

梅本銀河、中川真一、吉田稔、服部光治、築地仁美
mRNA様 long non-coding RNAである Gomafu の核内繫留機構の解明
第17回次世代を担う若手ファーマ・バイオフィオーラム 2018年9月1日-2日 熊本

大嶋智葉、山影祐子、河野孝夫、斎藤貴志、西道隆臣、赤津裕康、松川則之、服部光治
リーリンシグナルがアルツハイマー病発症に与える影響
第17回次世代を担う若手ファーマ・バイオフィオーラム 2018年9月1日-2日 熊本

大嶋智葉、山影祐子、河野孝夫、斎藤貴志、西道隆臣、服部光治

リーリングナルがアルツハイマー病発症に与える影響に関する解析
第 91 回日本生化学会大会 2018 年 9 月 24 日-26 日 京都

興梶勝成、水上智晴、河野孝夫、服部光治
神経細胞における特定の脂肪酸の生理的意義についての解析
第 91 回日本生化学会大会 2018 年 9 月 24 日-26 日 京都

築地仁美
RNA 代謝異常が引き起こす神経変性疾患の発症解明へ向けて
第 37 回日本認知症学会学術集会 2018 年 10 月 12 日-13 日 札幌

荻野ひまり、河野孝夫、服部光治
特異的切断によるリーリン機能制御機構
生理研研究会：神経発達・再生研究会 2018 年 10 月 17 日-18 日 名古屋

Hitomi Tsuji, Ikuyo Inoue, Asako Furuya, Mari Takeuchi, Yuko Yamakage, Mitsuharu Hattori, Koji Yamanaka
TDP-43 accelerates age-dependent degeneration of interneurons
12th Brain Research Conference 2018 年 11 月 1 日-2 日 San Diego, CA

石井圭介、河野孝夫、服部光治 (ベストプレゼン賞)
海馬層形成における分泌タンパク質リーリンの機能解明
日本薬学会東海支部大会 2018 年 11 月 4 日 静岡

奥川英介、荻野ひまり、重信奉文、河野孝夫、大石久史、服部光治 (ベストプレゼン賞)
脳の構造と機能に重要なタンパク質リーリンの機能増強マウスの作製と解析
日本薬学会東海支部大会 2018 年 11 月 4 日 静岡

梅本銀河、上原理加、中川真一、吉田稔、服部光治、築地仁美
mRNA 様 long non-coding RNA である Gomafu の核内繫留機構の解明
第 41 回日本分子生物学会年会 2018 年 11 月 28 日-30 日 横浜

奥川英介、荻野ひまり、重信奉文、河野孝夫、大石久史、服部光治
精神神経疾患の治療を志向した、分解抵抗型リーリンノックインマウスの作製と解析
第 41 回日本分子生物学会年会 2018 年 11 月 28 日-30 日 横浜

【薬物動態制御学分野】

(原報)

Takahito Furuya, Issey Takehara, Asuka Shimura, Hisanao Kishimoto, Tomoya Yasujima, Kinya Ohta, Yoshiyuki Shirasaka, Hiroaki Yuasa, Katsuhisa Inoue
Organic anion transporter 1 (OAT1/SLC22A6) enhances bioluminescence based on D-luciferin–luciferase reaction in living cells by facilitating the intracellular accumulation of D-luciferin.
Biochem. Biophys. Res. Commun., **495**, 2152-2157 (2018).

Tomoya Yasujima, Chihiro Murata, Yoshihisa Mimura, Tomoaki Murata, Masahiko Ohkubo, Kinya Ohta, Katsuhisa Inoue, Hiroaki Yuasa
Urate transport function of rat sodium-dependent nucleobase transporter 1.
Physiol. Rep., **6**, e13714 (2018).

Osamu Morinaga, Kanichiro Ishiuchi, Takeshi Ohkita, Chuanting Tian, Asuka Hirasawa, Miaki Mitamura, Yasuhito Maki, Tomoya Yasujima, Hiroaki Yuasa, Toshiaki Makino
Isolation of a novel glycyrrhizin metabolite as a causal candidate compound for pseudoaldosteronism.
Sci. Rep., **8**, 15568 (2018).

(学会発表)

三村佳久, 関口裕太郎, 保嶋智也, 太田欣哉, 井上勝央, 湯浅博昭
小腸特異的な新規有機アニオントランスポーター (OAT11) による citrate 輸送の解析.
日本薬学会第 138 年会, 2018 年 3 月 26 日 - 28 日 (金沢) .

河野綾香, 山城貴弘, 庄司大介, 保嶋智也, 湯浅博昭
myricetin 類縁フラボノイド類のトランスポーター阻害作用 : PCFT と RFVT3 との比較.
日本薬学会第 138 年会, 2018 年 3 月 26 日 - 28 日 (金沢) .

難波莉子, 保嶋智也, 鈴木香帆, 壁谷智樹, 岩尾岳洋, 松永民秀, 湯浅博昭
ヒト iPS 細胞由来腸管上皮細胞モデルにおける clonidine 輸送の解析.
日本薬学会第 138 年会, 2018 年 3 月 26 日 - 28 日 (金沢) .

鈴木香帆, 太田欣哉, 保嶋智也, 壁谷知樹, 岩尾岳洋, 松永民秀, 湯浅博昭
ヒト iPS 細胞由来腸管上皮細胞モデルにおけるリボフラビントランスポーター機能の検証.
日本薬学会第 138 年会, 2018 年 3 月 26 日 - 28 日 (金沢) .

吉田朱里, 三村佳久, 保嶋智也, 湯浅博昭
HepG2 細胞における担体介在性 succinate 輸送の解析.
日本薬学会第 138 年会, 2018 年 3 月 26 日 - 28 日 (金沢) .

難波莉子, 三村佳久, 保嶋智也, 山城貴弘, 湯浅博昭
Caco-2 細胞における担体介在性 nicotinamide 取込の解析.
日本薬剤学会第 33 年会, 2018 年 5 月 30 日 - 6 月 1 日 (静岡) .

篠田裕太郎, 保嶋智也, 山城貴弘, 湯浅博昭
分化型 THP-1 細胞におけるプトレシン担体介輸送系 : ポリアミン類の阻害活性の比較解析.
日本薬剤学会第 33 年会, 2018 年 5 月 30 日 - 6 月 1 日 (静岡) .

平澤明日香, 三田村美秋, 牧 靖人, 石内勘一郎, 森永 紀, 保嶋智也, 湯浅博昭, 牧野利明
甘草の副作用、偽アルドステロン症の真の原因物質の探索 (第3報) .
第35回和漢医薬学会学術大会, 2018年9月1日 - 2日 (岐阜) .

Riko Namba, Tomoya Yasujima, Takahiro Yamashiro, Hiroaki Yuasa
Functional characterization of the carrier-mediated nicotinamide transport system in Caco-2 cells.
2018 International Meeting on 22nd MDO/33rd JSSX, Oct. 1 - 5, 2018 (Kanazawa, Japan).

Takahiro Yamashiro, Tomoya Yasujima, Kinya Ohta, Katsuhisa Inoue, Hiroaki Yuasa
Species difference in the sensitivity of PCFTs to the sustained inhibitory action of myricetin: role of G158 residue.
2018 International Meeting on 22nd MDO/33rd JSSX, Oct. 1 - 5, 2018 (Kanazawa, Japan).

Tomoya Yasujima, Hiroaki Yuasa, Kinya Ohta, Katsuhisa Inoue
Utilization of an SNBT1-transfected cell system for the assessment of urate efflux transporters.
2018 International Meeting on 22nd MDO/33rd JSSX, Oct. 1 - 5, 2018 (Kanazawa, Japan).

Shuya Tajima, Shigehiro Kawamura, Hitomi Sasaki, Tomoya Yasujima, Kinya Ohta, Hiroaki Yuasa
Comparison of histamine recognition of OCT2 and MATE 1 in human and rat.
2018 International Meeting on 22nd MDO/33rd JSSX, Oct. 1 - 5, 2018 (Kanazawa, Japan).

Yutaro Shinoda, Tomoya Yasujima, Takahiro Yamashiro, Hiroaki Yuasa
Comparative analysis of the affinities of polyamines for the carrier-mediated polyamine transport system in differentiated THP-1 cells.
2018 International Meeting on 22nd MDO/33rd JSSX, Oct. 1 - 5, 2018 (Kanazawa, Japan).

Risa Takenaka, Tomoya Yasujima, Takahiro Yamashiro, Kinya Ohta, Katsuhisa Inoue, Hiroaki Yuasa
Utilization of decynium-22 as an ENBT1-specific inhibitor for evaluation of ENBT1-mediated nucleobase uptake in cellular systems.
The 8th Nanjing/Nagoya/Shenyang Symposium of Pharmaceutical Sciences, Oct. 25 - 26, 2018 (Nanjing, China).

Shuya Tajima, Tomoya Yasujima, Takahiro Yamashiro, Kinya Ohta, Hiroaki Yuasa
Functional characteristics of human renal organic cation transporters for histamine transport.
The 8th Nanjing/Nagoya/Shenyang Symposium of Pharmaceutical Sciences, Oct. 25 - 26, 2018 (Nanjing, China).

Kanichiro Ishiuchi, Osamu Morinaga, Tsuyoshi Ohkita, Chuanting Tian, Asuka Hirasawa, Miaki Mitamura, Yasuhito Maki, Tomoya Yasujima, Hiroaki Yuasa, Takao Namiki, Kiyoshi Minamizawa, Toshiaki Makino
18 β -glycyrrhetyl-3-O-sulfate would be a causative agent in licorice-induced pseudoaldosteronism.
The 19th International Congress of Oriental Medicine, Nov. 24 - 26, 2018 (Taipei, Taiwan).

Tomoya Yasujima
Role of equilibrative nucleobase transporter 1 in a suicide gene therapy using herpes simplex virus thymidine kinase with ganciclovir.
APSTJ Global Education Seminar 2018-1st, Dec. 20, 2018 (Nagoya).

【病態解析学分野】

(原報)

Fuji H, Ohmae S, Noma N, Takeiri M, Yasutomi H, Izumi K, Ito M, Toyomoto M, Iwaki S, Takemoto K, Seo S, Taura K, Hida S, Aoyama M, Ishihama Y, Hagiwara M, Takeda N, Hatano E, Iwaisako K, Uemoto S, Asagiri M.

Necrostatin-7 suppresses RANK-NFATc1 signaling and attenuates macrophage to osteoclast differentiation. *Biochem Biophys Res Commun.* **503(2)**, 544-549 (2018).

Kawaguchi Y, Waguri-Nagaya Y, Tatematsu N, Oguri Y, Kobayashi M, Nozaki M, Asai K, Aoyama M, Otsuka T.

The Janus kinase inhibitor tofacitinib inhibits TNF- α -induced gliostatin expression in rheumatoid fibroblast-like synoviocytes.

Clin Exp Rheumatol. **36(4)**, 559-567 (2018)

(学会発表)

大塚勇斗、後藤洋、岩城壮一郎、朝霧成挙、浅井清文、青山峰芳【学生優秀発表賞】

CXCR4⁺CD45⁻細胞は、SDF-1、CXCL7 および CX3CL1 シグナルを介して破骨細胞形成のための微小環境を構成し、破骨細胞を巨大化させる

第 64 回 日本薬学会東海支部大会、2018 年 6 月 30 日 (名古屋)

鳥内皐暉、田村哲也、垣田博樹、岩城壮一郎、朝霧成挙、浅井清文、青山峰芳【学生優秀発表賞】

神経保護因子エリスロポエチンによるミクログリア活性化抑制作用

第 64 回 日本薬学会東海支部大会、2018 年 6 月 30 日 (名古屋)

鳥内皐暉、田村哲也、垣田博樹、岩城壮一郎、朝霧成挙、浅井清文、青山峰芳

神経保護因子エリスロポエチンはミクログリアの過剰な活性化を抑制する

第 65 回 中部日本生理学会、2018 年 11 月 16 日 (名古屋)

大塚勇斗、後藤洋、関谷健夫、岩城壮一郎、朝霧成挙、宮澤健、後藤滋己、浅井清文、青山峰芳

CXCR4⁺CD45⁻細胞は破骨細胞形成に重要な微小環境を構成し、破骨細胞を巨大化させる

第 65 回 中部日本生理学会、2018 年 11 月 16 日 (名古屋)

白川茉由、鳥内皐暉、垣田博樹、岩城壮一郎、朝霧成挙、青山峰芳

低体温療法が神経幹細胞の分化に与える影響について

第 65 回 中部日本生理学会、2018 年 11 月 16 日 (名古屋)

【細胞情報学分野】

(原報)

Mai Nagasaka, Ryoko Hashimoto, Yasumichi Inoue, Kan'ichiro Ishiuchi, Michiyo Matsuno, Yuka Itoh, Munenori Tokugawa, Nobumichi Ohoka, Daisuke Morishita, Hajime Mizukami, Toshiaki Makino, Hidetoshi Hayashi

Anti-tumorigenic activity of Chrysin from *Oroxylum indicum* via non-genotoxic p53 activation through the ATM-Chk2 pathway.

Molecules, 23(6), 1394 (2018). doi.org/10.3390/molecules23061394.

Chiharu Miyajima, Takayuki Iwaki, Kazuo Umemura, Victoria A. Ploplis, Francis J. Castellino
Characterization of Atherosclerosis Formation in a Murine Model of Type IIa Human Familial Hypercholesterolemia.

Biomed. Res. Int., 1878964 (2018). doi: 10.1155/2018/1878964.

Hiroki Tanaka, Yasunori Iida, Takayuki Iwaki, Yuko Suzuki, Hideto Sano, Chiharu Miyajima, Nobuhiro Zaima, Takeshi Sasaki, Ayato Sumioka, Shogo Hakamata, Hideyuki Shimizu, Kazuo Umemura, Tetsumei Urano

Elevated Plasma Levels of LDL Cholesterol Promote Dissecting Thoracic Aortic Aneurysms in Angiotensin II-Induced Mice.

Ann. Vasc. Surg., 48, 204-213 (2018). doi: 10.1016/j.avsg.2017.10.006.

(学会発表)

都築香里, 伊藤友香, 井上靖道, 林 秀敏

pseudokinase TRB1 によるインスリンを介した糖代謝関連因子の新たな発現制御機構

日本薬学会第138年会. 2018年3月27日(金沢); 27J-pm10S.

徳川宗成, 伊藤友香, 石内勘一郎, 牧野利明, 松野倫代, 井上靖道, 林 秀敏 【学生優秀発表賞】

小胞体ストレスを軽減する化合物の同定とその作用機序の解明

日本薬学会第138年会. 2018年3月27日(金沢); 27J-pm24S.

田中孝仁, 西尾愛梨紗, 井上靖道, 加藤ちひろ, 伊藤友香, 林 秀敏

Lox12によるTGF- β 誘導性上皮間葉転換制御の解析

日本薬学会第138年会. 2018年3月28日(金沢); 28F-pm08S.

井上靖道 【招待講演】

がんの浸潤・転移における脱ユビキチン化酵素の役割

日本薬学会第138年会. 2018年3月27日(金沢); S40-5.

Chiharu Miyajima, Takayuki Iwaki, Victoria A. Ploplis, Kazuo Umemura, Francis J. Castellino

Plasmin Activity Promotes Atherosclerosis in a Murine Model of Type IIa Familial Hypercholesterolemia.

第40回血栓止血学会. 2018年6月28日(札幌); O-005.

渡辺 信, 井上靖道, 林 秀敏 【学生優秀発表賞】

脱ユビキチン化酵素によるEMT関連転写因子Twist安定性制御機構の解析

第64回日本薬学会東海支部大会. 2018年6月30日(名古屋); C-5S.

Yasumichi Inoue, Hidetoshi Hayashi

Transcriptional coactivator TAZ negatively regulates tumor-suppressor p53 activity and cellular senescence
(転写共役因子TAZはp53活性を抑制し細胞老化を制御する)。

第77回日本癌学会学術総会。2018年9月28日(大阪) ; J-2625.

Muneshige Tokugawa, Yasumichi Inoue, Hidetoshi Hayashi

Identification and characterization of novel compounds that contribute to regulate endoplasmic reticulum stress response.

The 8th Nanjing/Nagoya/Shenyang Symposium of Pharmaceutical Sciences.

2018年10月25日(Nanjing, China) ; O-13.

長坂真衣, 橋本亮子, 石内勘一郎, 松野倫代, 伊藤友香, 水上元, 牧野利明, 井上靖道, 林秀敏

【ベストプレゼン賞】

クリシンはnon-genotoxicにATM-Chk2経路を活性化してp53を活性化させる

日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海部支部 合同学術大会 静岡 2018.

2018年11月4日(静岡) ; D-18.

野木村藍, 田中輝, 桂川結貴, 石内勘一郎, 松野倫代, 伊藤友香, 水上元, 牧野利明, 井上靖道, 林秀敏

ストレス応答性転写因子ATF4を活性化する新規化合物の同定とその作用機構の解明

日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海部支部 合同学術大会 静岡 2018.

2018年11月4日(静岡) ; D-19.

安田早希, 井上靖道, 林秀敏

TRB1によるCD44発現誘導を介したフェロトーシスの制御

日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海部支部 合同学術大会 静岡 2018.

2018年11月4日(静岡) ; I-17.

吉田真南香, 井上靖道, 林秀敏

がん原遺伝子産物c-Mycを制御する新規脱ユビキチン化酵素の同定とその機能解析

日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海部支部 合同学術大会 静岡 2018.

2018年11月4日(静岡) ; I-18.

渡辺信, 井上靖道, 林秀敏

上皮間葉転換(EMT)関連転写因子Twistを安定化する新規脱ユビキチン化酵素の同定とその機能解析

日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海部支部 合同学術大会 静岡 2018.

2018年11月4日(静岡) ; I-19.

飯田萌子, 井上靖道, 今川正良, 白根道子, 長田茂宏

ヒストンアセチル化酵素HBO1がHeLa細胞の足場非依存的増殖能に与える影響

日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海部支部 合同学術大会 静岡 2018.

2018年11月4日(静岡) ; I-21.

大村隆之, 中村真也, 林秀敏, 今川正良, 白根道子, 長田茂宏

クラスIIaヒストン脱アセチル化酵素とhuntingtin associated protein 1の相互作用

日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海部支部 合同学術大会 静岡 2018.

2018年11月4日(静岡) ; H-4.

都築香里, 伊藤友香, 井上靖道, 林秀敏

TRB1はFOXO1の転写活性を抑制することで糖新生を負に制御する
日本分子生物学会. 2018年11月28日(横浜) ; 1P-0335.

住田丈典, 井上靖道, 駒田雅之, 林秀敏
脱ユビキチン化酵素による脂質代謝関連転写因子SREBPタンパクの発現制御
日本分子生物学会. 2018年11月29日(横浜) ; 2P-0329.

徳川宗成, 伊藤友香, 石内勘一郎, 牧野利明, 松野倫代, 井上靖道, 林秀敏
小胞体ストレス応答を抑制する新規活性成分の同定とその作用機序の解析
日本分子生物学会. 2018年11月30日(横浜) ; 3LBA-156.

Chiharu Miyajima, Takayuki Iwaki, Victoria A. Ploplis, Kazuo Umemura, Francis J. Castellino
The Activation of Plasmin/Plasminogen system Accelerates Atherosclerosis in a Murine Model of Type IIa
Familial Hypercholesterolemia.
第18回慶北-浜松合同医学シンポジウム浜松会議. 2018年12月4日(浜松) ; P14.

【神経薬理学分野】

(原報)

Hashizaki M, Nakajima H, Shiga T, Tsutsumi M, Kume K
A longitudinal large-scale objective sleep data analysis revealed a seasonal sleep variation in the Japanese population.
Chronobiol Int 35:933-45(2018)

Keisuke Miyamoto, Kei-ichiro Ishikura, Kazuhiko Kume, Masahiro Ohsawa
Astrocyte-neuron lactate shuttle sensitizes nociceptive transmission in the spinal cord.
Glia, Wiley, 67, 1, 27-36(2018)

Hosogi S*, Ohsawa M*, Kato I, Kuwahara A, Inui T, Marunaka Y*
Improvement of diabetes mellitus symptoms by intake of Ninjin'yoeito.
Front Nutrition 2018; 5: 112.(2018)

Ohsawa M*, Maruoka J, Inami C, Iwaki A, Ishikura K, Murakami T
Effect of Ninjin'yoeito on the loss of skeletal muscle function in cancer-bearing mice.
Front Pharmacol 2018; 9: 1400.(2018)

Zhang F, Iwaki A, Ishiuthi K-I, Sugiyama A, Ohsawa M, Makino T
Peroxisome proliferator-activated receptor-g agonistic effect of Chrysanthemi Flos and its active constituents: a comparison between Chrysanthemum-morifolium and C. indicum.
Pharmacog Mag 2018; 14, 461-464.(2018)

Yamada A, Koga K, Kume K, Ohsawa M, Furue H
Ethanol-induced enhancement of inhibitory synaptic transmission in the rat spinal substantia gelatinosa.
Mol Pain 2018; 14: 1744806918817969.(2018)

Nomura N, Muranaka T, Tomita J, Matsuno K
Time from Semiosis: E-series Time for Living Systems.
Biosemiotics 11: 65-83 (2018)

(総説・著書・総合論文など)

山口翔、桑和彦
概日周期生物時計と生理現象の関わり
整形・災害外科、金原出版、第 61 巻・第 8 号 (7 月号)、969-972(2018)

小林里帆
「時間生物学会トレーニングコース「ピッテンドリックを読む」に参加して」
学会誌 時間生物学、日本時間生物学会、24-1 号、P.70(2018)

大澤匡弘*、丸岡純也、石倉啓一郎、岩城杏奈、稲波千尋、村上友康
がん悪液質モデルの骨格筋量減少に対する人参養栄湯の効果
日本心療内科学会誌、22、93-100(2018)

(学会発表)

稲波千尋、谷平大樹、菊田里美、糸和彦、小山内実、大澤匡弘.
痛み認知時のマウス脳活動と脳血流量変化の解析.
先端モデル動物支援プラットフォーム成果発表会, 2018年01月20日(滋賀)

大澤匡弘、稲波千尋、谷平大樹、菊田里美、糸和彦、小山内実.
AIM-MRIを用いた慢性疼痛モデルマウスの脳活動解析.
新学術領域研究「人工知能と脳科学」「適応回路シフト」合同領域会議, 2018年05月09日(沖縄)

糸和彦.
睡眠と概日周期研究の最前線.
日本麻酔科学会第65回学術集会, 2018年05月17日(横浜)

糸和彦.
概日周期と睡眠恒常性維持機構の関係再考.
第60回日本小児神経学会学術集会, 2018年05月31日(千葉)

岩城杏奈、糸和彦、大澤匡弘.
キサリプラチン誘発性冷痛覚過敏に対するシンバスタチンの効果.
第133回日本薬理学会近畿部会, 2018年06月01日(広島)

志田恭子、大澤匡弘、太田晴子、藤掛数馬、田村哲也、祖父江和哉.
2型糖尿病モデルマウス(TSODマウス)を用いた耐糖能異常ニューロパチーの発症機序の検討.
第22回日本神経麻酔集中治療学会, 2018年06月22日(群馬)

糸和彦.
Circadian rhythm and sleep regulation in *Drosophila melanogaster*.
AFC/ASSR Joint Symposium, 2018年07月12日(札幌)

Hashizaki, M, Toshikazu Shiga, Masakazu Tsutsumi, Kazuhiko Kume.
Seasonal changes in sleep revealed by a longitudinal large-scale objective data obtained by contactless sleep monitor.
ASSR, 2018年07月12日(札幌)

池上あずさ(社会医療法人芳和会くわみず病院)、福原明、大仁美和、小柿里美、牧田正史、糸和彦、上野太郎、宮川卓、本多真.
当院のHLA型によるナルコレプシーの診断~DQB1*0602の有無による比較検討~.
日本睡眠学会第43回定期学術集会, 2018年07月10日(札幌)

西澤朋美(健生会立川相互病院)、草島健二、糸和彦、立川友代.
終夜睡眠ポリグラフィー検査が有用であった睡眠関連てんかんの1症例.
日本睡眠学会第43回定期学術集会, 2018年07月10日(札幌)

中川寛之、中根伸、富田淳、糸和彦.
D型アミノ酸によるショウジョウバエの睡眠制御.
日本睡眠学会第43回定期学術集会, 2018年07月10日(札幌)

長尾柚香、林里花、池上あずさ、糸和彦.
ヒトの睡眠サイクルの定量的解析.

日本睡眠学会第43回定期学術集会, 2018年07月10日 (札幌)

山口翔、富田淳、桑和彦.

Drosophila insulin-like peptide (dilp) による概日リズム制御.

日本睡眠学会第43回定期学術集会, 2018年07月10日 (札幌)

小林里帆、中根伸、中川寛之、富田淳、船戸弘正、柳沢正史、桑和彦.

Sik3 による睡眠量、概日リズムの調節.

日本睡眠学会第43回定期学術集会, 2018年07月10日 (札幌)

Keisuke Miyamoto, Kazuhiko Kume, Masahiro Ohsawa.

Excessive L-lactate transport from reactive astrocytes to neurons induces mechanical hyperalgesia.

11th FENS Forum of Neuroscience, 2018年07月11日 (Berlin, Germany)

Kazuhiko Kume

Rebuilding of the two process model.

第41回日本神経科学大会 シンポジウム, 2018年07月26日 (神戸)

Jun Tomita, Gosuke Ban, Kazuhiko Kume. Identification of sleep-regulating central complex neurons in *Drosophila melanogaster*.

第41回日本神経科学大会, 2018年07月26日 (神戸)

稲波千尋、谷平大樹、菊田里美、桑和彦、小山内実、大澤匡弘.

ホルマリン投与による疼痛反応時のマウス脳活動解析.

第41回日本神経科学大会, 2018年07月26日 (神戸)

小林里帆、中根伸、中川寛之、富田淳、船戸弘正、柳沢正史、桑和彦.

Functional analysis of *drosophila sik3*, a homologue of mouse Sleepy1.

第41回日本神経科学大会, 2018年07月26日 (神戸)

桑和彦.

1mmの虫に宿る魂の理解.

第11回分子高次機能研究会, 2018年08月22日 (鳥羽)

富田淳、坂豪祐、加藤善章、鈴木博子、桑和彦.

睡眠-覚醒を制御する中心複合体ニューロンの解析.

第11回分子高次機能研究会, 2018年08月22日 (鳥羽)

中川寛之、中根伸、富田淳、桑和彦.

アミノ酸によるショウジョウバエの睡眠制御.

第11回分子高次機能研究会, 2018年08月22日 (鳥羽)

高天翔、富田淳、桑和彦.

ショウジョウバエ *tau* 遺伝子の機能解析.

第11回分子高次機能研究会, 2018年08月22日 (鳥羽)

山口翔、富田淳、桑和彦.

Drosophila insulin-like peptide による概日リズム制御.

第11回分子高次機能研究会, 2018年08月22日 (鳥羽)

谷村陽平、吉田理人、石内勘一郎、大澤匡弘、牧野利明。
加工ブシ成分、benzoylmesaconitine と neoline の体内動態および神経障害性疼痛に対する作用の比較検討。

第 35 回和漢医薬学会学術大会, 2018 年 09 月 01 日 (岐阜)

Sho Yamaguchi, Jun Tomita, Kazuhiko Kume.

Drosophila insulin-like peptide (Dilp) 3 regulates circadian rhythm in *Drosophila melanogaster*.

NEUROFLY2018, 2018 年 09 月 02 日 (Krakow, Poland)

Riho Kobayashi, Shin Nakane, Hiroyuki Nakagawa, Sho Yamaguchi, Junta Hara, Jun Tomita, Hiromasa Funato, Masashi Yanagisawa, Kazuhiko Kume.

Drosophila sik3, a homologue of mouse Sleepy1 gene in clock neurons.

NEUROFLY2018, 2018 年 09 月 02 日 (Krakow, Poland)

Jun Tomita, Gosuke Ban, Kazuhiko Kume.

Identification of sleep-regulating central complex neurons in *Drosophila melanogaster*.

NEUROFLY2018, 2018 年 09 月 02 日 (Krakow, Poland)

稲波千尋、谷平大樹、菊田里美、糸和彦、小山内実、大澤匡弘。

AIM-MRI を用いた慢性疼痛モデルマウスの脳活動解析。

先端モデル動物支援プラットフォーム若手支援技術講習会, 2018 年 09 月 06 日 (蓼科)

富田淳、坂豪祐、加藤善章、糸和彦。

ショウジョウバエの睡眠-覚醒を制御する中心複合体の神経回路。

第 25 回日本時間生物学会学術大会, 2018 年 10 月 19 日 (長崎)

糸和彦。

ショウジョウバエの睡眠研究の批判的回顧と展望。

第 25 回日本時間生物学会学術大会, 2018 年 10 月 19 日 (長崎)

高天翔、富田淳、糸和彦。

Function analysis of tau in *Drosophila melanogaster*.

第 25 回日本時間生物学会学術大会, 2018 年 10 月 19 日 (長崎)

山口翔、富田淳、糸和彦。

Drosophila insulin-like peptide (dilp) 3 regulates circadian rhythm in *Drosophila melanogaster*.

第 25 回日本時間生物学会学術大会, 2018 年 10 月 19 日 (長崎)

岩城杏奈、糸和彦、大澤匡弘。

シンバスタチンによるオキサリプラチン誘発冷アロディニア改善作用には iNOS および STAT3 が関与する。

第 134 回日本薬理学会近畿部会, 2018 年 11 月 23 日 (神戸)

山田彬博、古賀浩平、糸和彦、古江秀昌、大澤匡弘。

脊髄後角におけるアルコールの感覚伝達への影響について。

第 134 回日本薬理学会近畿部会, 2018 年 11 月 23 日 (神戸)

大澤匡弘、丸岡純也、稲波千尋、岩城杏奈、石倉啓一郎、村上友康。

がん悪液質モデルに見られる骨格筋萎縮に対する人参養栄湯の効果。

第 134 回日本薬理学会近畿部会, 2018 年 11 月 23 日 (神戸)

高天翔、富田淳、糸和彦.

Function analysis of tau in *Drosophila melanogaster*.

次世代脳と班会議, 2018年12月11日 (東京)

高天翔、富田淳、糸和彦.

ショウジョウバエの睡眠研究の回顧.

睡眠・生物リズム若手冬の集い, 2018年12月15日 (岐阜)

【医薬品安全性評価学分野】

(原報)

Makoto Osabe M, Toshiyuki Tajika, Masahiro Tohkin
Allopurinol suppresses expression of the regulatory T-cell migration factors TARC/CCL17 and MDC/CCL22 in HaCaT keratinocytes via restriction of nuclear factor- κ B activation.
J Appl Toxicol., **38**, 274-283 (2018).

Kunihito Asano, Yoshiaki Uyama, Masahiro Tohkin
Factors Affecting Drug-Development Strategies in Asian Global Clinical Trials for Drug Approval in Japan.
Clin Transl Sci., **11**, 182-188 (2018).

Kaneko M, Aoyama T, Ishida Y, Miyamoto A, Saito Y, Tohkin M, Kawai S, Matsumoto Y.
Lack of ethnic differences of moxifloxacin and metabolite pharmacokinetics in East Asian men.
J Pharmacokinet Pharmacodyn., **45**, 199-214 (2018).

Kaori Ambe, Kana Ishihara, Tatsuya Ochibe, Sorami Tamura, Kaoru Inoue, Midori Yoshida, Masahiro Tohkin
In silico Prediction of Chemical-Induced Hepatocellular Hypertrophy Using Molecular Descriptors.
Toxicol Sci., **162**, 667-675 (2018).

Akimasa Sanagawa, Yuji Hotta, Tomoya Kataoka, Yasuhiro Maeda, Masahiro Kondo, Yoshihiro Kawade, Yoshihiro Ogawa, Ryohei Nishikawa, Masahiro Tohkin M, Kazunori Kimura
Hepatitis B infection reported with cancer chemotherapy: analyzing the US FDA Adverse Event Reporting System.
Cancer Med., **7**, 2269-2279 (2018).

Toshiyuki Sakaeda, Shinji Kobuchi, Ryosuke Yoshioka, Mariko Haruna, Noriko Takahata, Yukako Ito, Aki Sugano, Kazuki Fukuzawa, Toshiki Hayase, Taro Hayakawa, Hideo Nakayama, Yutaka Takaoka, Masahiro Tohkin
Susceptibility to serious skin and subcutaneous tissue disorders and skin tissue distribution of sodium-dependent glucose co-transporter type 2 (SGLT2) inhibitors.
Int J Med Sci., **15**, 937-943 (2018).

Mitsugu Ikeda, Tatsuya Ochibe, Masahiro Tohkin
Success Rate and Possible Causes of Failures of Phase 3 Clinical Trials in Patients with Breast Cancer: A Systematic Review.
J Clin Trials., **8**, 349-354 (2018).

(学会発表)

池田貢、落部達也、頭金正博
乳癌患者を対象とした第3相臨床試験の成功確率と主要評価項目を達成できなかった原因の探求：システマティックレビュー
日本臨床試験学会第9回学術総会。 2018年2月23, 24日 (仙台)

松本貴大、山下彩花、渡邊崇、木村通男、堀雄史、川上純一、頭金正博【優秀演題賞】
医療情報データベースを活用した薬剤性急性腎障害検出アルゴリズムの確立

医療薬学フォーラム 2018. 2018年6月23日-24日 (東京)

Masaki Ri, Keiko Maekawa, Miki Nakajima, Akihiro Sekine, Ryuzo Ueda, Masahiro Tohkin, Naoki Miyata, Yoshiro Saito, Shinsuke Iida
SERUM LIPID METABOLOMICS AS AN USEFUL BIOMARKER PREDICTING FOR THE EFFICACY OF BORTEZOMIB TREATMENT AND PERIPHERAL NEUROPATHY IN PATIENTS WITH MULTIPLE MYELOMA

European Hematology Association. June 14-17, 2018 (Stockholm)

Toshiki Hayase, Mayu Kobayashi, Kaori Ambe, Masahiro Tohkin
Comparisons of sodium-glucose cotransporter 2 inhibitors-induced adverse events between Japanese and Non-Japanese patients: a pooled analysis of randomized controlled trials

World Congress of Basic and Clinical Pharmacology 2018. 2018年7月2日-6日 (京都)

Ryuta Makino, Hideto Okamoto, Makoto Osabe, Masahiro Tohkin
The effect of lapatinib on lymphocyte activation and transcription factors in T cell differentiation

World Congress of Basic and Clinical Pharmacology 2018. 2018年7月2日-6日 (京都)

Kaori Ambe, Tatsuya Ochibe, Kazuyuki Ohya, Masahiro Tohkin
Development of *in silico* predictive classification models for chemical-induced hepatocellular hypertrophy based on molecular descriptors

World Congress of Basic and Clinical Pharmacology 2018. 2018年7月2日-6日 (京都)

Masahiro Tohkin

Symposium 13: Global clinical trials and ethnic factors Ethnic difference in drug response; pharmacokinetics, efficacy, and safety

World Congress of Basic and Clinical Pharmacology 2018. 2018年7月2日-6日 (京都)

Hiroshi Hagiwara, Hidekatsu Fukuta, Tatsuya Muto, Masahiro Tohkin, Takeshi Kamiya
Comparison of breeding risk between prasugrel and clopidogrel using the spontaneous reporting system of adverse drug events

World Congress of Basic and Clinical Pharmacology 2018. 2018年7月2日-6日 (京都)

榊原由子、坂部彩、安部賀央里、頭金正博
文献情報を用いたフタル酸エステル類の毒性影響の比格
第45回日本毒性学会学術年会. 2018年7月18日-20日 (大阪)

浅野邦仁、宇山佳明、頭金正博
アジア地域における国際共同治験の現状とその開発ストラテジーに影響を与える要因の検討
日本レギュラトリーサイエンス学会. 2018年9月7日-8日 (東京)

早瀬稔起、伊藤友香、小林牧由、安部賀央里、頭金正博【優秀発表賞】
臨床試験データを用いた DPP-4 阻害薬と SGLT2 阻害薬における有効性の民族差に関する研究
第4回次世代を担う若手のためのレギュラトリーサイエンスフォーラム. 2018年9月15日(東京)

大矢和幸、安部賀央里、頭金正博
JADER を用いた Deep Learning による医薬品の重症皮膚副作用の予測
第4回次世代を担う若手のためのレギュラトリーサイエンスフォーラム. 2018年9月15日(東京)

中嶋琢人、亀位涼、坂部彩、岡本秀人、長部誠、頭金正博

CLC Genomics Workbench を用いた HLA タイピング法と他のタイピングソフトとの比較
第 4 回次世代を担う若手のためのレギュラトリーサイエンスフォーラム. 2018 年 9 月 15 日(東京)

武藤樹也、頭金正博

大規模副作用データベースを用いた DPP-4 阻害薬による胆道系障害に関する研究
第 4 回次世代を担う若手のためのレギュラトリーサイエンスフォーラム. 2018 年 9 月 15 日(東京)

Keiko Maekawa, Masaki Ri, Masahiro Tohkin, Naoki Miyata, Shinsuke Iida, Yoshiro Saito
Serum lipidomics for exploring biomarkers of bortezomib therapy in patients with multiple myeloma
22nd International Symposium on MDO and the 33rd Annual Meeting of JSSX. 2018 年 10 月 1 日-5 日
(金沢)

Kazuyuki Ohya, Kaori Ambe, Masahiro Tohkin

In silico Prediction of Severe Cutaneous Adverse Drug Reactions Based on the Adverse Event Reporting Database
CBI 学会 2018 年大会. 2018 年 10 月 9 日-11 日 (船堀)

Akimasa Sanagawa, Yuji Hotta, Masahiro Kondo, Ryohei Nishikawa, Masahiro Tohkin, Kazunori Kimura
Tumor lysis syndrome reported with anticancer agents: an analysis of the US FDA Adverse Event Reporting System
American Society of Nephrology (ASN). October 27, 2018 (San Diego, CA)

榑原由子、落部達也、甘利涼香、頭金正博【優秀発表賞】

ナショナルレセプトデータベースを用いた周術期のせん妄の発症要因に関する研究
日本病院薬剤師会東海ブロック日本薬学会東海支部合同学術大会 2018 11 月 4 日 (静岡)

【病院薬学分野】

(原報)

Kondo M, Naiki T, Hotta Y, Yamamoto Y, Sugiyama Y, Yasui T, Kimura K.

Investigation of tolerability and quality of life for carboplatin-based chemotherapy in an elderly urothelial carcinoma patient undergoing hemodialysis: a case report.

J Pharm Health Care Sci. **4**:29 (2018).

Sanagawa A, Hotta Y, Kataoka T, Maeda Y, Kondo M, Kawade Y, Ogawa Y, Nishikawa R, Tohkin M, Kimura K.

Hepatitis B infection reported with cancer chemotherapy: analyzing the US FDA Adverse Event Reporting System.

Cancer Med. **7**(6):2269-2279 (2018).

Sugiyama Y, Kataoka T, Tasaki Y, Kondo Y, Sato N, Naiki T, Sakamoto N, Akechi T, Kimura K.

Efficacy of tapentadol for first-line opioid-resistant neuropathic pain in Japan.

JJCO. **48**, (4):362-366 (2018).

Takagi M, Kimura K, Nakashima KI, Hirai T, Inoue M.

Induction of beige adipocytes by naturally occurring β 3-adrenoceptor agonist p-syneprine.

Eur J Pharmacol. **5**(836) 67-74 (2018).

Takagi M, Kimura K, Nakashima KI, Inoue M.

Ameliorative effect of panaxynol on the reduction in high-molecular-weight adiponectin secretion from 3T3-L1 adipocytes treated with palmitic acids.

Eur J Pharmacol. **5**(820)138-145 (2018).

赤津裕康、間辺利江、竹尾淳、川出義浩、木村雄子、近藤麻央、伊藤禎芳、長野弘季、野崎耀志郎、土井愛美、正木克由規、田中創始、兼松孝好、小嶋雅代、明石恵子、岩田彰、鈴木匡、木村和哲、浅井清文、大原隆弘

大都市旧ニュータウン在住高齢者への死後を含めた事前指示に関する意識調査と啓発介入効果
日本老年医学会雑誌 **55**, (3) (2018).

(総説・著書・総合論文など)

Kataoka T, Kimura K

Testosterone and Erectile Function, a Review of Evidence from Basic Research.

InTech open; Sex Hormones in Neurodegenerative Processes. 257-272 (2018)

堀田祐志、富田なつみ、木村和哲

PDE-5 阻害薬の最近の動向～他疾患への応用と偽造品問題～

愛知県病院薬剤師会 特別寄稿, **46**(2), 2-4 (2018)

堀田祐志、木村和哲

特集 性機能障害と腎泌尿器疾患 「性機能研究の最前線」

腎臓内科・泌尿器科, **8**(3), 246-250 (2018)

片岡智哉, 真川明将, 木村和哲

AYA 世代のがん患者の支援とその問題を考える 抗がん剤による男性性機能への影響 がんサバイバーの QOL 向上を目指して
ファルマシア 54, 1129-1131 (2018)

木村和哲
高度な薬学分野の専門知識を活かし医療に貢献できる人材の養成を目指す
日本病院薬剤師会雑誌 54(1) 96-98 (2018)

杉野輝明、田崎慶彦、木村和哲、安井孝周
尿路結石症
「泌尿器 Care&Cure Uro-Lo」 23(4) (2018)

(学会発表)

木村和哲【招待講演】
光応答性 NO ドナーの開発とこれからの ED 治療
日本性機能学会第 29 回学術総会 (神戸) 2018 年 9 月

黒田純子、田代雄祐、鬼頭典子、森川琢也、奥苑朱加、青木有希、井口祐美子、竹本将士、木村和哲
【招待講演】
抗がん剤自動調製ロボットとアイソレーターを用いた シームレスで開かれた抗がん剤調製環境
— 6 年間の使用経験とその問題点 —
第 16 回日本臨床腫瘍学会学術集会 (JSMO2018) (神戸) 2018 年 7 月

片岡智哉、木村和哲【招待講演】
抗がん剤による性機能障害
— 大規模副作用データベース解析を併用した薬理的評価 —
第 12 回日本緩和医療薬学会年会 (東京) 2018 年 5 月

堀田祐志【シンポジスト&オーガナイザー】
若手研究者が取り組む泌尿器薬理の最前線「性機能研究の最前線と新規治療法」
日本薬学会第 138 年会, 2018 年 3 月 25-28 日 (金沢)

Kondo M, Hotta Y, Yamauchi K, Sanagawa A, Komatsu H, Iida S, Kimura K
Bortezomib-induced tumor lysis syndrome in patients with untreated symptomatic multiple myeloma: a retrospective study
American society of nephrology, Kidney Week 2018. (San Diego, USA) 2018.10

Sanagawa A, Hotta Y, Kondo M, Nishikawa R, Tohkin M, Kimura K
Tumor lysis syndrome linked to anticancer agents: an analysis using the FDA Adverse Event Reporting System
American society of nephrology, Kidney Week 2018. (San Diego, USA) 2018.10

Hotta Y, Naiki-Ito A, Kitagawa A, Tomoita N, Kondo M, Kataoka T, Maeda Y, Takahashi S, Kimura K
Urinary Symmetric Dimethylarginine Reflects Mild Renal Damage After Cisplatin Treatment in Rats
American society of nephrology, Kidney Week 2018. (San Diego, USA) 2018.10

Tomoita N, Hotta Y, Naiki-Ito A, Kataoka T, Maeda Y, Takahashi S, Kimura K
Tadalafil Treatment Attenuates Renal Dysfunction in Hypertensive Model Independent of Blood Pressure

Lowering

American society of nephrology, Kidney Week 2018. (San Diego, USA) 2018.10

Naoya Ieda, Hana Okuno, Ayaka Yakauchi, Yuji Hotta, Mitusyasu Kawaguchi, Kazunori Kimura, Hidehiko Nakagawa 【Invited Lecture】 【Lecture Award】

Development of visible and near-infrared light controllable NO releasers and their application for photomanipulation of vasodilation

International Congress on Pure & Applied Chemistry Langkawi 2018 (Malaysia) 2018. 10,

Kataoka T, Hotta Y, Hamakawa T, Shibata Y, Maeda Y, Ugawa S, Yasui T, Kimura K

A low-carbohydrate diet prolongs voiding function and weakens detrusor muscle contraction in rats ICS2018. (Philadelphia, USA) 2018.8

Maeda K, Hotta Y, Kataoka T, Maeda Y, Hamakawa T, Sasaki S, Yasui T, Kimura K

Investigating the role of kynurenine/AhR signaling in interstitial cystitis using a cystitis rat model ICS2018. (Philadelphia, USA) 2018.8

Kataoka T, Hotta Y, Maeda Y, Kimura K

Testosterone deficiency causes endothelial dysfunction via elevation of asymmetric dimethylarginine (ADMA) and oxidative stress in castrated rats

21th World Meeting on Sexual Medicine. (Lisbon, Portugal) 2018.3

Hotta Y, Ieda N, Kataoka T, Maeda Y, Nakagawa H, Kimura K

Light-controlled relaxation of rat penile corpus cavernosum by a novel NO donor, NO-Rosa

21th World Meeting on Sexual Medicine. (Lisbon, Portugal) 2018.3

Mori T, Hotta Y, Nakamura D, Yahagi R, Kataoka T, Maeda Y, Kawade Y, Kimura K

The mechanisms of stress-induced erectile dysfunction; a focus on regulators of contraction and relaxation in the corpus cavernosum by using a rat model of water immersion-restraint stress

21th World Meeting on Sexual Medicine. (Lisbon, Portugal) 2018.3

片岡智哉、真川明将、鈴木純、武藤樹也、堀田祐志、前田康博、川出義浩、頭金正博、木村和哲
抗がん剤治療が男性性機能へ及ぼす影響—データベース解析による被疑薬をラットに用いた薬理学的
検討—

第 28 回日本医療薬学会年会（神戸）2018 年 11 月

富田なつみ、堀田祐志、内木綾、片岡智哉、前田康博、高橋智、木村和哲

PDE5 阻害薬 Tadalafil による血圧非依存的な腎保護効果の検討

第 28 回日本医療薬学会年会（神戸）2018 年 11 月

和知野千春、鬼頭典子、朝岡みなみ、早川智章、高梨馨太、中村敦

VCM と GM 長期併用投与が奏功した *Abiotrophia defectiva* 菌血症の一例

第 66 回日本化学療法学会西日本支部総会（鹿児島）2018 年 11 月

平野花奈、堀田祐志、富田なつみ、内木綾、片岡智哉、前田康博、高橋智、木村和哲

PDE5 阻害薬 Tadalafil による腎保護効果のメカニズムの解明

-線維化促進因子と抗酸化関連因子についての検討

日本病院薬剤師会東海ブロック 日本薬学会東海支部 合同学術大会 2018（静岡）2018 年 11 月

【ベストプレゼンテーション賞受賞】

山内彩樺、家田直弥、堀田祐志、川口充康、木村和哲、中川秀彦
論理的設計に基づく赤色光作動性 NO ドナーの開発と機能評価
日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部合同学術集会 2018（静岡）2018年11月

三宅玲香、前田康博、中島葉子、伊藤哲哉、後藤佳奈、堀田祐志、片岡智哉、木村和哲
乾燥濾紙血を用いた酵素反応と UPLC-MS/MS を利用した 15N4-IMP 定量による HPRT 活性測定法の
確立
第 60 回日本先天代謝異常学会総会（岐阜）2018年11月

杉山洋介、内木拓、三田村佳奈、田崎慶彦、近藤祐樹、片岡智哉、河合憲康、恵谷俊紀、飯田啓太
郎、安藤亮介、安井孝周、木村和哲
進行再発尿路上皮癌に対する GC 療法に起因する低ナトリウム血症の臨床的検討
Clinical investigation of hyponatremia caused by GC therapy for advanced recurrent
urothelial carcinoma
第 56 回日本癌治療学会学術集会（横浜）2018年10月

黒田純子、竹本将士、田代雄祐、遠山竜也、小松弘和、木村和哲
ドキシソルピシンの先発品と後発品における心毒性発現に関する比較検討
第 56 回日本癌治療学会学術集会（横浜）2018年10月

片岡智哉、堀田祐志、濱川隆、前田康博、安井孝周、木村和哲
炭水化物制限食がラットの排尿機能に及ぼす影響
第 25 回日本排尿機能学会（名古屋）2018年9月

前田琴美、堀田祐志、片岡智哉、前田康博、濱川隆、安井孝周、木村和哲
間質性膀胱炎モデルラットにおけるキヌレニン - AhR 経路の関与
第 25 回日本排尿機能学会（名古屋）2018年9月

濱川隆、窪田泰江、太田裕也、加藤大貴、佐々木昌一、堀田祐志、木村和哲、丸山哲史、安井孝周
IPP によるロボット支援前立腺全摘除術後の排尿状態の予測
第 25 回日本排尿機能学会（名古屋）2018年9月

片岡智哉、深本絢子、堀田祐志、前田康博、木村和哲
テストステロンの過量投与が及ぼす影響 - ラットの勃起機能と大動脈を用いた薬理的検討 -
日本性機能学会第 29 回学術総会（神戸）2018年9月

鈴木純、片岡智哉、堀田祐志、前田康博、木村和哲
オキサリプラチンによる勃起障害に対する牛車腎気丸の効果
日本性機能学会第 29 回学術総会（神戸）2018年9月

森泰毅、堀田祐志、片岡智哉、前田康博、木村和哲
ストレスは陰茎海綿体の線維化を進行させ、ED を引き起こすか？
日本性機能学会第 29 回学術総会（神戸）2018年9月

前田琴美、堀田祐志、片岡智哉、前田康博、濱川隆、安井孝周、木村和哲
キヌレニン経路と頻尿症状～間質性膀胱炎モデルを用いた検討～
第 60 回日本平滑筋学会総会（名古屋）2018年9月

村瀬美和、前田康博、中島葉子、伊藤哲哉、堀田祐志、片岡智哉、木村和哲
ピリミジン系抗がん剤 5-FU 投与における副作用発現回避のための dihydropyrimidine dehydrogenase

活性測定法の確立

第 43 回日本医用マスペクトル学会年会（札幌）2018 年 9 月

佐々木菜央、前田康博、戸川泰子、後藤佳奈、堀田祐志、片岡智哉、小山典久、幸脇正典、木村和哲
極低出生体重児における出生直後からの血中カルニチン濃度の推移

第 43 回日本医用マスペクトル学会年会（札幌）2018 年 9 月

片岡智哉、真川明将、武藤樹也、鈴木純、堀田祐志、前田康博、川出義浩、頭金正博、木村和哲
殺細胞性抗がん剤による勃起障害発症リスクの検討—大規模副作用データベースを併用した薬理的
評価—

日本アンドロロジー学会第 37 回学術大会（神戸）2018 年 6 月

大橋一輝、小田切悠希、高梨馨太、真川明将、堀田祐志、江崎哲夫、木村和哲
眼科領域における用法のひらがな表記は左右誤認リスクを軽減する

医療薬学フォーラム 2018（横浜）2018 年 6 月

高梨馨太、朝岡みなみ、片岡智哉、和知野千春、木村和哲

テイコプラニン高用量負荷レジメンにおける目標トラフ値達成率と臨床的有用性の評価

医療薬学フォーラム 2018（横浜）2018 年 6 月

家田直弥、奥野華、山内彩樺、堀田祐志、川口充康、木村和哲、中川秀彦

可視光で制御可能な NO ドナー群の開発と生体応用

第 71 回日本酸化ストレス学会学術集会・第 18 回日本 NO 学会合同学術集会（京都）2018 年 5 月

竹本将士、黒田純子、近藤勝弘、江崎哲夫、木村和哲

外来化学療法中の患者に薬剤師が関わることで口腔白板症を早期発見した 1 例

日本臨床腫瘍薬学会学術大会 2018（横浜）2018 年 3 月

山内歌恋、近藤勝弘、堀田祐志、真川明将、竹本将士、木村和哲

多発性骨髄腫における腫瘍崩壊症候群発生のリスク因子に関する後方視的研究

日本臨床腫瘍薬学会学術大会 2018（横浜）2018 年 3 月

片岡智哉、鈴木純、川木雄斗、鬼頭陽平、堀田祐志、川出義浩、前田康博、木村和哲
抗がん剤投与に伴う勃起障害に対する牛車腎気丸の有効性の薬理的検討

日本薬学会第 138 年会（金沢）2018 年 3 月

中村宗一郎、加藤秀紀、片岡智哉、萩原宏美、江崎哲夫、木村和哲

吸入デバイスの理解度と複雑性の改善—吸入指導講習会参加者へのアンケート調査より—

日本薬学会第 138 年会（金沢）2018 年 3 月

中根裕人、堀田祐志、中村大学、片岡智哉、前田康博、川出義浩、木村和哲

ラットへのシタラピン投与が将来の勃起機能に与える影響

日本薬学会第 138 年会（金沢）2018 年 3 月

飯田悠貴、堀田祐志、内木綾、高橋瀬奈、中村大学、矢萩亮、片岡智哉、前田康博、高橋智、木村和哲

II 型糖尿病モデル SDT fatty rat の勃起機能の評価

日本薬学会第 138 年会（金沢）2018 年 3 月

山内彩樺、家田直弥、堀田祐志、川口充康、木村和哲、中川 秀彦

赤色光作動性 NO ドナーの合成と機能評価
日本薬学会 138 年会（金沢）2018 年 3 月

Naoya Ieda, Hana Okuno, Yuji Hotta, Mitsuyasu Kawaguchi, Kazunori Kimura, and Hidehiko Nakagawa
Development of visible light controllable nitric oxide releasers and biological application
日本化学会第 98 春季大会（千葉）2018 年 3 月

家田直弥、奥野華、堀田祐志、川口充康、木村和哲、中川秀彦
光化学反応を駆使した光制御 NO ドナー群の開発と生体応用
異分野融合を見据えた次世代レドックス生理科学シンポジウム（岡崎）2018 年 2 月

【臨床薬学分野】

(原報)

Satoshi Kondo, Shota Mizuno, Tadahiro Hashita, Takahiro Iwao, Tamihide Matsunaga
Using human iPS cell-derived enterocytes as novel in vitro model for the evaluation of human intestinal mucosal damage.

Inflamm. Res., **67**, 975–984 (2018).

Daichi Onozato, Misaki Yamashita, Anna Nakanishi, Takumi Akagawa, Yuriko Kida, Isamu Ogawa, Tadahiro Hashita, Takahiro Iwao, Tamihide Matsunaga
Generation of intestinal organoids suitable for pharmacokinetic studies from human induced pluripotent stem cells.

Drug Metab. Dispos., **46**, 1572–1580 (2018).

Hiroki Okumura, Anna Nakanishi, Tadahiro Hashita, Takahiro Iwao, Tamihide Matsunaga
Effect of celecoxib on differentiation of human induced pluripotent stem cells into hepatocytes involves STAT5 activation.

Drug Metab. Dispos., **46**, 1519–1527 (2018).

Tomoki Kabeya, Shimeng Qiu, Momona Hibino, Mizuka Nagasaki, Nao Kodama, Takahiro Iwao, Tamihide Matsunaga

Cyclic AMP signaling promotes the differentiation of human induced pluripotent stem cells into intestinal epithelial cells.

Drug Metab. Dispos., **46**, 1411–1419 (2018).

Hiroki Okumura, Eri Nanizawa, Anna Nakanishi, Hiroshi Yukawa, Tadahiro Hashita, Takahiro Iwao, Yoshinobu Baba, Tetsuya Ishikawa, Tamihide Matsunaga

Effective transplantation of 2D and 3D cultured hepatocyte spheroids confirmed by quantum dot imaging.

Adv. Biosystems, **2**, 1800137 (2018).

Daichi Onozato, Misaki Yamashita, Ryosuke Fukuyama, Takumi Akagawa, Yuriko Kida, Akiko Koeda, Tadahiro Hashita, Takahiro Iwao, Tamihide Matsunaga
Efficient generation of cynomolgus monkey induced pluripotent stem cell-derived intestinal organoids with pharmacokinetic functions.

Stem Cells Dev., **27**, 1033–1045 (2018).

Masayuki Saito, Masayoshi Ajioka, Takahiro Iwao, Tadashi Suzuki
Enhancement of warfarin anticoagulant reaction in patients with repeated oral tolvaptan administration.

Biol. Pharm. Bull., **41**, 1014–1016 (2018).

(総説・著書・総合論文など)

菊池千草, 安原智久

個性が輝くインクルージョンの実現—合理的配慮と方略・評価の多様化, 薬剤師としての資質の水準を考える—.

薬学教育, **2**, 1-8 (2018).

Takahiro Iwao

Development of an *in vitro* system for evaluating intestinal drug disposition using human induced pluripotent stem cell-derived intestinal epithelial cells.
Yakugaku Zasshi, **138**, 1241–1247 (2018).

岩尾岳洋

薬物動態評価モデルの構築を目指したヒト iPS 細胞由来腸管幹細胞の単離および培養法の確立.
薬学研究の進歩, **35**, 9–13 (2018).

岩尾岳洋, 小玉菜央, 壁谷知樹, 小野里太智, 松永民秀

薬物動態および毒性評価系としての利用に向けたヒト iPS 細胞由来腸管細胞の作製.
臨床薬理の進歩, **39**, 66–73 (2018).

岩尾岳洋, 松永民秀

経口投与薬物の吸収・代謝過程を模倣した小腸–肝臓連結デバイスの開発.
臓器チップの技術と開発動向, 酒井康行・金森敏幸監修, シーエムシー出版, 東京, pp. 171–179 (2018).

菊池千草, 鈴木 匡, 小嶋雅代

薬局が行う継続的なロコモ予防活動によるセルフメディケーション推進効果の検証.
平成 29 年度一般用医薬品セルフメディケーション調査研究・啓発事業等報告書(NO.12) : 165-175 (2018).

(学会発表)

松永民秀【招待講演】

創薬研究支援材料ヒト iPS 細胞を用いた創薬研究の未来.
日本たばこ産業(株) 社内講演会, 2018 年 1 月 16 日 (横浜) .

小川 勇, 小野里太智, 岩尾岳洋, 松永民秀

新規浮遊剤を用いたヒト iPS 細胞由来腸管オルガノイドの作製.
細胞アッセイ研究会シンポジウム, 2018 年 1 月 19 日 (つくば) .

大西 琢, 小野里太智, 岩尾岳洋, 境 伸司, 田谷正仁, 松永民秀

マイクロカプセル化技術を用いたヒト iPS 細胞由来肝スフェロイドの培養.
細胞アッセイ研究会シンポジウム, 2018 年 1 月 19 日 (つくば) .

小野里太智, 赤川 巧, 木田有里子, 小川 勇, 岩尾岳洋, 松永民秀

ヒト iPS 細胞由来腸管オルガノイドを用いた炎症性腸疾患モデルの構築.
細胞アッセイ研究会シンポジウム, 2018 年 1 月 19 日 (つくば) .

松永民秀【招待講演】

共同研究を推進するための取り組み：研究室立ち上げと外部資金獲得
第 6 回 医薬工連携フォーラム —産学連携の推進に向けて—, 2018 年 2 月 9 日 (名古屋) .

菊池千草【招待講演】

「薬剤師が臨床研究を行うために必要な基礎知識<まず、研究計画を立てよう！>」
第 14 回愛知県薬剤師会学術発表会学術情報部会シンポジウム, 2018 年 3 月 4 日 (名古屋)

鈴木香帆, 太田欣哉, 保嶋智也, 壁谷知樹, 岩尾岳洋, 松永民秀, 湯浅博昭

ヒト iPS 細胞由来腸管上皮細胞モデルにおけるリボフラビントランスポーター機能の検証.

日本薬学会第 138 年会, 2018 年 3 月 25–28 日 (金沢) .

難波莉子, 保嶋智也, 鈴木香帆, 壁谷知樹, 岩尾岳洋, 松永民秀, 湯浅博昭
ヒト iPS 細胞由来腸管上皮細胞モデルにおける clonidine 輸送の解析.
日本薬学会第 138 年会, 2018 年 3 月 25–28 日 (金沢) .

奥村啓樹, 中西杏奈, 坡下真大, 岩尾岳洋, 松永民秀
ヒト iPS 細胞から肝細胞への分化成熟化に及ぼすセレコキシブの影響.
日本薬学会第 138 年会, 2018 年 3 月 25–28 日 (金沢) .

堀池理沙, 菊池千草, 鈴木理珠, 山口京子, 浅井治行, 佐竹純衣, 松波晋平, 白井直子, 水野正子, 鍋谷伸子, 福井恵子, 本田祥子, 宮嶋貴美, 橋村孝博, 佐々木 豊, 鈴木 匡【ハイライトポスター】
薬局検体測定室を活用した生活習慣指導のランダム化比較試験による効果検証.
日本薬学会第 138 年会, 2018 年 3 月 28 日 (金沢) .

鈴木 匡【招待講演】
新コアカリ対応実務実習と薬剤師教育.
第 1 回群馬県薬学大会, 2018 年 5 月 13 日 (前橋) .

小川 勇, 小野里太智, 岩尾岳洋, 松永民秀
新規浮遊剤を用いて作製したヒト iPS 細胞由来腸管オルガノイドの機能解析.
第 25 回 HAB 研究機構学術年会, 2018 年 5 月 24–26 日 (つくば) .

菊池千草, 山中 亮
面談結果を用いた実務実習指導薬剤師への学生のコミュニケーションの特徴に関する情報提供の効果.
日本学生相談学会第 36 回大会, 2018 年 5 月 20 日 (横浜) .

三好 真琴, 菊池 千草, 関谷 茜, 瀬浪 孟明, 鈴木 匡
服薬アドヒアランスと生活習慣との関連性の検証.
第 61 回日本糖尿病学会年次学術集会, 2018 年 5 月 24 日 (東京) .

杉本 章, 坡下真大, 岩尾岳洋, 松永民秀
マルチキナーゼ阻害薬のヒト不死化巨核球の増殖に対する影響.
医療薬学フォーラム 2018 第 26 回クリニカルファーマシーシンポジウム, 2018 年 6 月 23–24 日 (東京) .

中西杏菜, 小野里太智, 奥村啓樹, 坡下真大, 岩尾岳洋, 松永民秀
ヒト iPS 細胞由来腸管オルガノイドの創薬研究での利用に向けた有用性評価.
医療薬学フォーラム 2018 第 26 回クリニカルファーマシーシンポジウム, 2018 年 6 月 23–24 日 (東京) .

Daichi Onozato, Takumi Akagawa, Yuriko Kida, Isamu Ogawa, Tadahiro Hashita, Takahiro Iwao, Tamihide Matsunaga
Generation of an inflammatory bowel disease model system using human iPS cell-derived intestinal organoids.
ISSCR 2018 Annual Meeting, Jun. 20–23, 2018 (Melbourne, Australia) (poster).

Hiroki Okumura, Tadahiro Hashita, Takahiro Iwao, Tamihide Matsunaga
The influence of STAT5 activation by celecoxib on differentiation of human induced pluripotent stem cells

into hepatocytes.

ISSCR 2018 Annual Meeting, Jun. 20–23, 2018 (Melbourne, Australia) (poster).

渡邊 崇, 山口京子, 菊池千草, 鈴木 匡

ID-POS を活用したセルフメディケーション税制の効果検証.

第 21 回日本医薬品情報学会総会・学術大会, 2018 年 6 月 30 日 (三重) .

岩尾岳洋【受賞講演】

ヒト iPS 細胞由来腸管上皮細胞を用いた新規薬物動態評価系の開発.

第64回日本薬学会東海支部大会・総会, 2018年6月30日 (名古屋) .

菊池千草【招待講演】

飲ませりゃいいってものじゃない！—服薬アドヒアランスについて考える—

2018 年度糖尿病療養公開勉強会 in 岐阜, 2018 年 7 月 8 日 (岐阜) .

杉本 章, 坂下真大, 岩尾岳洋, 松永民秀

マルチキナーゼ阻害薬スニチニブによる血小板減少の機序の解明.

第 45 回日本毒性学会学術年会, 2018 年 7 月 18–20 日 (大阪) .

岩尾岳洋【招待講演】

創薬研究での利用に向けたヒト iPS 細胞由来腸管モデルの開発.

第60回日本平滑筋学会総会, 2018年8月16–18日 (東京) .

松永民秀【招待講演】

ヒト iPS 細胞から腸管オルガノイド作製と創薬研究への利用.

第 58 回日本臨床化学会年次学術集会, 2018 年 8 月 25 日 (名古屋) .

瀬浪孟明, 菊池千草, 小田切州広, 山口京子, 鈴木 匡

薬学生の模擬指導における SOAP 形式の生活指導記録の評価、分析.

第 3 回日本教育薬学会, 2018 年 9 月 2 日 (東京) .

Anna Nakanishi, Daichi Onozato, Hiroki Okumura, Tadahiro Hashita, Takahiro Iwao, Tamihide Matsunaga
Evaluating the usefulness of human-induced pluripotent stem cell-derived intestinal organoids in drug
discovery research.

54th Congress of the European Societies of Toxicology (EUROTOX 2018), Sep. 2–5, 2018 (Brussels,
Belgium) (Poster)*“AstraZeneca Student Award for Innovation 2018” nominate.

Misaki Yamashita, Hiromasa Aoki, Tadahiro Hashita, Takahiro Iwao, Tamihide Matsunaga
Effects of compounds Y on the barrier function of human iPSCs derived brain microvascular endothelial
cells.

54th Congress of the European Societies of Toxicology (EUROTOX 2018), Sep. 2–5, 2018 (Brussels,
Belgium) (Poster).

Daichi Onozato, Takumi Akagawa, Yuriko Kida, Isamu Ogawa, Tadahiro Hashita, Takahiro Iwao, Tamihide
Matsunaga

Novel differentiation of human induced pluripotent stem cell-derived intestinal organoids (HiOs) for
evaluation of intestinal fibrosis.

54th Congress of the European Societies of Toxicology (EUROTOX 2018), Sep. 2–5, 2018 (Brussels,
Belgium) *“AstraZeneca Student Award for Innovation 2018” nominate.

松永民秀【招待講演】

ヒト iPS 細胞の小腸上皮細胞への分化誘導及び小腸-肝臓連結デバイスの開発.
安全性評価研究会 2018 年 夏のフォーラム, 2018 年 9 月 8 日 (長野県) .

松永民秀【招待講演】

ヒト iPS 細胞から創薬・再生医療研究材料の創出とその利用：腸管オルガイド、血管内皮前駆細胞.
第 6 回 ベンチャー創設支援 フォーラム ～ 再生医療等製品からその周辺産業まで～, 2018 年 9 月 26 日 (名古屋) .

Tamihide Matsunaga【招待講演】

Development of Biomimetic Small Intestine- and Liver-on-a-Chip for Pharmacokinetic Assessment.
2018 International Meeting on 22nd MDO and 33rd JSSX, October. 2 (2018), (Kanazawa, Japan).

Shota Mizuno, Yumi Jinnoh, Yoko Sakai, Takahiro Iwao, Tamihide Matsunaga

Development of a novel device for the prediction of first-pass effects of drugs.

2018 International Meeting on 22nd MDO and 33rd JSSX, Oct. 1–5, 2018 (Kanazawa, Japan) (Poster).

Tomoki Kabeya, Shimeng Qiu, Momona Hibino, Mizuka Nagasaki, Nao Kodama, Takahiro Iwao, Tamihide Matsunaga

cAMP signaling promotes the intestinal differentiation of human induced pluripotent stem cells.

2018 International Meeting on 22nd MDO and 33rd JSSX, Oct. 1–5, 2018 (Kanazawa, Japan) (Poster).

Shinji Mima, Yuki Imakura, Izumi Ogura, Chihaya Kakinuma, Tomoki Kabeya, Takahiro Iwao, Tamihide Matsunaga, Tadanori Yamada, Takeshi Yamamoto

Characteristics of human small intestinal epithelial cells derived from induced pluripotent stem cells.

2018 International Meeting on 22nd MDO and 33rd JSSX, Oct. 1–5, 2018 (Kanazawa, Japan) (Poster).

Yoko Sakai, Takahiro Iwao, Takeshi Susukida, Akinori Takemura, Takumi Nukaga, Shunichi Sekine, Kousei Ito, Tamihide Matsunaga

In vitro cholestatic drug-induced liver injury evaluation system using human iPS cell-derived hepatocytes.

2018 International Meeting on 22nd MDO and 33rd JSSX, Oct. 1–5, 2018 (Kanazawa, Japan) (Poster and Oral).

Shimeng Qiu, Tomoki Kabeya, Takahiro Iwao, Tamihide Matsunaga

Effects of high-molecule compounds on differentiation to enterocytes derived from human induced pluripotent stem cells.

2018 International Meeting on 22nd MDO and 33rd JSSX, Oct. 1–5, 2018 (Kanazawa, Japan) (Poster).

Yamashita Misaki, Aoki Hiromasa, Hashita Tadahiro, Iwao Takahiro, Matsunaga Tamihide

Development of a novel blood brain barrier model derived from human iPSCs.

2018 International Meeting on 22nd MDO and 33rd JSSX, October. 2 (2018), (Kanazawa, Japan) (Poster).

松永民秀【招待講演】

企業との連携による MPS 用デバイスと細胞の創出.

CBI 学会 2018 年大会 (情報計算法学生物学会), 2018 年 10 月 10 日 (東京) .

菊池千草

大学での服薬アドヒアランスの実習.

第 7 回日本くすりと糖尿病学会学術集会, 2018 年 10 月 15 日 (名古屋) .

菊池千草, 三好真琴, 関谷 茜, 瀬浪孟明, 鈴木 匡
生活リズムと糖尿病患者の服薬アドヒアランスは関連する.
第7回日本くすりと糖尿病学会学術集会, 2018年10月15日(名古屋).

松永民秀【招待講演】
新規創薬研究支援材料として期待されるヒト iPS 細胞研究の未来.
株式会社リプロセル 企業様向け実用化勉強会, 2018年10月31日(東京).

鈴木 匡【招待講演】
健康サポート薬局による地域貢献を考える.
第12回日本薬局学会学術大会, 2018年11月3日(名古屋).

松永民秀【招待講演】
FCeM[®]シリーズを用いた iPS 細胞からの小腸細胞への分化誘導.
第4回FCeM研究会, 2018年11月9日(東京).

松永民秀【招待講演】
腸管の再生医療及び創薬研究支援材料として期待されるヒト iPS 細胞.
第六回 臨床研究研修 「薬物動態編」, 2018年11月13日(松本).

岩尾岳洋【受賞講演】
薬物動態および毒性評価系としての利用に向けたヒトiPS細胞由来腸管細胞の作製.
第11回臨床薬理研究振興財団研究報告会, 2018年11月20日(東京).

山口京子, 鈴木匡, 小嶋雅代, 浅井治行, 大竹芳房, 中尾理香, 永田隼也, 堀場亜佐子, 松波晋平, 菊池千草
薬局で行う継続的なロコモ予防活動の実践検証.
第28回日本医療薬学会年会, 2018年11月24日(兵庫県).

外山智視, 中西杏菜, 奥村啓樹, 坂下真大, 岩尾岳洋, 松永民秀
炎症性腸疾患モデルマウスに対するヒト iPS 細胞由来腸管幹細胞移植の治療効果.
第41回日本分子生物学会年会, 2018年11月28-30日(横浜).

松永民秀【招待講演】
ヒト iPS 細胞を用いた小腸モデルの構築とその利用について.
再生医療関連技術を活用した動物実験代替法 第6回検討会「臓器モデルの現状と今後」, 2018年
12月14日(大阪).

5 科学研究費等補助金

科学研究費

研究種目	研究課題/ 領域番号	研究代表者	職名 (採択時)	期間開始日	期間終了日	30年度 配分額(円)	研究課題名
新学術領域研究 (研究領域提案 型)	17H05537	山村 壽男	教授	20170401	20190331	2,730,000	ミトフュージンを中核とした細胞内酸素およびカルシウム制御機構の解明
新学術領域研究 (研究領域提案 型)	17H05890	矢木 宏和	講師	20170401	20190331	6,500,000	アッセンブリーシャペロンが関わるプロテアソームの動的成熟過程の活写
基盤研究(A)	15H02491	加藤 晃一	教授	20150401	20190331	11,570,000	多元的構造生物学アプローチによるプロテアソーム形成機構の解明と創薬への展開
基盤研究(B)	16H05103	中川 秀彦	教授	20160401	20190331	5,850,000	新規ケージドNO化合物等の反応性拡張と生体応用
基盤研究(B)	16H05460	大澤 匡弘	准教授	20160401	20190331	5,070,000	疼痛認知における体性感覚と情動反応の分離に着眼した慢性疼痛治療法の開発
基盤研究(B)	17H03635	星野 真一	教授	20170401	20210331	4,160,000	細胞質ポリA鎖伸長による新しい遺伝子発現制御機構の解明
基盤研究(B)	17H03985	服部 光治	教授	20170401	20200331	5,850,000	脳の形成と機能に重要な分泌タンパク質リーリンの機能解明と、その創薬への応用研究
基盤研究(B)	17H04000	樋口 恒彦	教授	20170401	20200331	3,510,000	生理的条件下で効率よく機能する化学発光型センサー分子の開発
基盤研究(B)	18H02481	糸 和彦	教授	20180401	20210331	7,410,000	ショウジョウバエの睡眠覚醒制御機構の総合的研究
基盤研究(B)	18H02564	平嶋 尚英	教授	20180401	20210331	2,210,000	分泌細胞における新しいカルシウムストアとCa ²⁺ 放出の誘導機構
基盤研究(C)	KK16K08171	山越 博幸	助教	20160401	20190331	1,430,000	抗腫瘍性サポニン・シラシロシドE-1の全合成研究
基盤研究(C)	KK16K08278	山村 壽男	教授	20160401	20190331	1,430,000	門脈圧亢進症に関与するTMEM16チャネルの発現および機能解析
基盤研究(C)	KK16K08297	寺坂 和祥	講師	20160401	20190331	910,000	基質特異性と配列相同性の相関による機能未知二次代謝糖転移酵素の同定と応用
基盤研究(C)	KK16K08298	牧野 利明	教授	20160401	20190331	1,430,000	神経障害性疼痛に対する加工グシンの緩和作用とその有効成分の作用メカニズム
基盤研究(C)	KK16K08345	伊藤 佐生智	准教授	20160401	20190331	1,560,000	黄色ブドウ球菌毒素SSLファミリーの病原性における役割の解明と創薬への応用
基盤研究(C)	KK16K08744	田中 正彦	准教授	20160401	20190331	1,300,000	小腸の機能制御と恒常性維持における腸管グリア細胞とカルシニューリンの役割
基盤研究(C)	KK16K10101	青山 峰芳	教授	20160401	20190331	1,430,000	新生児期虚血低酸素時の脳内エリスロポエチンによるミクログリア活性化制御脳保護効果
基盤研究(C)	KK16K10900	朝霧 成挙	准教授	20160401	20200331	1,170,000	炎症性破骨細胞における特異的活性化システムの理解に立脚した骨破壊防御法の探求
基盤研究(C)	KK17K04990	山中 淳平	教授	20170401	20200331	1,170,000	粒子間摩擦力の制御による対称性に優れた正四面体型荷電コロイド粒子会合体の構築
基盤研究(C)	KK17K08215	中村 精一	教授	20170401	20200331	1,560,000	イソベンゾフランの新規発生法を活用する生物活性天然物合成
基盤研究(C)	KK17K08280	築地 仁美	講師	20170401	20200331	1,690,000	抑制性介在ニューロン変性の前頭側頭葉変性症発症における重要性の解明

研究種目	研究課題/ 領域番号	研究代表者	職名 (採択時)	期間開始日	期間終了日	30年度 配分額(円)	研究課題名
基盤研究(C)	KK17K08281	河野 孝夫	講師	20170401	20200331	1,430,000	巨大分泌蛋白質リリーのシグナル活性機構と、その精神神経疾患における重要性の解明
基盤研究(C)	KK17K08306	日比 陽子	准教授	20180401	20200331	1,560,000	ストレス感受性転写因子NPAS4を標的とした神経精神疾患治療薬の開発
基盤研究(C)	KK17K08389	肥田 重明	教授	20170401	20200331	1,950,000	常在細菌による免疫制御ネットワークの解明
基盤研究(C)	KK17K08421	岩尾 岳洋	准教授	20170401	20200331	1,430,000	薬物動態および相互作用の新規予測系としてのヒトiPS細胞由来腸管上皮細胞の応用
基盤研究(C)	KK17K08422	坂下 真大	准教授	20170401	20200331	1,560,000	新規ヒトiPS細胞由来血管内皮前駆細胞を用いた血液脳関門モデルの構築
基盤研究(C)	KK17K08456	尾関 哲也	教授	20170401	20200331	1,820,000	機能性吸入DDS製剤のone step調製を可能にするスプレードライ技術の研究
基盤研究(C)	KK17K08571	富田 淳	講師	20170401	20200331	1,690,000	ショウジョウバエとマウスで共通するNMDA受容体による睡眠制御機構の解明
基盤研究(C)	KK18K03568	奥菌 透	准教授	20180401	20210331	2,080,000	表面化学反応を伴った等方的な荷電コロイド粒子の自己電気泳動メカニズムの探求
基盤研究(C)	KK18K05063	豊玉 彰子	講師	20180401	20210331	2,730,000	引力系コロイドの原子系結晶モデルとしての有効性の検証
基盤研究(C)	KK18K06551	久松 洋介	講師	20180401	20210331	1,820,000	超分子化学的手法を用いたヘム高親和性合成分子の創製とケミカルバイオロジーへの展開
基盤研究(C)	KK18K06660	井上 靖道	准教授	20180401	20210331	1,560,000	上皮間葉転換を制御する新規脱ユビキチン化酵素の同定とがん治療への応用
基盤研究(C)	KK18K06754	菊池 千草	講師	20180401	20210331	1,690,000	薬局でのロコモティブシンドローム予防活動の健康増進効果検証
基盤研究(C)	KK18K06789	頭金 正博	教授	20180401	20210331	1,560,000	ナショナルレセプトデータベースを用いる新規2型糖尿病治療薬の有効性と安全性の評価
基盤研究(C)	KK18K06962	中津海 洋一	助教	20180401	20210331	1,300,000	栄養と炎症を直結するシグナル伝達経路の糖尿病への関与の解明
基盤研究(C)	KK18K07453	太田 美里	研究員	20180401	20210331	1,430,000	生薬の修治一蜜炙法による免疫賦活作用発現の分子機構の解明
基盤研究(C)	KK18K11026	加藤 順子	研究員	20180401	20210331	2,860,000	性機能と心血管機能に着目した『低インスリンダイエット』による突然死の原因解明
挑戦的研究(萌芽)	KK17K19357	星野 真一	教授	20170401	20190331	3,380,000	mRNA医薬を成功に導くmRNA安定化技術の開発
挑戦的研究(萌芽)	KK17K19500	服部 光治	教授	20170401	20190331	2,730,000	脳神経細胞の膜脂質組成を好転させる方法の開発
挑戦的研究(萌芽)	KK18K19408	樋口 恒彦	教授	20180401	20210331	1,950,000	疎水性短冊形分子の水溶性ナノカプセル封入新手法:蛋白質の動的核偏極NMRへの応用
国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(A))	KK18KK0453	保嶋 智也	講師	20180401	20210331	15,600,000	ビタミンB群のlysosome内蓄積を介した新規生体内プール機構の解明
国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(B))	KK18KK0218	今泉 祐治	教授	20180401	20210331	4,810,000	慢性炎症疾患と組織線維化におけるイオンチャネルの病態生理学的役割

研究種目	研究課題/ 領域番号	研究代表者	職名 (採択時)	期間開始日	期間終了日	30年度 配分額(円)	研究課題名
国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(B))	KK18KK0236	竹内 雄一	研究員	20180401	20220331	4,810,000	難治性てんかんの発作を非侵襲的かつオンデマンドに制御する臨床技術の開発
国際共同研究加速基金(国際共同研究強化)	KK15KK0352	田上 辰秋	講師	20160401	20190331	0	炎症性肺疾患に対する温度応答DDSの基盤技術に関する研究
国際共同研究加速基金(国際共同研究強化)	KK17KK0172	大澤 匡弘	准教授	20180401	20200331	14,430,000	疼痛認知における大脳領域間の機能連関の解明と慢性疼痛治療への応用
若手研究(A)	16H06215	鈴木 良明	助教	20160401	20200331	4,160,000	興奮-転写連関による転写遺伝子の特異的選択機構の解明
若手研究	KK18K14358	川口 充康	助教	20180401	20200331	2,080,000	ENPP1を標的とした分子標的プロドラッグ基盤技術の開発研究
若手研究	KK18K14630	尾上 耕一	助教	20180401	20200331	2,210,000	細胞質ポリ(A)鎖伸長因子CPEBによる多様な遺伝子発現調節の分子基盤
若手研究	KK18K14873	家田 直弥	助教	20180401	20200331	1,950,000	生体での精密制御を志向したPeT型光制御NOドナー群の開発
若手研究	KK18K14953	保嶋 智也	講師	20180401	20200331	2,470,000	生体内における新規チアミンプル機構と癌細胞における増殖能との関連性
若手研究	KK18K14987	安部 賀央里	助教	20180401	20200331	2,470,000	副作用ビッグデータを用いた人工知能による薬物性肝障害予測手法の開発
若手研究	KK18K16742	堀田 祐志	講師	20180401	20200331	2,600,000	4次元制御可能なNOドナー「NO-Rosa」の軟膏製剤化とED治療への応用
若手研究(B)	KK17K15467	石内 勘一郎	講師	20170401	20200331	1,430,000	有用物質生産基盤の確立へ向けた糸状菌における二次代謝発現調節メカニズムの解明
若手研究(B)	KK17K15527	堺 陽子	助教	20180401	20190331	2,080,000	ヒトiPS細胞由来肝細胞を用いたin vitro胆汁うっ滞型肝障害試験法の構築
若手研究(B)	KK16K18952	田上 辰秋	講師	20160401	20190331	1,430,000	光刺激応答性リポソームを用いたがんのセラノスティクスに関する基盤研究
研究活動スタート支援	18H06110	水上 智晴	助教	20180401	20200331	1,560,000	脳の必須高度不飽和脂肪酸量を調節する機構とそれに着目した創薬研究

その他の研究補助金

【助成金等】

補助金等名称	公益財団法人ソルト・サイエンス研究財団
研究課題名	高食塩食に伴う血中アンジオテンシン(1-7)の変動が下部尿路に与える影響
氏名	堀田祐志
金額(千円)	1,000
補助金等名称	大陽日酸株式会社
氏名	加藤晃一
金額(千円)	600
補助金等名称	一般財団法人 東海産業技術振興財団
研究課題名	光応答性NO放出剤と光照射の技術を用いた新たな下部尿路機能障害治療の開発
氏名	堀田祐志
金額(千円)	800
補助金等名称	一般財団法人 東海産業技術振興財団
研究課題名	細菌応答性ナノメディシン開発技術に関する萌芽研究
氏名	田上辰秋
金額(千円)	800
補助金等名称	中村 峰夫 【個人寄附】
研究課題名	「ハスカップの消化管機能改善作用」に関する学術研究奨励のため
氏名	牧野利明
金額(千円)	800
補助金等名称	公益財団法人 東洋医学研究財団
研究課題名	消化管に作用し高尿酸血症への治療効果を示す生薬成分の探索
氏名	保嶋智也
金額(千円)	600
補助金等名称	公益財団法人 東洋医学研究財団
研究課題名	生薬の修治の目的の科学的解明～ジオウについて
氏名	小野孝彦
金額(千円)	700
補助金等名称	大川原化工機株式会社
研究課題名	スプレードライヤーを用いた研究
氏名	尾関哲也
金額(千円)	600
補助金等名称	公益財団法人 愛知県がん研究振興会
研究課題名	シスプラチン投与に伴う腎障害を予測する高感度バイオマーカーの開発
氏名	堀田祐志
金額(千円)	250
補助金等名称	公益財団法人 御器谷科学技術財団
研究課題名	「米国腎臓学会／腎臓週間2018」出席のための助成
氏名	堀田祐志
金額(千円)	100
補助金等名称	公益財団法人 豊秋奨学会
研究課題名	光制御可能なNOドナーを利用した男性性機能障害への治療応用
氏名	堀田祐志
金額(千円)	1,450

補助金等名称	グラクソ・スミスクライン株式会社
研究課題名	4次元制御可能なNO放出剤を用いた間質性膀胱炎治療法の開発
氏名	堀田祐志
金額(千円)	2,000
補助金等名称	中外製薬株式会社
氏名	木村和哲
金額(千円)	100
補助金等名称	公益財団法人持田記念医学薬学振興財団
研究課題名	腸管における尿酸排泄の新規制御機構を標的とした創薬研究
氏名	保嶋智也
金額(千円)	3,000
補助金等名称	公益財団法人 小柳財団
研究課題名	光制御可能なNO放出剤のアンチエイジングへの応用
氏名	堀田祐志
金額(千円)	1,000
補助金等名称	アステラス製薬株式会社
研究課題名	泌尿器疾患領域に関する研究助成のため
氏名	木村和哲
金額(千円)	1,000
補助金等名称	公益財団法人コスモロジー研究振興財団
研究課題名	黄色ブドウ球菌免疫かく乱タンパク質を介したアトピー性疾患発症・増悪機構の解明
氏名	伊藤佐生智
金額(千円)	1,000
補助金等名称	公益財団法人三井住友海上福祉財団
研究課題名	Ca ²⁺ マイクロドメイン構成分子群を標的とした変形性関節症の新規治療法の開発
氏名	鈴木良明
金額(千円)	1,200
補助金等名称	公益財団法人ファイザーヘルスリサーチ振興財団
研究課題名	新規服薬状況確認システムによる高齢者服薬アドヒアランス向上効果
氏名	菊池千草
金額(千円)	1,300
補助金等名称	公益財団法人鈴木謙三記念医科学応用研究財団
研究課題名	TMEM16分子群を標的とした新規肺高血圧症治療薬の開発
氏名	山村壽男
金額(千円)	1,000
補助金等名称	公益財団法人臨床薬理研究振興財団
研究課題名	肺動脈性肺高血圧症の病態形成機構に基づいた新規治療薬の開発
氏名	山村壽男
金額(千円)	2,000
補助金等名称	武田薬品工業株式会社
研究課題名	光応答性NOドナーの勃起不全への応用
氏名	木村和哲
金額(千円)	300

補助金等名称	公益財団法人テルモ生命科学芸術財団
研究課題名	細胞内で活性化するLSD1 阻害ペプチド:ペプチド医薬への展開
氏名	梅澤直樹
金額(千円)	2,000
補助金等名称	塩野義製薬株式会社
氏名	木村和哲
金額(千円)	336
補助金等名称	公益財団法人ライフサイエンス振興財団
研究課題名	オンデマンド経頭蓋脳深部刺激法を用いて難治性てんかんを制御する臨床技術の開発
氏名	竹内雄一
金額(千円)	1,000
補助金等名称	公益財団法人 日立財団
研究課題名	神経細胞膜の脂肪酸組成をターゲットとする、新規精神神経疾患治療法の開発
氏名	服部光治
金額(千円)	1,150
補助金等名称	公益財団法人東京生化学研究会
研究課題名	体外から精密制御可能な光制御NOドナー群の開発
氏名	家田直弥
金額(千円)	1,500
補助金等名称	コニカミノルタ株式会社
研究課題名	生体応用を指向した蛍光応答性人工ヘムレセプターの設計・合成
氏名	久松洋介
金額(千円)	500
補助金等名称	公益財団法人松籟科学技術振興財団
研究課題名	松脂由来化合物群のTMEM16Aチャンネルに対する薬理作用
氏名	山村壽男
金額(千円)	1,000
補助金等名称	公益財団法人薬学研究奨励財団
研究課題名	光線力学療法を指向した超分子光増感剤の創製
氏名	久松洋介
金額(千円)	800
補助金等名称	公益財団法人薬学研究奨励財団
研究課題名	大規模副作用データベースを活用した重症薬疹のin silico予測研究
氏名	安部賀央里
金額(千円)	350
補助金等名称	公益財団法人 中富健康科学振興財団
研究課題名	非細胞製剤「幹細胞濾液」の男性性機能障害への効果と活性成分の同定
氏名	堀田祐志
金額(千円)	1,500
補助金等名称	中村 峰夫② 【個人寄附】
研究課題名	「ハスカップに関する研究」に関する学術研究奨励のため
氏名	牧野利明
金額(千円)	500

補助金等名称 公益財団法人 内藤記念科学振興財団
研究課題名 可視光レドックス触媒を用いたラジカルカスケード反応を基盤とする酸化型テルペノイドの全合成研究
氏名 山越博幸
金額(千円) 6,000

【受託研究等】

補助金等名称 文部科学省 先端研究基盤共用促進事業 新たな共用システム導入支援プログラム
研究課題名 共用機器センター
氏名 林 秀敏(共用機器センター長)
金額(千円) 11,235

補助金等名称 内閣府食品安全委員会事務局 平成30年度食品健康影響評価技術研究(分担)
研究課題名 新規評価支援技術の開発に関する研究～毒性予測に向けたデータベースの活用方法の検討～
氏名 頭金正博
金額(千円) 4,000

補助金等名称 国立研究開発法人日本医療研究開発機構 糖鎖利用による革新的創薬技術開発事業
研究課題名 NMRと計算科学の統合による糖鎖の3次元構造ダイナミクスの体系的評価法の開発
氏名 矢木宏和
金額(千円) 8,800

補助金等名称 国立研究開発法人日本医療研究開発機構 医療品等規制調和・評価研究事業
研究課題名 東アジア地域で国際共同知見を計画する際の留意事項に関する研究
氏名 頭金正博
金額(千円) 4,455

補助金等名称 国立研究開発法人日本医療研究開発機構 再生医療の産業化に向けた評価基盤技術開発事業
研究課題名 生体模倣小腸-肝臓チップ: バイオアベイラビリティ予測と安全性評価in vitroモデルの開発
氏名 松永民秀
金額(千円) 112,590

補助金等名称 国立研究開発法人日本医療研究開発機構 再生医療の産業化に向けた評価基盤技術開発事業
研究課題名 分化制御培養法によるiPS細胞由来血液脳関門モデル細胞の安定的な製造・供給体制の構築
氏名 坂下真大
金額(千円) 14,897

補助金等名称 国立研究開発法人日本医療研究開発機構 医療品等規制調和・評価研究事業
研究課題名 薬剤疫学データベースを用いた医薬品副作用の発現頻度に係る民族差に関する研究
氏名 頭金正博
金額(千円) 450

補助金等名称 国立研究開発法人日本医療研究開発機構 「統合医療」に係る医療の質向上・科学的根拠収集研究事業
研究課題名 甘草の副作用、偽アルドステロン症発症予防のためのバイオマーカーの開発
氏名 牧野利明
金額(千円) 3,620

補助金等名称 国立研究開発法人日本医療研究開発機構 再生医療実用化研究事業
研究課題名 ヒトiPS細胞由来肝細胞を用いた医薬品の肝毒性を予測・評価するin vitro試験法の開発研究
氏名 松永民秀
金額(千円) 2,250

補助金等名称 国立大学法人大阪大学
研究課題名 高度先導的薬剤師の養成とそのグローバルな活躍を推進するアドバンスト教育研究プログラムの共同開発
氏名 鈴木 匡
金額(千円) 4,526

補助金等名称	株式会社ベックス
研究課題名	電気式遺伝子導入装置を用いた遺伝子導入効率に関する基礎的研究(H30.10.31まで)
氏名	井上靖道
金額(千円)	606
補助金等名称	東和薬品株式会社
研究課題名	副作用データベースを利用した医薬品による薬物性肝障害発症リスクの評価
氏名	頭金正博
金額(千円)	1,000
補助金等名称	株式会社MTG
研究課題名	睡眠に関わる商品における研究
氏名	条 和彦
金額(千円)	3,000
補助金等名称	旭化成株式会社
研究課題名	新規な乳化重合粒子のキャラクタリゼーションに関する研究
氏名	山中淳平
金額(千円)	1,000
補助金等名称	公立大学法人静岡県立大学
研究課題名	毒性関連ビッグデータを用いた人工知能による次世代型安全性予測手法の開発
氏名	頭金正博
金額(千円)	2,160
補助金等名称	国立大学法人九州大学
研究課題名	FOXK1によるCCL2発現調節機構を標的としたがん治療法の開発
氏名	白根道子
金額(千円)	5,000
補助金等名称	国立国際医療研究センター国府台病院
研究課題名	個別改良に対応したゲノム編集技術による肝臓内HBVゲノムの完全不活性化を目指した革新的治療法の包括的開発
氏名	星野真一
金額(千円)	14,300
補助金等名称	株式会社ベックス
研究課題名	電気式遺伝子導入装置を用いた遺伝子導入効率に関する基礎的研究(H31.2.1より)
氏名	井上靖道
金額(千円)	1,058
補助金等名称	一般社団法人日本化学工業協会
研究課題名	機序に基づくカーボンナノマテリアルの有害性と発がんリスク評価法の確立
氏名	津田洋幸
金額(千円)	10,000
補助金等名称	日本学術振興会 二国間交流事業
研究課題名	イオン性マイクロゲルの合成と電場及び科学場による一方向的な自己集合の研究
氏名	山中淳平
金額(千円)	980
補助金等名称	国立研究開発法人日本医療研究開発機構 肝炎等克服実用化研究事業事業(B型肝炎創薬実用化等研究事業)
研究課題名	実用化に向けたB型肝炎新規治療薬の探索及び最適化
氏名	松永民秀
金額(千円)	4,000

【名古屋市立大学特別研究奨励費】

種別	科学研究費獲得活性化事業
研究課題名	ヒトiPS細胞由来小腸細胞・組織を用いた薬物動態及び毒性予測モデル系の構築
氏名	松永民秀
金額(千円)	975
種別	科学研究費獲得活性化事業
研究課題名	小腸における新規尿酸トランスポーターの関与によるヒト特異的な尿酸動態の解明
氏名	湯浅博昭
金額(千円)	450
種別	科学研究費獲得活性化事業
研究課題名	神経特異的マイクロブライシングの制御システムの解明
氏名	白根道子
金額(千円)	450
種別	科学研究費獲得活性化事業
研究課題名	細胞膜を透過するペプチドの開発とLSD1阻害ペプチドへの応用
氏名	梅澤直樹
金額(千円)	975
種別	科学研究費獲得活性化事業
研究課題名	タンパク質の糖鎖修飾の特異性を決定する分子機構の解明と応用
氏名	佐藤匡史
金額(千円)	975
種別	科学研究費獲得活性化事業
研究課題名	糖転移酵素の局在と基質タンパク質の選別輸送による糖鎖修飾プログラムの解明
氏名	矢木宏和
金額(千円)	450
種別	科学研究費獲得活性化事業
研究課題名	異常mRNAを選択的かつ速やかな分解へと導く新規マシーナリーの解明
氏名	細田直
金額(千円)	500
種別	科学研究費獲得活性化事業
研究課題名	小児領域の抗菌薬適正使用支援のための評価管理プログラムの開発と臨床実用化
氏名	和知野 千春
金額(千円)	500
種別	科学研究費獲得活性化事業
研究課題名	小腸におけるビタミンB6吸収機構の解明
氏名	山城貴弘
金額(千円)	500
種別	国の競争的資金獲得活性化事業
研究課題名	精神疾患の治療を志向した、リーリン分解酵素阻害剤の開発
氏名	服部光治
金額(千円)	3,160
種別	国の競争的資金獲得活性化事業
研究課題名	治療標的としてのニッチ細胞に着目した自己免疫疾患治療および腫瘍免疫賦活化療法
氏名	青山峰芳
金額(千円)	630

種別	国の競争的資金獲得活性化事業
研究課題名	高周期典型元素低配位化合物による小分子活性化反応
氏名	樋口恒彦
金額(千円)	750
種別	国の競争的資金獲得活性化事業
研究課題名	RNA結合蛋白質群TDP-43、FUS、Ataxin2の異常により引き起こされる神経変性疾患の発症機構解明と治療法開発
氏名	築地仁美
金額(千円)	1,000
種別	国の競争的資金獲得活性化事業
研究課題名	金微粒子コロイド結晶を用いた表面プラズモン増強基盤の開発
氏名	豊玉彰子
金額(千円)	1,000
種別	国の競争的資金獲得活性化事業
研究課題名	オピオイド受容体に作用するアルカロイド誘導体の創製
氏名	山越博幸
金額(千円)	1,000
種別	国の競争的資金獲得活性化事業
研究課題名	光で制御できる化合物を用いた神経再生機構の解明
氏名	中川秀彦
金額(千円)	840
種別	国の競争的資金獲得活性化事業
研究課題名	血液がんを標的とした分子標的薬による有効性と安全性のバイオマーカーの確立と個別化医療を目指した研究
氏名	頭金正博
金額(千円)	1,800
種別	国の競争的資金獲得活性化事業
研究課題名	RNA医薬安定化技術の開発とその臨床応用
氏名	星野真一
金額(千円)	300
種別	国の競争的資金獲得活性化事業
研究課題名	RNA医薬安定化技術の開発とその臨床応用
氏名	星野真一
金額(千円)	300
種別	地域貢献型共同研究等推進事業
研究課題名	服薬状況把握ツールを用いた地域医療連携システムの構築
氏名	菊池千草
金額(千円)	100
種別	論文発表活性化事業
研究課題名	脳の形成に関わる分子メカニズムの解明
氏名	河野孝夫
金額(千円)	25
種別	論文発表活性化事業
研究課題名	脳の形成に関わる分子メカニズムの解明
氏名	服部光治
金額(千円)	25

種別	論文発表活性化事業
研究課題名	糖タンパク質糖鎖の構造機能解析
氏名	矢木宏和
金額(千円)	50
種別	国際交流の推進事業
研究課題名	マネジメント科学大学と香港大学への表敬訪問
氏名	尾関哲也
金額(千円)	300
種別	国際交流の推進事業
研究課題名	中国薬科大学を会場にした「南京・瀋陽・名古屋シンポジウム」の共催
氏名	牧野利明
金額(千円)	300
種別	国際交流の推進事業
研究課題名	軟骨イオンチャネルの病態生理機能に関する国際共同研究とそれに関連した大学院講義およびセミナー
氏名	山村寿男
金額(千円)	300
種別	国際交流の推進事業
研究課題名	韓国・梨花女子大学薬学大学との学部間学術交流
氏名	平嶋尚英
金額(千円)	300

6 新聞報道等

(2018年1月から2018年12月)

【新聞報道】

加藤晃一

「クローズアップ科学」金井飛行士、宇宙から特別寄稿「人体の無重力への調整力に驚き」
産経ニュース 平成 30 年 1 月 28 日

加藤晃一

特集 Science 宇宙で挑む 金井さんの滞在報告
産経新聞 平成 30 年 1 月 29 日

松永民秀

「知る「臓器チップ」開発加速」
読売新聞 朝刊／関西・中四国 2018 年 2 月 15 日

牧野利明

そもそも漢方って？
女性なごや 2018 年 2 月 20 日

鈴木匡

「血液測定で生活習慣病を予防する」
中部経済新聞 2018 年 3 月 13 日

加藤晃一

バイオ医薬品を、みる・よむ・つくる
薬事日報 第 11995 号 平成 30 年 3 月 19 日

矢木真穂

NMR 分光法を基軸としたタンパク質の構造ダイナミクスと分子集合メカニズムの解明
薬事日報 第 11995 号 平成 30 年 3 月 19 日

加藤晃一

分野横断「生とは何」迫る～岡崎に新設 生命創成探究センター長に聞く
中日新聞 平成 30 年 4 月 16 日

喜多泰之、白根道子、西山正章、中山敬一

「肥満治療法開発に弾み」
北國新聞 平成 30 年 5 月 16 日

喜多泰之、白根道子、西山正章、中山敬一

「自閉症の遺伝子 脂肪蓄積にも役割」
朝日新聞 平成 30 年 5 月 16 日

喜多泰之、白根道子、西山正章、中山敬一

「遺伝子除去で肥満抑制」
中日新聞 平成 30 年 5 月 19 日

加藤晃一

「生命とは」連携し研究 自然科学機構 岡崎でセンター開所式
中日新聞 平成 30 年 5 月 29 日

加藤晃一
生命の成り立ち 研究機関開所式
毎日新聞 平成 30 年 5 月 30 日

木村和哲
「健康長寿への処方箋 かかりつけ薬局を持とう」
ローズ 6月号 2018年6月

頭金正博
「有効性と安全性を評価するレギュラトリーサイエンス」
中部経済新聞 平成 30 年 7 月 10 日

山中淳平
「コロイド粒子の会合・凝集 名古屋市立大、ISS で実験」
日刊工業新聞 2018年8月22日

木村和哲
「夏休み 子どもたち学ぶ ー薬剤師の仕事 名市大で体験ー」
中日新聞 2018年8月22日

山中淳平
「先端人 - 光操る微小粒子を研究」
朝日新聞東海版 2018年9月2日

山中淳平
「コロイド粒子会合実験 ISS で来年予定」
科学新聞 2018年9月7日

牧野利明
ハチミツを加熱加工すると、免疫賦活作用が出現する
テック・アイ技術情報研究所 2018年9月14日 <https://tiisys.com/blog/2018/09/21/post-12976/>

牧野利明
ハチミツの加熱処理 細菌感染が予防できる可能性
NEWSSALT 2018年9月19日 <https://www.newssalt.com/27015>

牧野利明
加熱したハチミツの免疫賦活作用を発見 名古屋市立大学など
大学ジャーナル 2018年9月20日 <https://univ-journal.jp/22808/>

牧野利明
加熱したハチミツの免疫賦活作用を発見 名古屋市立大学など
BioImpact 2018年9月20日 <https://bioimpact.jp/news/detail/559525>

牧野利明
加熱したハチミツの免疫賦活作用を発見 名古屋市立大学など
アンドラ 2018年9月21日 <http://andla.jp/wp/?p=7653>

牧野利明
ハチミツ 加熱すると病原菌感染を予防できる「人食いバクテリア」にも...

ハザードラボ 2018年9月28日 <https://www.hazardlab.jp/know/topics/detail/2/6/26670.html>

鈴木匡

「新実務実習、本実施への課題」

薬事日報 2018年10月31日

牧野利明

ハチミツ加熱で免疫アップ 名市大など研究 180度で1時間、効果物質5倍

中日新聞 2018年11月7日 <http://opi-rina.chunichi.co.jp/topic/20181107-3.html>

中村精一

「天然物化学を医薬品開発に～新しい合成手法で天然物創薬を目指す」

中部経済新聞 平成30年11月13日

星野真一

「『mRNA』B型肝炎創薬期待」

中日新聞 平成30年11月20日

星野真一

「mRNA 名古屋市立大が安定化技術」

日刊工業新聞 平成30年11月28日

星野真一

「夢の新薬『mRNA 医薬』実現へ一歩」

科学新聞 平成30年11月30日

大澤匡弘

「神経障害性疼痛発症するとグリア細胞が乳酸過剰産生」

科学新聞 平成30年12月7日

大澤匡弘

「神経痛乳酸量関与」

中日新聞 平成30年12月7日

大澤匡弘

「神経障害性疼痛時に痛みを感じやすくなるメカニズム」

日刊工業新聞 平成30年12月13日

【受賞】

Rina Yogo, Saeko Yanaka, Hirokazu Yagi, Rintaro Inoue, Masaaki Sugiyama, Koichi Kato
Analyses of IgG-Fc and Fc receptor interaction using nuclear magnetic resonance and small-angle neutron scattering

新学術領域研究「動的秩序と機能」第6回国際シンポジウム 優秀ポスター賞 2018年1月20日

今泉祐治

「疾患治療標的および創薬標的としてのイオンチャネル分子機能解明」

平成30年度日本薬学会賞 2018年3月25日

矢木真穂

「NMR分光法を基軸としたタンパク質の構造ダイナミクスと分子集合メカニズムの解明」

平成30年度日本薬学会奨励賞 2018年3月25日

斎藤彩有里

日本化学会東海支部長賞 平成30年3月26日

中津川瑛美

「フタラン誘導体を用いる酸化/分子間 Diels-Alder 連続反応の開発」

日本薬学会第138年会学生優秀発表賞（ポスター発表の部） 平成30年3月27日

斎藤彩有里

「カドコッシラクトン A の合成研究」

日本薬学会第138年会学生優秀発表賞（ポスター発表の部） 平成30年3月28日

Taiki Saito, Hirokazu Yagi, Shingo Tsuge, Chu-Wei Kuo, Kay-Hooi Khoo, Koichi Kato
FUT9-dependent Lewis X modification is mediated through the specific amino acid sequence of LAMP-1
ExCELLS Young Scientists Forum 2018 Poster Presentation Award 2018年7月10日

小林里帆ら

「SIK3による睡眠・概日リズムの調節機構

Functional analysis of Drosophila Sik3, a homologue of mouse Sleepy1 gene」

第41回日本神経科学大会ジュニア研究者ポスター賞 平成30年7月26日

平澤明日香、三田村美秋、牧靖人、石内勘一郎、森永紀、保嶋智也、湯浅博昭、牧野利明
甘草の副作用、偽アルドステロン症の真の原因物質の探索（第3報）

第35回和漢医薬学会学術大会優秀発表賞 2018年9月1日 岐阜

本田怜奈、矢木真穂、矢木宏和、青木一洋、加藤晃一

「エリスロポエチンをモデルとした糖鎖修飾の制御機構の解明」

糖鎖科学中部拠点 第15回「若手のカフォーラム」糖鎖科学中部拠点奨励賞 2018年9月6日

佐藤結

「Structure Formation in Binary Eutectic Colloids」

第69回コロイドおよび界面化学討論会ポスター賞 2018年9月19日

矢木宏和

「タンパク質の糖鎖修飾の特異性を決定する分子メカニズムの解明」

平成30年度日本生化学会奨励賞 2018年9月26日

Toru Takenaka, Kanako Kazuki, Naomoto Harada, Jiro Kuze, Masato Chiba, Takahiro Iwao, Tamihide Matsunaga, Satoshi Abe, Mitsuo Oshimura, Yasuhiro Kazuki
"Development of Caco-2 cells co-expressing CYP3A4 and NADPH-cytochrome P450 reductase using a human artificial chromosome for the prediction of intestinal extraction ratio of CYP3A4 substrates.
Drug Metab. Pharmacokinet., **32**, 61–68 (2017)."
DMPK Editors' Award for the Most Excellent Article in 2017, 2nd Place (2018年10月1日受賞)

石内勘一郎

植物由来有用二次代謝産物を生産する内生糸状菌の探索

平成30年度日本薬学会生薬天然物部会奨励研究賞 2018年10月7日 熊本

小藤加奈, 矢木宏和, 加藤晃一

「無細胞発現系を利用した甘味受容体の大量発現系の構築」

日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部合同学術大会 2018 ベストプレゼン賞
2018年11月4日

岩尾岳洋

「薬物動態および毒性評価系としての利用に向けたヒト iPS 細胞由来腸管細胞の作製」

第11回(平成30年度)臨床薬理研究振興財団 研究大賞 平成30年11月20日

Kan'ichiro Ishiuchi, Osamu Morinaga, Takeshi Ohkita, Chuanting Tian, Asuka Hirasawa, Miaki Mitamura, Yasuhito Maki, Tomoya Yasujima, Hiroaki Yuasa, Takao Namiki, Kiyoshi Minamizawa, Toshiaki Makino
18 β -glycyrrhetyl-3-O-sulfate would be a causative agent in licorice-induced pseudoaldosteronism
The 19th International Congress of Oriental Medicine Poster Awarded 2018年11月25日 台北

Xin Xu, Misato Ota, Yoshiaki Tabuchi, Shao-Qing Cai, Toshiaki Makino

Mechanisms of honey-processing (蜜炙) in traditional Chinese medicine: Its inducible effects on G-CSF secretion from cultured intestinal cells

The 19th International Congress of Oriental Medicine Poster Awarded 2018年11月25日 台北

Toshiyuki Atsumi, Yumi Yokoyama, Takami Yokogawa, Toshiaki Makino, Isao Ohtsuka

Effects of crushed Schisandra Fruit on the content of lignans in Kampo decoction

The 19th International Congress of Oriental Medicine Poster Awarded 2018年11月25日 台北

7 進路および就職状況

区分	卒業者	就職希望者 (有職者・自 営業含む)	就職決定者 (有職者・自 営業含む)	就職地域別 就職先業種別	市内	県内	岐阜	三重	東京	大阪	その他	計	就職 未決定者	進学・その他					
大 学 院 前 期	43 (13)	25 (7)	25 (7)	A 農業・林業	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	アルバイト・パート	0 (0)				
				B 漁業	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		0 (0)	0 (0)	大学院進学	16 (5)		
				C 鉱業	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		0 (0)	0 (0)	海外の大学・大学院進学	0 (0)		
				D 建設業	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		0 (0)	0 (0)	専門学校進学	0 (0)		
				E 製 造 業	1 食料品・飲料・たばこ・飼料	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		0 (0)	1 (0)	0 (0)	1 (0)	国家資格等試験準備	0 (0)
					2 繊維工業	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	公務員試験準備	0 (0)
					3 印刷・同関連産業	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	その他(進路未定を含む)	2 (1)
					4 化学工業・石油・石炭製品	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	13 (4)	2 (1)	1 (1)		17 (6)				計	18 (6)
					5 鉄鋼業・非鉄金属・金属製品	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	※別途、人数を集計してください	
					6 汎用・生産用業務器具	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)		1 (0)				既の有職者(現職継続)	0 (0)
					7 電子部品・デバイス	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	自営	0 (0)
					8 電気・情報通信機械器具	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
					9 輸送用機械器具	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
					10 その他の製造業	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		0 (0)	1 (0)				
				F 電気・ガス・熱供給・水道業	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		0 (0)	0 (0)	0 (0)			
				G 情報通信業	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)		1 (1)					
				H 運輸業・郵便業	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		0 (0)	0 (0)	0 (0)			
				I-1卸売業	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)		2 (0)					
				I-2小売業	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		0 (0)	0 (0)	0 (0)			
				J-1金融業	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		0 (0)	0 (0)	0 (0)			
				J-2保険業	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		0 (0)	0 (0)	0 (0)			
				K-1不動産取引・賃貸・管理業	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		0 (0)	0 (0)	0 (0)			
				K-2物品賃貸業	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		0 (0)	0 (0)	0 (0)			
				L-1学術・開発研究機関	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		0 (0)	0 (0)	0 (0)			
				L-2法務	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		0 (0)	0 (0)	0 (0)			
				L-3その他専門・技術サービス	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		0 (0)	0 (0)	0 (0)			
				M 宿泊業・飲食サービス業	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		0 (0)	0 (0)	0 (0)			
				N 生活関連サービス業・娯楽業	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		0 (0)	0 (0)	0 (0)			
				O-1学校教育	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		0 (0)	0 (0)	0 (0)			
				O-2その他の教育・学習支援業	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		0 (0)	0 (0)	0 (0)			
				P-1医療業・保健衛生	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)		1 (0)					
				P-2社会保険・社会福祉・介護事業	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		0 (0)	0 (0)	0 (0)			
				Q 複合サービス事業	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		0 (0)	0 (0)	0 (0)			
				R-1宗教	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		0 (0)	0 (0)	0 (0)			
R-2サービス業(その他)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)										
S-1国家公務	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)								
S-2地方公務	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)								
計	2 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	18 (5)	3 (1)	1 (1)	25 (7)											
全体の地域別割合	8.0%	0.0%	4.0%	0.0%	72.0%	12.0%	4.0%	100.0%											
女子の地域別割合	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(71.4%)	(14.3%)	(14.3%)	(100.0%)											

() は女子で内数

区分	卒業者	就職希望者 (有職者・自 営業含む)	就職決定者 (有職者・自 営業含む)	就職地域別 就職先業種別	市内	県内	岐阜	三重	東京	大阪	その他	計	就職 未決定者	進学・その他					
大 学 院 博 士 後 期	16 (3)	14 (3)	14 (3)	A 農業・林業	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	アルバイト・パート	0 (0)				
				B 漁業	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		0 (0)	大学院進学	0 (0)			
				C 鉱業	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		0 (0)	海外の大学・大学院進学	0 (0)			
				D 建設業	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		0 (0)	0 (0)	専門学校進学	0 (0)		
				製 造 業	E 1 食料品・飲料・たばこ・飼料	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	国家資格等試験準備	0 (0)
					E 2 繊維工業	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	公務員試験準備	0 (0)
					E 3 印刷・同関連産業	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	その他(進路未定を含む)	2 (0)
					E 4 化学工業・石油・石炭製品	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	5 (0)	0 (0)		0 (0)	0 (0)	5 (0)		計	2 (0)
					E 5 鉄鋼業・非鉄金属・金属製品	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		0 (0)	0 (0)	0 (0)		※別途、人数を集計してください	
					E 6 汎用・生産用業務器具	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		0 (0)	0 (0)	0 (0)		既の有職者(現職継続)	2 (0)
					E 7 電子部品・デバイス	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		0 (0)	0 (0)	0 (0)		自営	0 (0)
					E 8 電気・情報通信機械器具	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		0 (0)	0 (0)	0 (0)			
					E 9 輸送用機械器具	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		0 (0)	0 (0)	0 (0)			
					E 10 その他の製造業	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		0 (0)	0 (0)	0 (0)			
				F 電気・ガス・熱供給・水道業	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		0 (0)	0 (0)				
				G 情報通信業	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		0 (0)	0 (0)				
				H 運輸業・郵便業	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		0 (0)	0 (0)				
				I-1卸売業	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		0 (0)	0 (0)				
				I-2小売業	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		0 (0)	0 (0)				
				J-1金融業	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		0 (0)	0 (0)				
				J-2保険業	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		0 (0)	0 (0)				
				K-1不動産取引・賃貸・管理業	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		0 (0)	0 (0)				
				K-2物品賃貸業	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		0 (0)	0 (0)				
				L-1学術・開発研究機関	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		0 (0)	0 (0)				
				L-2法務	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		0 (0)	0 (0)				
				L-3その他専門・技術サービス	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		0 (0)	0 (0)				
				M 宿泊業・飲食サービス業	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		0 (0)	0 (0)				
				N 生活関連サービス業・娯楽業	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		0 (0)	0 (0)				
				O-1学校教育	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		0 (0)	1 (0)	1 (0)			
				O-2その他の教育・学習支援業	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		0 (0)	0 (0)	0 (0)			
				P-1医療業・保健衛生	2 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		1 (0)	3 (0)				
				P-2社会保険・社会福祉・介護事業	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		0 (0)	0 (0)	0 (0)			
				Q 複合サービス事業	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		0 (0)	0 (0)	0 (0)			
				R-1宗教	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		0 (0)	0 (0)	0 (0)			
R-2サービス業(その他)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	2 (1)	3 (2)										
S-1国家公務	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)									
S-2地方公務	1 (1)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (1)	2 (1)									
計	3 (1)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	6 (1)	0 (0)	4 (1)	14 (3)										
全体の地域別割合	21.4%	7.1%	0.0%	0.0%	42.9%	0.0%	28.6%	100.0%											
女子の地域別割合	(33.3%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(33.3%)	(0.0%)	(33.3%)	(100.0%)											

() は女子で内数

8 在籍者名簿

名古屋市立大学院薬学研究科（薬学部）所属教員一覧

(平成30年4月現在)

講座	分野	教授	准教授	講師	助教
医薬化学	薬化学	中川 秀彦			家田 直弥 川口 充康
	精密有機反応学	樋口 恒彦	梅澤 直樹	久松 洋介	
	薬品合成化学	中村 精一	近藤 和弘		山越 博幸
	機能分子構造学		池田 慎一		
生命分子薬学	生体超分子システム解析学	平嶋 尚英	田中 正彦		
	コロイド・高分子物性学	山中 淳平	奥菌 透	豊玉 彰子	
	生命分子構造学	加藤 晃一 (兼任)	佐藤 匡史	矢木 宏和	
	分子生物薬学	白根 道子			喜多 泰之 中津海洋一
	薬物送達学	尾関 哲也		田上 辰秋	
	マイクロRNAゲノム創薬学		藤井 陽一		
医療分子機能薬学	生薬学	牧野 利明		寺坂 和祥	石内勘一郎
	衛生化学	肥田 重明	伊藤佐生智		
	遺伝情報学	星野 真一		細田 直	尾上 耕一
	細胞分子薬効解析学	山村 壽男		鈴木 良明	
	病態生化学	服部 光治		築地 仁美 河野 孝夫	
医療薬学	薬物動態制御学	湯浅 博昭		保嶋 智也	山城 貴弘
	病態解析学	青山 峰芳	朝霧 成挙	岩城壮一郎	
	細胞情報学	林 秀敏	井上 靖道		
	神経薬理学	条 和彦	大澤 匡弘	富田 淳	
	レギュラトリーサイエンス	頭金 正博			(特任助教) 安部賀央里
	病院薬剤学	木村 和哲 (兼務)	日比 陽子 (兼務)	前田 康博 堀田 祐志 西出 景子 (兼務)	(特任助教) 高梨 馨太 (特任助教) 須藤 遥 (特任助教) 和知野千春
	臨床薬学	松永 民秀 鈴木 匡	岩尾 岳洋	菊池 千草 坂下 真大	(特任助教) 堺 陽子
附属研究所 創薬基盤科学研究所				(特任助教) 水上 智晴	
連携大学院	腫瘍制御学 (県がんセンター研究所)	青木 正博 <small>客員教授</small> 小根山千歳 <small>客員教授</small>	藤下 晃章 <small>客員准教授</small>		
	加齢病態制御学 (国立長寿医療センター研究所)		木村 展之 <small>客員准教授</small> 飯島 浩一 <small>客員准教授</small>		
	医薬品質保証学 (国立医薬品食品衛生研究所)	佐藤 陽治 <small>客員教授</small>			
	生体システム制御学分野 (自然科学研究機構)	西田 基宏 <small>客員教授</small>	椎名 伸之 <small>客員准教授</small>		
	医薬品医療機器審査科学 (医薬品医療機器総合機構)	柴辻 正喜 <small>客員教授</small>			

平成30年度大学院生名簿

平成30年10月1日現在

専攻	講座	分野	学年	博士前期課程		博士後期課程			博士課程				非正規生
				1年	2年	1年	2年	3年	1年	2年	3年	4年	
創薬生命科学	医薬化学	薬化学	伊藤 聖人 菰田 潮 齋藤 大介 本部 竜馬	関本 英里子 山内 彩樺 山田 輝		太田 悠平							MERVE ARI (国費)
		精密有機反応学	北川 宙輝	寺前 将太									
		薬品合成化学	伊藤 翼 大迫 将弥 齋藤 彩有里	長野 秀嗣 山内 裕貴									
		機能分子構造学	岡田 朋美									坂崎 美香	
	生命分子薬学	生体超分子システム解析学	丹羽 恭平 古澤 遥							鈴木 瑠理子			
		コロイド・高分子物性学	西尾 文貴	青山 柚里奈 野場 亮汰								関 友崇	
		生命分子構造学	小藤 加奈 齋藤 泰輝		柚木 康弘 與語 理那								
		分子生物薬学		川尻 愛子 中野 友香									
		薬物送達学	小松 美徳 LIU JIN			石川 治雄 善田 直樹			後藤 瑛一				馬 佳情 (外国人研究生)
		マイクロRNAゲノム創薬学											

専攻	講座	分野	学年		博士前期課程			博士後期課程			博士課程				非正規生	
			1年	2年	1年	2年	3年	1年	2年	3年	4年					
医療機能薬学	医療分子機能薬学	生薬学	許 鑫 近藤 泰嗣 倪 昊	大野 雄也 鈴木 卓馬 村口 真凜			張 伏子 山田 亜紀							小西 徹		
		衛生化学	滝藤 遥希 藤岡 直人	北野 拓真 小林 正都					森川 ありさ							
		遺伝情報学	大石 結香 合田 凌也 宮原 彰太	小林 純果 坂元 健太郎 志水 良亮			福島 真 西浦 久達				稲垣 佑都			野木森 拓人		
		細胞分子薬効解析学	小澤 拓海 澤井 優輝 楯野 真也	稲垣 奏 栗栖 紘基 神藤 秀基 前田 和輝		山村 英斗	佐伯 尚紀	近藤 るびい	鈴木 貴久	野田 さゆり	川崎 桂輔					
		病態生化学	石井 圭介 大嶋 智葉 興梠 勝成	梅本 銀河 奥川 英介		荻野 ひまり				近藤 佑多				山影 祐子		
	医療薬学	薬物動態制御学	難波 莉子	秋野 翔伍 篠田 裕太郎 竹中 理沙 田嶋 柊也												
		病態解析学	白川 茉由 安富 栄人	大塚 勇斗 島内 皐暉					近藤 崇雄							
		細胞情報学	渡辺 信	杉田 直央 住田 丈典 筒井 聖人 徳川 宗成			西川 佐紀子 Baatar Bolormaa		福浦 啓史				都築 香里 川原田 祐貴			
		神経薬理学	岩城 杏奈	石崎 千晶 稲波 千尋 大森 翔太 山口 翔	高 天翔		矢野 裕恭 山田 彬博 佐藤 由美	中川 寛之	飯尾 彩加 宮本 啓補							
		レギュラトリーサイエンス 医薬品安全性評価学	落部 達也 早瀬 稔起 松本 貴大	榎野 隆太		後藤 貴浩	浅野 邦仁 八木 聡美 野中 友香 池田 貢		渡邊 崇							
		病院薬剤学	下井 涼平	森 泰毅			早川 優子	富田 なつみ 長水 正也	前田 琴美							
		臨床薬学	小川 勇 外山 智視	中西 杏菜 水野 翔太 山下 美紗季	杉本 章 TSEDENBAL NARANTUYA 邱 施萌		小枝 暁子 坂本 栄 近藤 聡志 齊藤 将之	野田 雅人		青木 啓将 成田 敦貴		榑原 明美 堺 陽子 堀場 亜佐子 奥村 啓樹 小野里 太智 壁谷 知樹				

専攻	講座	分野	学年	博士前期課程		博士後期課程			博士課程				非正規生	
				1年	2年	1年	2年	3年	1年	2年	3年	4年		
		腫瘍制御学			藤川 遥加					三谷 文美絵				
		加齢病態制御学												
		医薬品質保証学		小林 健也										
		生体システム制御学												

平成30年度卒業研究実習研究室配属

分野	薬学科			生命薬科学科	
	4年	5年	6年	3年	4年
薬化学	安藤 雄大	岡 由実奈	鈴木 あゆみ	倉地 彩花 中嶋 雄哉 山口 遥己	鈴木 脩平 中村 旭良 古瀬 友梨
精密有機反応学	上松 昌幸	吹上 雄大	龍田 直輝	橋本 英典	大谷 紘生 矢野 雄輝 山口 真史
薬品合成化学	服部 泰之	木村 昂平	加藤 美里 木村 文香 坂上 友花梨 中津川 瑛美 鳴神 大祝	近藤 直記 高柳 優太	大田 陽野 小林 誠 山下 智圭
機能分子構造学			市原 淳一朗 小島 剛史 山田 夏海		
生体超分子システム解析学	井倉 利佳子 篠田 桃 寺口 昌伸 那須 友葉	井原 敦思 川添 拓朗 小坂 朱里 與那覇 和希	川合 皓征 成瀬 美結 牧原 未来 松村 綾子 中田 康介	近藤 大介	寺本 光 二宮 里帆
コロイド・高分子物性学	赤井 志帆 駒沢 穂乃佳 坂本 万由子 南 まどか	山本 和史 大矢 絢香 竹田 優志 福嶋 文徳	曲 嘉 岸田 孝一 近藤 陽子 藤波 さやか 松浦 侑輝 山本 瑠璃	井岡 未優 石神 瑛圭 山田 望	佐藤 結 藤田 みのり 三木 裕之
生命分子構造学	渡辺 東紀男	シム ジンボ	成 徳鏞 松村 由佳 吉田 早希 姫田 美咲	山田 梨乃	梅澤 英美子 佐々木 雄大
分子生物薬学	金高 陸人 高橋 勇人 種子島 智哉 森 千伽子	佐藤 希帆 徐 美香 竹本 龍介 中村 優里	池田 雪那 飯田 萌子 大村 隆之 北村 葵 田部井 寿隆 松尾 奏江	大田 雄大 中本 遥菜 森田 敬子 和田 万理子	國松 滯奈 林 直希 松本 悠希 山畑 育子
薬物送達学	梶屋 昌史 岸 花笑 桑田 絵里子 玉越 知樹	伊藤 恵里奈 北原 恵 鯉江 真帆	浦野 真帆 川口 恵里奈 林 直美 森村 知紗 吉村 夏実	井上 智貴 花木 彩香 山本 菜緒	神谷 悠乃 古閑 健人 近藤 康人 中村 和哉
マイクロRNAゲノム創薬学					
生薬学	石井 智子 玉田 彩 野村 史夏 春田 綾乃	杉浦 由姫 十川 志穂 平澤 明日香 三田村 実秋	浅井 恒志 柏原 郁恵 セイエト アイシャ アンバル 谷村 陽平 中崎 絢子	新谷 円華	奥村 雄一 牧 靖人

分野	薬学科			生命薬科学科	
	4年	5年	6年	3年	4年
衛生化学	井上 ひかる 岸田 啓太郎 佐々木 駿吾 山田 理子	竹内 亮人 林 知仁 前原 有紀子 元木 優也	荒岸 洋輝 田中 雄一朗 西村 太一 蓮池 浩太	伊藤 佑真	金光東
遺伝情報学	塩倉 翔 豊原 有希	飯塚 悠 永川 由依 笠井 詩織 中山 綾乃	大角 愛 菊川 拓磨 坪井 奈緒子 野間 崇秀 村上 のぞみ	田中 幸嗣 中島 朋香	植杉 周平 菅野 大志 山口 奈都美
細胞分子薬効解析学	柴原 映美菜 島 菜摘 藤原 萌園	石田 昌 平井 聖司	近澤 佳南	片山 大樹	黒瀬 梨沙 出口 朱理 三島 寛貴
病態生化学	渥美 奈央	石塚 拓巳 森 由紀子 上原 理加	横川 美丹衣	加藤 由真	重信 奉文 中尾 洋介 中島 鼓美
薬物動態制御学	唐木 祐理恵 種山 侑希 矢嶋 陽菜	山下 紗瑛奈 山原 由梨香 山本 有沙	黒田 大祐 高橋 駿介 武井 秀樹 宮崎 早希 村田 彩乃	細岡 晶 三宅 浩平	奈良 佳幸 間竹 勇
病態解析学	木原 星衣 木村 優花 戸崎 友梨 益川 成美	大石 大祐 太田 桃花 木村 友香 村上 絢香	井手 さくら 榎本 拓也 大田 晴香 杉野 早貴 土居 紋子	櫻木 章 曾山 樹	泉 和弥
細胞情報学	油谷 綾夏 市岡 美友紀 金尾 佳美 堀 優華	内田 滂 尾関 優 桂川 結貴 吉田 航	長坂 真衣 丹羽 奈津美 野木村 藍 安田 早希 吉田 真南香	梶田 昂毅 三浦 真仁	金子 沙羅 柏原 翔陽 菅野 真由美 水野 佑哉
神経薬理学	小樋 翔太 鈴木 博子 向山 凜 村上 千翔子	原 純太	小林 里帆	中井 槇也 羽鳥 聖七 山崎 久朗	上田 莉奈 加藤 善章 渡邊 僚介
医薬品安全性評価学	黒田 侑花 坂部 彩 高田 和季 半田 有紀	甘利 涼香 大矢 和幸 中嶋 琢人 宮路 康平	植松 紘規 榊原 由子 高橋 祐太 富吉 紘史 武藤 樹也	鈴木 政晴	亀位 涼
病院薬剤学	中島 晃 森 菜々香 森 悠香梨 吉川 麻優 佐野 里沙子	川田 龍哉 日高 隼也 松田 夏鈴 三宅 玲香 山内 歌恋	村瀬 美和 土屋 絵莉子 佐々木 菜央 鈴木 純 中田 明代 平野 花奈	柴山 真純	西川 敦士
臨床薬学教育研究センター	伊藤 匠 神崎 稚菜 小林 華奈 田中 日向子 田中 李奈 山下 みずき	小田切 州広 神納 由美 瀬浪 孟明 樽井 亮太 中山 瑞希 山口 京子	沖村 里咲 木田 有里子 西村 祐香 堀池 理沙 三好 真琴 八木 亮夕子	徳島 優樹 松村 将成	由井 宏明

平成30年度研究員名簿

許可NO.	配属分野	氏名
1	生薬学	Kübra Uzun
2	生薬学	Yasin Genç
3	薬化学	荒井 卓也
4	病態解析学	高須 倫彦
5	病態解析学	齊藤 美加
6	病態解析学	小泉 恵子
7	病態解析学	後藤 洋
8	病態解析学	垣田 博樹
9	生命分子構造学	石井 健太郎
10	生命分子構造学	平松 佳永
11	生命分子構造学	千田 紀代美
12	生命分子構造学	服部 久美子
13	生命分子構造学	山口 拓実
14	生命分子構造学	矢木 真穂
15	生命分子構造学	谷山 怜子
16	生命分子構造学	谷中 冴子
17	生命分子構造学	鈴木 達哉
18	細胞情報学	中田 佳宏
19	細胞情報学	吉田 康子
20	臨床薬学	三木 健義
21	神経薬理学	小笠原 治
22	生命分子構造学	岡田 知
23	神経薬理学	歌 大介
24	生薬学	太田 美里
25	生薬学	趙 伯陽
26	生薬学	白 帆
27	生薬学	大渡 勝史
28	遺伝情報学	山本 肇
29	薬化学	國枝 一輝
30	薬化学	小口 瑠菜
31	生薬学	高 勝莉
32	薬物動態制御学	石黒 雅江
33	薬物動態制御学	山本 俊輔
34	神経薬理学	市之瀬 敏晴
35	薬物送達学	Shaimma Mohamed Ramadan Elabd Ibrahim
36	生体超分子システム解析学	井上 悠
37	生体超分子システム解析学	足立 浩章
38	生体超分子システム解析学	宮地 克真
39	病院薬剤学	長崎 彩子
40	病院薬剤学	片岡 智哉
41	医薬品安全性評価学	長部 誠
42	機能分子構造学	森田 友香
43	神経薬理学	竹内 雄一
44	臨床薬学	堀 英生
45	生命分子構造学	本田 怜奈
46	生命分子構造学	関口 太一朗
47	病院薬剤学	真川 明将
48	病院薬剤学	加藤 順子
49	臨床薬学	美馬 伸治
50	薬品合成化学	梁 宇源
51	生薬学	許 玲玉
52	薬物送達学	彭 姝瑗
53	医薬品安全性評価学	魏 捷
54	病院薬剤学	三村 佳久
55	病院薬剤学	中村 大学
56	病院薬剤学	須藤 遥
57	生命分子構造学	水野 まい子
58	細胞分子薬効解析学	北原 文乃
59	臨床薬学	李 亜玲

教員採用・昇任・退職

区分	分野	補職名	氏名	辞令年月日	前職・移動先等
採用	薬物動態制御学	助教	山城 貴弘	H30.4.1	名市大博士後期修了
採用	分子生物薬学	助教	喜多 泰之	H30.4.1	創薬基盤科学研究所 特任助教
採用	臨床薬学	特任助教	堺 陽子	H30.4.1	愛知学院大学 助教
採用	分子生物薬学	助教	中津海 洋一	H30.4.1	九州大学 生体防御医学研究所 分子医科学分野
採用	レギュラトリーサイエンス	特任助教	安部 賀央里	H30.4.1	名市大博士研究員
採用	創薬基盤科学研究所	特任助教	水上 智晴	H30.4.1	名市大博士修了
昇任	薬物動態制御学	講師	保嶋 智也	H30.4.1	助教
昇任	細胞分子薬効解析学	教授	山村 壽男	H30.4.1	准教授
昇任	細胞分子薬効解析学	講師	鈴木 良明	H30.4.1	助教
昇任	生薬学	講師	石内 勘一郎	H30.7.1	助教
昇任	分子生物薬学	講師	中津海 洋一	H30.7.1	助教
退職	病院薬剤学	特任助教	須藤 遥	H30.8.31	薬剤部正規職員
退職	病院薬剤学	講師	前田 康博	H30.9.30	藤田保健衛生大学
退職	マイクロRNAゲノム創薬学	准教授	藤井 陽一	H31.3.31	一身上の都合
退職	病院薬剤学	特任助教	和知野 千春	H31.1.31	薬剤部正規職員
退職	病院薬剤学	特任助教	高梨 馨太	H31.3.31	横浜薬科大学薬学部薬学教育センター 助教
退職	分子生物薬学	特任助教	喜多 泰之	H31.3.31	一身上の都合
退職	創薬基盤科学研究所	特任助教	水上 智晴	H31.3.31	就職

職 員[2018年4月1日現在]

総合機器分析施設

衛生技師：加藤 節子，岩澤 加奈

薬学部事務室

事務長：井上 誠

学務係長：森 薫

主 事：林 香里，佐々木 綾

業務士：山田 俊也

事務系職員：浅井 希美，諸岩 陽子

再雇用職員：丹羽 隆

総合情報センター田辺通分館-薬学部

分館長：糸 和彦（神経薬理学分野教授兼務）

司 書：吉根 佐和子

事務系職員：荻原 彩乃，佐橋 まゆみ

職員の変動（2018年3月31日～）

異 動：林 香里（2018年4月1日転入 ←医学・病院管理部経営課
契約調達係より）

浅井 希美（2018年4月1日転入 ←学生課学生支援係より）

丹羽 隆 （2018年3月31日退職→再雇用職員に）

松永 佳子（2018年3月31日退職）

宮田 晴子（2018年3月31日退職→パートタイム職員に）

杉 七瀬（2018年3月31日退職）

2018 年度 名古屋市立大学大学院薬学研究科 自己点検・評価報告書

自己評価・点検委員会

担当者： 湯浅博昭（責任者），伊藤佐生智，寺坂和祥